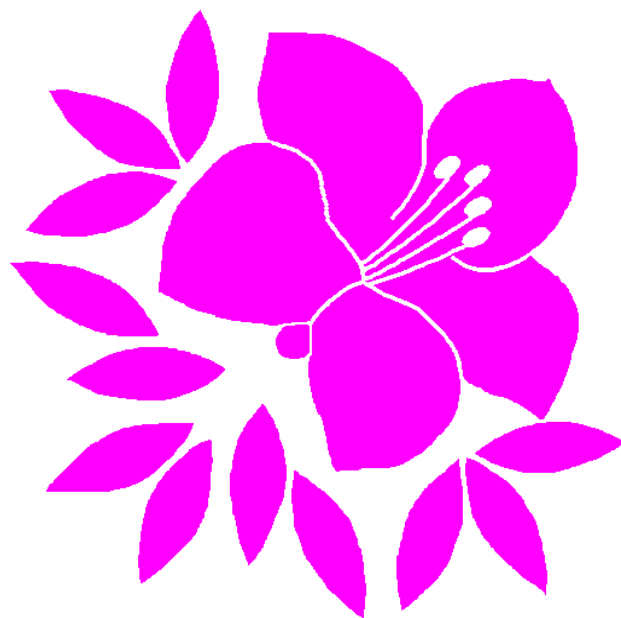


平成25年度

病院年報



泉大津市立病院

はじめに

みなさま、いつも泉大津市立病院の運営に温かいご支援、ご協力をいただき、深く感謝いたします。少し遅くなりましたが、ようやく平成25年度の年報が完成しましたのでお届けします。

顧みれば、平成25年は何よりもまず、地方公営企業法の全部適用へと大きく舵を切った1年でありました。

そうした、意味において、平成25年度は泉大津市立病院にとって大きな意味を持つ年だったと思います。そしてまた、奇しくもそうした激動の中、本院の院長に就任した私にとっても記憶に残る1年であったと言えます。

私は、それに地方公営企業法の全部適用に先立つ6月1日に院長に就任しましたが、8月にはその後の病院運営の指針となる緊急対策プログラムを策定し、そして10月には全適へと移行するとともに、新たに泉大津市病院事業管理者に宮下律子先生をお迎えし、管理者との二人三脚で緊急対策プログラムの推進に努めてまいりました。

おかげをもちまして平成25年度の収支においては、その他医業収益（N A S V A病床受託費）等の収益の増加、委託費等経費削減により、前年度より大きく収支改善いたしましたが、安定的な経営を図るためには、たゆまぬ努力が必要だと痛感しております。

目まぐるしく変化する医療情勢の中、まだまだ厳しい状況には変わりありませんが、今後も公設公営の病院として、泉大津市民をはじめとする地域の皆様に安心できる医療を提供することを第一に、「1. 子どもと女性に優しい医療」、「2. 内視鏡を駆使した消化器病診療」、「3. 生活習慣病に対するチーム医療」に、「4. 高齢者に優しい病院」というあたらしい目標を加え、さらにより一層、専門性を高めるとともに、公立病院として地域のみなさまに良質の医療を提供してまいりたいと思いますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

平成28年12月

院長 西尾 順子

基 本 理 念

1. 良質の医療を提供し信頼され安心感を与える医療を実践します
2. 地域の中核病院として地域全体の医療・福祉の向上に寄与します
3. 常に向上心を持ち、協調の精神でチーム医療をおこないます

基 本 方 針

1. 当院は、患者さんの立場に立ち、患者さんの権利を尊重した医療を実践します。
2. 当院は、急性期医療を中心に地域医療を行います。
3. 当院は、医療事故を防止し、医療の安全確保に努めます。
4. 当院は、地域の医療機関と協力し、医療連携を推進します。
5. 当院は、効率的な医療を行い、経営の健全化に努めます。
6. 当院は、医療の質の向上のため研鑽に努めます。

職 員 目 標

1. 社会性 良識ある社会人となろう
2. 信頼性 信頼される医療人となろう
3. 協調性 相互理解と協調の気持ちを持とう
4. 創造性 向上心を持ち、創造的な考え方を持とう
5. 効率性 効率性を考え、経済性の発揮に努めよう

泉大津市立病院

..... 1

病院の沿革

1. 病院の沿革

昭和2年4月	和泉伝染病院創設	48年4月	結核病棟70床を一般病棟に変更 (一般病床計215床)
5年6月	和泉公民病院創設 初代院長 樋渡雋二郎就任		整形外科新設
13年2月	第二代院長 岩鶴 龍三就任	50年11月	手術室、薬局、中央材料室、業務課(鉄筋コンクリート三階建)完成
14年3月	第三代院長 比留間恵三就任		
16年1月	眼科新設	52年4月	第八代院長 西村譲就任
17年4月	泉大津市制施行	6月	リハビリテーション室開設
7月	第四代院長 須賀 進就任	53年5月	基準看護(特一類)実施
20年11月	第五代院長 小林正一就任	54年8月	外科診療室改装
21年4月	第六代院長 船松達一就任	10月	産科授乳室新設
23年8月	第七代院長 梅田悦二就任	55年6月	病院創設50周年、年誌発刊
24年12月	看護婦宿舎(木造瓦葺平家建)完成	58年10月	市立病院外来棟完成
25年5月	公立和泉病院に改称し総合病院として発足(内科、外科、婦人科、眼科、小児科、耳鼻科、放射線科)	平成3年11月	第九代院長 岡村光雄就任 院内に病院整備計画院内検討委員会を設置
27年3月	第五病棟木造スレート瓦葺平家建完成	6年5月	看護婦宿舎着工
28年5月	別館木造スレート瓦葺二階建完成	7月	病院整備工事着工
30年10月	完全給食実施	7年2月	看護婦宿舎竣工
32年3月	本館鉄筋コンクリート三階建完成	8年2月	北棟(鉄骨鉄筋コンクリート地上5階地下1階)竣工
33年10月	解剖室新設	9年4月	第10代院長 栗本博史就任
35年12月	西館鉄筋コンクリート三階建完成	10年2月	南棟(鉄骨鉄筋コンクリート地上7階地下1階)竣工
37年6月	第五病棟連絡通路の改築	10年5月	開院 病床数230床(一般215・伝染15床)
38年4月	公立和泉病院分院和泉市に開設	10年10月	グラウンドオープン
40年3月	伝染病院(鉄筋コンクリート二階建)完成	11年4月	第11代院長 岡澤 崇就任 伝染病棟(15床)廃止 病床数215床(一般)
42年3月	結核病棟新築(鉄筋コンクリート二階建)	11年10月	内科救急告示
44年6月	中央棟(鉄筋コンクリート四階建)完成 職員院内食堂新設	12年4月	小児科救急告示
46年12月	看護婦宿舎新築(鉄筋三階建)	14年10月	院内全面禁煙実施
47年4月	泉大津市立病院に改称	15年10月	管理型臨床研修病院に指定
		16年6月	病院機能評価受審
		16年9月	第12代院長 飯田さよみ就任
		16年11月	病院機能評価認定
		16年12月	内視鏡センター設立

- 平成18年 9月 脳神経外科新設
19年 4月 消化器病センター設立
20年 4月 消化器内科新設
21年 7月 第13代院長 永井 祐吾就任
9月 NICU棟（鉄骨造地上4階）竣工
10月 新生児内科新設
地域周産期母子医療センター設立
病床数230床
病院機能評価受審
22年 4月 病院機能評価認定
23年 2月 院内保育所新設
24年11月 NASVA病棟開設
25年 6月 第14代院長 西尾 順子就任
25年10月 地方公営企業法全部適用
事業管理者 宮下 律子就任



..... 2

病 院 の 現 況

概要と現況

職員の状況

病院各階の配置

職員構成

院内組織機構図

災害救助体制及び出勤表

平成23年度各種委員会

2. 病院の現況

〔概要と現況〕

- (1) 名称 泉大津市立病院(おづ病院)
 所在地 泉大津市下条町16番1号
 敷地面積 10,470.71 m²
 建築面積 3,591.72 m²
 延床面積 19,312.39 m²
- (2) 診療科目 内科・消化器内科・外科・内視鏡外科・脳神経外科・整形外科(リハビリテーション)・産婦人科・小児科・新生児内科・眼科・耳鼻咽喉科・皮膚科・泌尿器科・麻酔科・放射線科・健診科

(3) 病床数 230床

(4) 病棟

病棟	病床数
3階病棟	55床
4階病棟	55床
5階病棟	54床
6階小児専用病棟	23床
6階一般病棟	28床
N I C U 棟	15床

(5) 附属施設

- 名称 泉大津市立病院看護師宿舎
 (コーラルハウス)
 および院内保育所(おづキッズ)
- 所在地 泉大津市下条町17番37号
- 構造・規模 鉄筋コンクリート造3階建
- 敷地面積 899.02m²
- 建築面積 413.56m²
- 延床面積 1,060.95m²
 (うち院内保育所84.00m²)
- 室数 28室

〔職員の状況〕

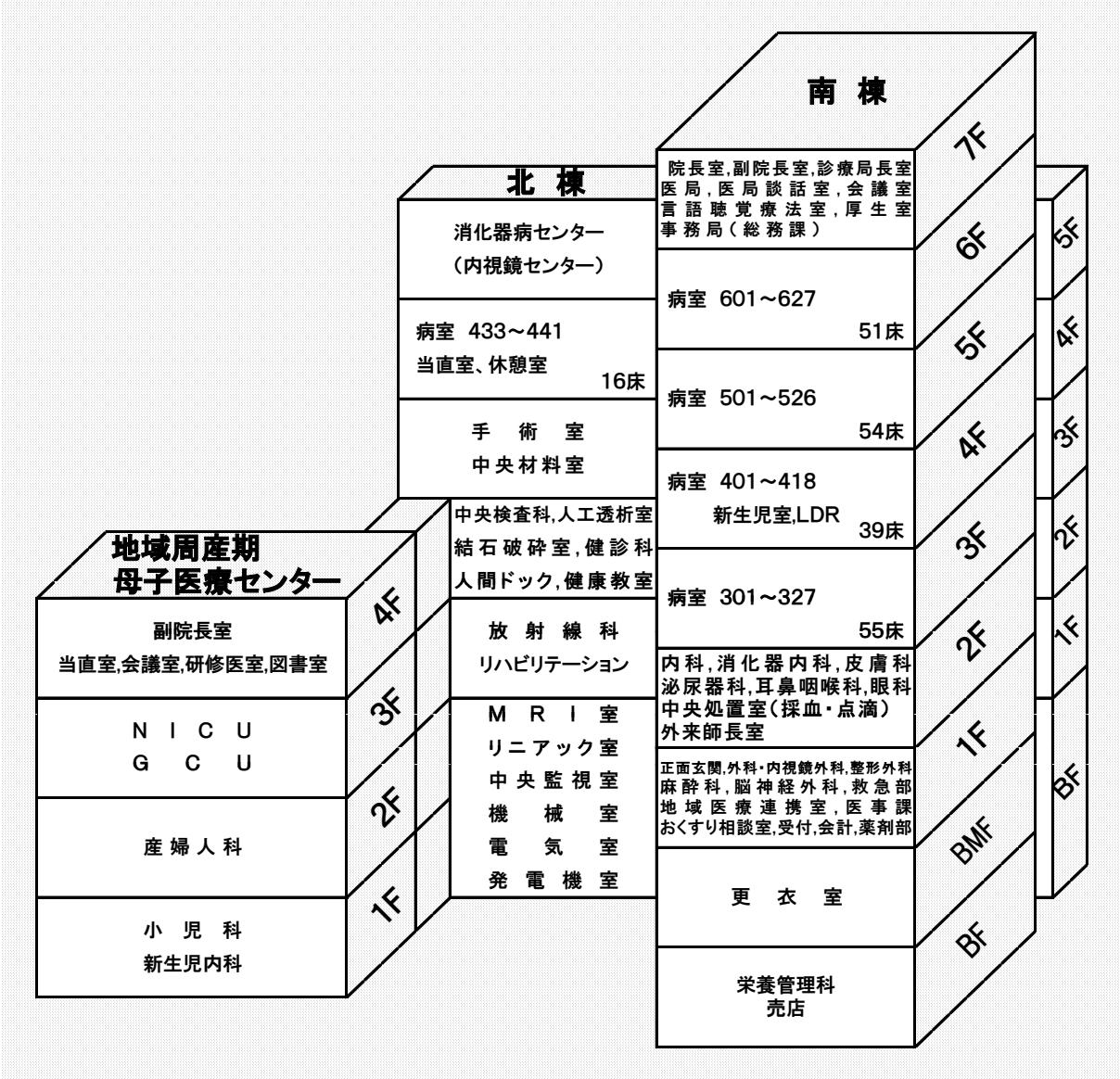
- 事業管理者 宮下 律子
 病院長 西尾 順子
 副院長 高津 徹
 " 宇田 光伸
 " 押谷 伸英
 " 金井 真
 " 梶川 博司
 " 岩橋 誠
 事務局長 森田 雅明
 看護部長 鳥羽 敏子
 薬剤部長 田辺 和史

(平成26年3月末日現在)

- 医師 49名
 正看護師 193名
 准看護師 2名
 医療技師 43名
 事務員 18名
 労務員等 1名
 M S W 2名

(平成26年3月末日現在)

● 病院各階の配置



[職員構成]

平成26年3月末日現在

区 分		職 員 数							計
		医 師	正 看	准 看	看 助	医 技	事 務	労 務	
病院事業管理者		1							1
療 局	内 科 部	7				2			9
	消化器内科	9							9
	外 科 部	7							7
	脳神経外科部	1							1
	整形外科部	1 (1)				10			11
	小 児 科 部	4							4
	新生児内科	3							3
	産婦人科部	6							6
	眼 科 部	2				2			4
	耳鼻いんこう科部								0
	皮 膚 科 部	2							2
	泌尿器科部	2							2
	麻 酔 科 部	2							2
	放射線科部	2				9			11
	健 診 科 部	1 °							0
	中央検査科部	1 °				10			10
	薬 剤 部					9			9
	栄養管理科部	1 °				1			1
看 護 部	看 護 部 長		1						1
	三 階 詰 所		27	1					28
	四 階 詰 所		28	1					29
	四 階 北 詰 所		15						15
	五 階 詰 所		26						26
	六階一般詰所		21						21
	六階小児詰所		18						18
	N I C U 詰 所		16						16
	三階詰所GCU		15						15
	外 来		9						9
手 術 室		16		1				17	
事 務 局	局長・理事・次長						3		3
	総 務 課						9		9
	医 事 課						5		5
地域医療連携室		1 °	1				3		4
計		49 (1)	193	2	1	43	20	0	308

()は常勤嘱託
°は兼職

〔院内機構組織図〕

平成26年3月現在
()内は兼職

病院
事業
管理者

院長 — 副院長

診療局
(局長) — 次長 — 参事

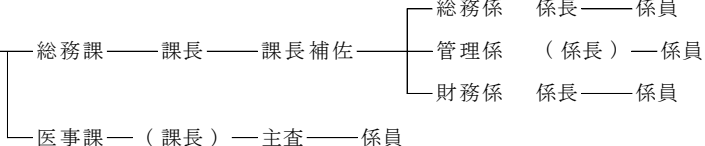


地域医療連携室 (室長) — 室長補佐 — 係員

看護部
看護部長 — 副部長 — 管理師長



事務局
局長 — 理事 — 次長



災害救助体制及び出勤表

(平成26年3月末日現在)

A 号 動 員	B 号 動 員	C 号 動 員	備 考	
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 15%;"> <p style="text-align: center;">本 部 長 (院 長)</p> </div> <div style="width: 85%;"> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p style="text-align: center;">副本部長 (副院長)</p> </div> <div style="width: 50%;"> <p style="text-align: center;">外 来 保安・救護 (副院長) (診療局長) (薬剤部長) (看護副部長)</p> </div> </div> </div> </div>	<p style="text-align: center;">医 療 班 (診療局部長) (" 副部長)</p>	<p style="text-align: center;">医師全員</p>	<p style="text-align: center;">患者の救出及び負傷者の の手当て</p>	
	<p style="text-align: center;">救 護 班 (手術室師長)</p>	<p style="text-align: center;">外来及び手術室の 看護師</p>		
	<p style="text-align: center;">病 棟 保安・避難・誘導 (診療局次長) (看護部長)</p>	<p style="text-align: center;">避難誘導班 (技師長) (技師長補佐) (各病棟師長) (診療局参事)</p>	<p style="text-align: center;">病棟の 看護師・看護助手 薬剤部・放射線科・ 中央検査科部等の 医療技術員全員</p>	<p style="text-align: center;">安全場所への避難・誘導</p>
	<p style="text-align: center;">副本部長 (事務局長)</p>	<p style="text-align: center;">総 務 部 (総務課長)</p>	<p style="text-align: center;">庶 務 班 (総務課総務係長)</p> <p style="text-align: center;">通信連絡班 (総務課総務係長)</p> <p style="text-align: center;">資材工作班 (総務課管理係長)</p>	<p style="text-align: center;">総務課総務係全員</p> <p style="text-align: center;">総務課管理係全員</p>
<p style="text-align: center;">防 災 部 (事務局理事)</p>	<p style="text-align: center;">防 災 班 (医事課長)</p>	<p style="text-align: center;">医事課 全員</p>	<p style="text-align: center;">安全場所の確保 避難者の安全措施</p>	
	<p style="text-align: center;">給 食 班 (栄養管理科部 技師長補佐)</p>	<p style="text-align: center;">栄養管理科部全員</p>	<p style="text-align: center;">災害者等の食料確保 及び供給</p>	

※ 警報発令時又は震度4以上の地震発令時は、A号動員とする
 ※ 担当任務は、本部の指令に基づき臨機応変の措置を取ることもある

平成25年度 各種委員会

- 1 . 統括会議
- 2 . 運営会議
- 3 . 治験審査委員会
- 4 . 手術室委員会
- 5 . 医療安全管理委員会
- 6 . 医療安全管理部門
- 7 . クリニカルパス推進委員会
- 8 . 輸血療法委員会
- 9 . D P C ・保険請求対策委員会
- 1 0 . 診療情報管理委員会
- 1 1 . 放射線障害防止委員会
- 1 2 . 院内感染対策委員会
- 1 3 . 学術委員会
- 1 4 . 薬事委員会
- 1 5 . 救急委員会
- 1 6 . 臨床検査委員会
- 1 7 . 臨床研修管理委員会
- 1 8 . 職員衛生委員会
- 1 9 . 医療ガス安全管理委員会
- 2 0 . 職員倫理委員会
- 2 1 . 化学療法委員会
- 2 2 . 周産期センター運営委員会
- 2 3 . 消化器病センター運営委員会
- 2 4 . 接遇プロジェクト
- 2 5 . 病院機能評価受審プロジェクト
- 2 6 . 褥瘡対策チーム
- 2 7 . 栄養管理委員会 (N S T)
- 2 8 . 緩和ケアチーム
- 2 9 . 呼吸ケアチーム
- 3 0 . 糖尿病療養指導委員会
- 3 1 . 患者支援取組評価委員会
- 3 2 . N A S V A 委託病床運営委員会
- 3 3 . 勤務医負担軽減委員会
- 3 4 . 透析機器安全管理委員会
- 3 5 . 個人情報保護委員会
- 3 6 . 人権・虐待対策委員会
- 3 7 . 精度管理委員会
- 3 8 . 災害対策委員会

3

診療局の現況

内科、消化器内科
外科・内視鏡外科
消化器病センター
脳神経外科
整形外科
小児科
新生児内科
皮膚科
泌尿器科
産婦人科
眼科
耳鼻咽喉科
麻酔科
放射線科
健診科
中央検査科

3. 診療局の現況

内科、消化器内科

【スタッフ】

内科：破戸部長、伊東部長、野村副部長、岡本副部長、設楽副部長、李副部長
津田医長（25年10月～）

消化器内科：押谷副院長、山形次長、格谷部長、青松副部長、早川副部長、黄田医長
南野医員、橋村医員、林医員

【概要、実績】

外来延べ患者数44,265人(1日平均181.4人 前年度比14.7人増) 入院延べ患者数25,288人(1日平均69.3人 前年度比0.9人増)と外来入院とも患者数は順調に増加した。(表1)

入院患者疾患別分類を見ると、ほぼ全部の分野で患者数は増加したが、なかでも、循環器、腎尿路系での増加率が目立つ。(表2) 25年10月より腎臓内科医2人体制となり、透析部門で午前、午後2クール施行可能となった。また、希望者には病院車による送迎サービスを開始した。透析導入から維持透析までの体制が整った。

表1 過去5年間 延べ患者数

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
外来	37,052	38,779	40,460	40,845	44,265
(一日平均)	153.1	159.6	165.8	166.7	181.4
入院	14,568	22,784	24,980	24,959	25,288
(一日平均)	39.9	62.4	68.3	68.4	69.3

表2 入院患者疾患別分類

	23年度	24年度	25年度
消化器	501	506	538
呼吸器	220	254	295
循環器	92	109	138
新生物	160	180	207
感染症	100	102	96
内分泌・代謝	152	168	194
腎・尿路	68	108	147
神経・精神・筋	27	52	53
血液・免疫	17	23	31
その他	117	112	91
総数	1,454	1,614	1,790

検査件数では、カプセル内視鏡、小腸内視鏡検査はやや減少したが、上部下部消化管内視鏡検査総数は順調に増加した。超音波検査では腹部はやや減少したが、心臓、甲状腺は、増加した。また、冠動脈C T、ホルター心電図は増加した。（表3）

表3 内科検査件数

	23年度	24年度	25年度
レントゲン			
上部消化管	39	14	9
注腸	17	10	8
胆のう	0	0	0
骨密度	117	145	137
冠動脈C T	49	78	88
内視鏡			
上部消化管	3,727	3,641	3,871
下部消化管	2,151	2,081	2,158
カプセル	22	13	8
小腸	76	70	34
気管支鏡	8	48	36
超音波			
腹部	3,098	3,004	2,828
心臓	1,182	1,198	1,397
頸動脈	251	240	244
甲状腺	213	203	246
心電図	2,320	2,317	2,500
ホルター心電図	133	126	152
心臓カテーテル	8	12	10
脈波図	383	323	305
ペースメーカー	4	4	4

消化器疾患入院患者では大腸ポリープが202人と目立った。当科では原則外来にて大腸ポリペクトミーを施行しているが、ポリープの大きさや個数により当日1泊入院としている。当科では、止血術やESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）など内視鏡治療に積極的に取り組んでおり、胃癌、食道胃静脈瘤、胃十二指腸潰瘍なども目立った。また泉州地域では数少ない炎症性腸疾患の専門家のいる病院として、潰瘍性大腸炎やクローン病の紹介、入院も多数受け入れた。（表4）

表4 入院患者 主な消化器疾患

	23年度	24年度	25年度
食道癌	9	4	6
食道炎	6	6	9
食道胃静脈瘤	17	22	21
胃癌	46	36	65
胃 十二指腸潰瘍	38	44	40
大腸癌	14	19	13
大腸ポリープ	146	160	202
腸炎	66	56	75
虫垂炎	2	1	2
潰瘍性大腸炎	20	10	14
クローン病	9	18	19
腸閉塞	26	20	23
肝臓癌	30	44	49
慢性肝炎	25	2	4
肝硬変	57	57	29
その他肝疾患	28	43	27
胆石症 胆のう炎 総胆管結石	35	25	32
胆のう癌 胆管癌	3	11	8
膵臓癌	7	14	6
膵炎	11	11	12
その他	166	207	194
総計	761	810	850

糖尿病部門では月1回の糖尿病教室(表5)、年1回の市民セミナーを行った。
 10日間の糖尿病教育パス入院や糖尿病地域連携パスを引き続き稼働させた。
 また、日本糖尿病療養指導士の資格を持つ看護師、薬剤師、臨床検査技師、管理栄養士、理学療法士で構成された糖尿病療養指導チームで糖尿病診療のチーム医療を行った。

表5 平成25年度 糖尿病教室

日時	テーマ	講師
平成25年 4月17日	こんなにもあるの!? 糖尿病合併症	李医師
5月15日	血糖測定のすすめ	李医師
6月19日	糖尿病から足の病気 ～あなたの足は大丈夫ですか～	李医師 江藤看護師
7月17日	インスリンの使い方 知っていますか ～正しく使えばこわくない	松岡薬剤師
8月21日	糖尿病腎症ってなに?	設楽医師
9月18日	新しいHbA1cの目標値について 今話題の糖質制限ダイエットとは?	李医師
10月16日	運動いつするんですか? 今でしょ!	神谷理学療法士
11月20日	糖尿病についての最近の論文とニュースからの話題 ～生活スタイルについて～	李医師
12月18日	年始に後悔しない食事の取り方	平井管理栄養士
平成26年 1月15日	糖尿病と心血管病	破戸医師
2月19日	生活習慣病と骨粗しょう症	岡本医師
3月19日	シックデイと糖尿病	李医師

【平成25年度業績】

【論文】

伊東友好 「防風通聖散による薬剤性肺炎の一例」
 日本胸部臨床 72巻6号 683-688

【学会、研究会、講演会など】

立花暉夫、伊東友好他、
 「腹部CTで多発性脾SOLを示す近畿地区サルコイドーシス症例の検討」
 第81回日本呼吸器学会近畿地方会 大阪国際交流センター 25年7月13日

野村奈穂、伊東友好、
 「横紋筋融解症・多発臓器障害を伴った重症レジオネラ肺炎の一例」
 第81回日本呼吸器学会近畿地方会 大阪国際交流センター 25年7月13日

野村奈穂、伊東友好、
「横紋筋融解症・多発臓器障害を伴った重症レジオネラ肺炎の一例」
第50回おづカンファレンス ホテルレイクアルスター泉大津 25年11月12日

伊東友好、
「肺炎の診断・治療について」
泉大津市立病院院内講習 25年11月28日

森田隆平、伊東友好、野村奈穂
「手術にて診断し得た非結核性抗酸菌症による肉芽腫にカルチノイドを合併した一例」
第54回日本肺癌学会総会 ホテルニューオータニ 25年11月21日

黄田桂司
「門脈ガス血症に伴った腸炎」
第49回おづカンファレンス ホテルレイクアルスター泉大津 25年5月14日

橋村直英
「消化器疾患の診断と治療
- 内視鏡的摘除+外科的摘除が必要であった多発巨大胃腸石の一例-」
第51回おづカンファレンス ホテルレイクアルスター泉大津 26年2月18日

設楽香織 李英子 岡本圭司 青松和輝 押谷伸英
「虚血性腸炎に潰瘍性大腸炎を発症した血液透析患者の一例」
日本腎臓学会西部学術集会 25年10月11日

外科・内視鏡外科

【概要】

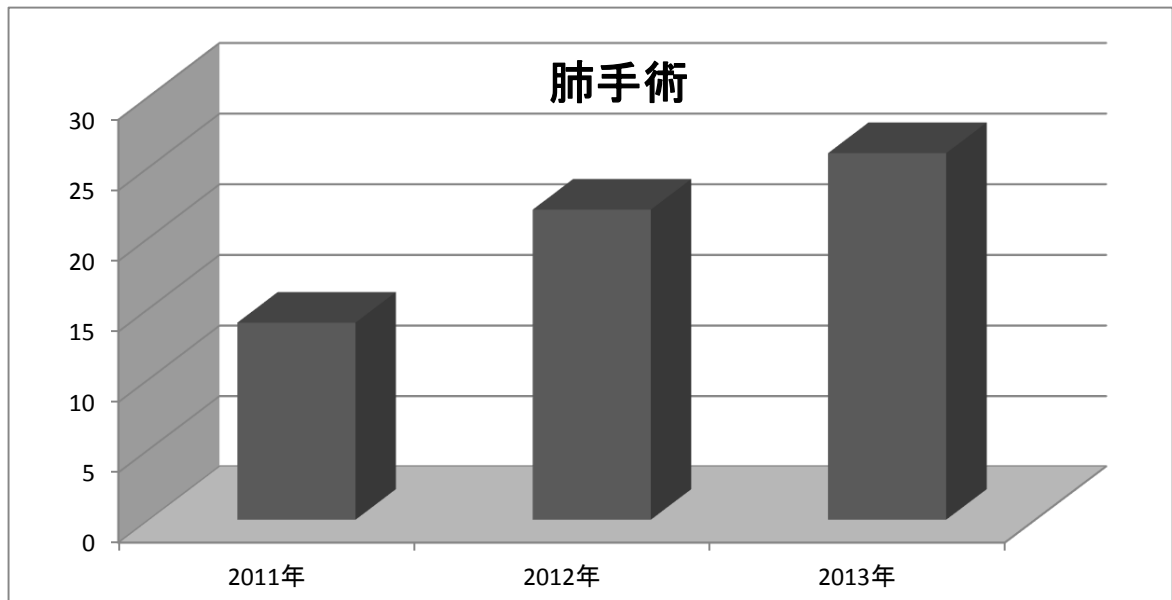
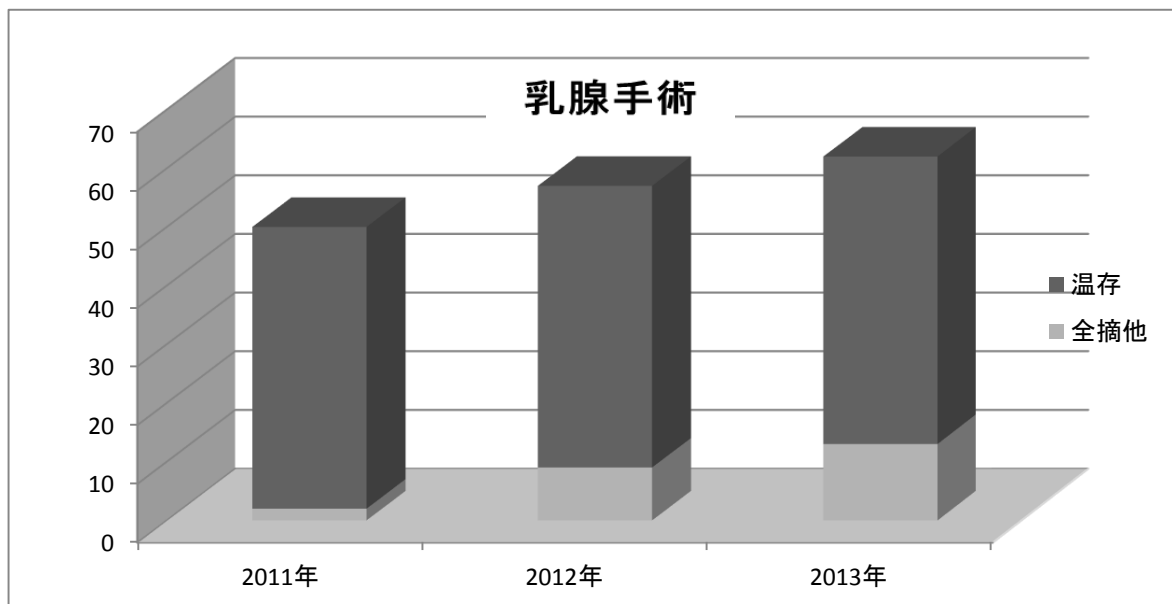
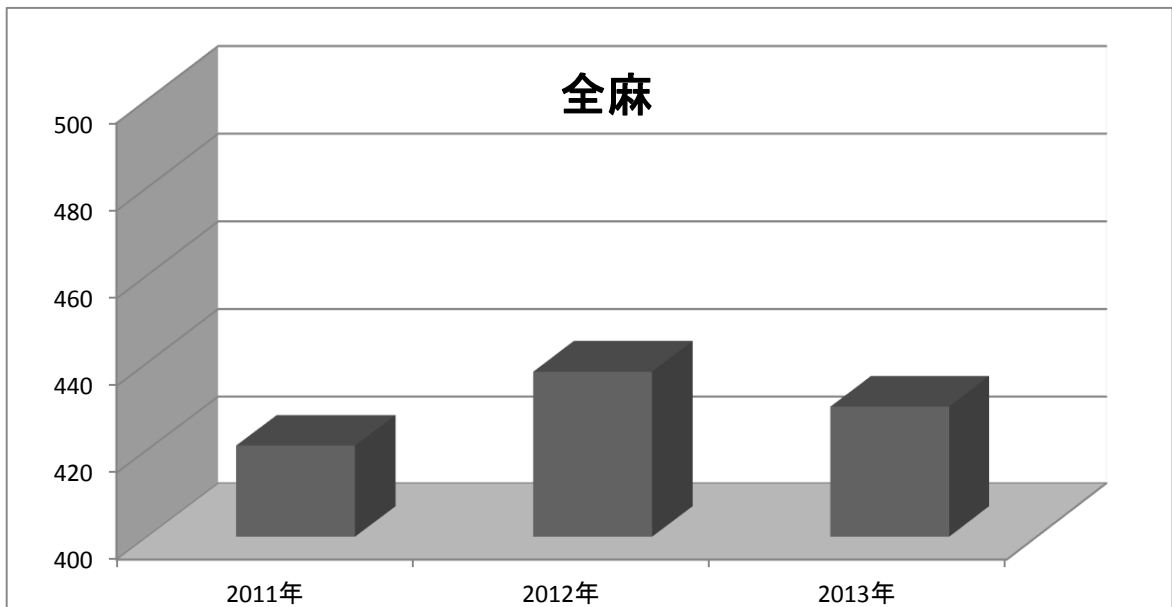
本年度のスタッフは、岩橋誠副院長（平成25年1月より赴任）、野口浩平部長、中禎二副部長、東郷直希副部長、森田隆平副部長、田村耕一医長、合田太郎医長（小児外科）の7名の常勤医師と、上西医師（乳腺・甲状腺外科）、諸富医師（小児外科、大阪市立大学医学部小児外科）の2名の非常勤医師の計9名で診療を行ってきた。当科の業績を振り返ると、年間手術件数とその内の全身麻酔手術件数ともにほぼ横ばいであった（図）。本年度の新たな試みとして食道癌の腹臥位胸腔鏡下手術を導入し、7例の食道癌手術を合併症なく完遂した。また、呼吸器外科手術、乳腺外科手術、小児外科手術件数も着実に増加していた。当院の3本柱である、消化器病診療の充実、子供と女性に優しい病院、生活習慣病対策に加え、更により一層、専門性を高めるとともに、新たに高齢者に優しい病院という方針に合致する医療を行ったと自負している。

今後も、上記理念に沿った地域医療の充実を図り、更なる病診・病病連携を進めていく所存である。

【平成25年度業績】

【学会報告・研究会ほか】

- 1 Goda T, Kubota A, Kawahara H, Yoneda A, Tazuke Y, Tani G, Nakahata K: The clinical significance of intrahepatic cystic lesions in postoperative patients with biliary atresia. *Pediatr Surg Int* 28 (9): 865-868
- 2 岩橋誠
胃術後障害 治療過程で一目でわかる消化器薬物療法
STEP1.2.3: 67-75, 2013. 4
- 3 田村耕一, 白井康嗣, 野口浩平, 東郷直希, 永井祐吾, 岩橋誠
胃癌術後反復性脾摘後重症感染症の1救命例
日本臨床外科学会雑誌 74(5):1168-1172, 2013 【平成25年優秀論文賞：上部消化管領域】
- 4 田村耕一, 岩橋誠, 野口浩平, 中禎二, 東郷直希, 森田隆平, 合田太郎
当院における腹臥位胸腔鏡下食道切除術の経験
第3回泉大津外科の会, 2013. 4, 大阪
- 5 野口浩平, 中禎二, 東郷直希, 田村耕一, 合田太郎, 森田隆平, 岩橋誠
当科における胸腔鏡下腹壁ヘルニア修復術の検討
第26回日本内視鏡外科学会, 2013. 11, 福岡
- 6 田村耕一, 野口浩平, 中禎二, 東郷直希, 森田隆平, 合田太郎, 岩橋誠
当院における術前内視鏡検査で診断を得て腹腔鏡手術を行った小腸病変6例の検討
第26回日本内視鏡外科学会, 2013. 11, 福岡



消化器病センター

～はじめに～

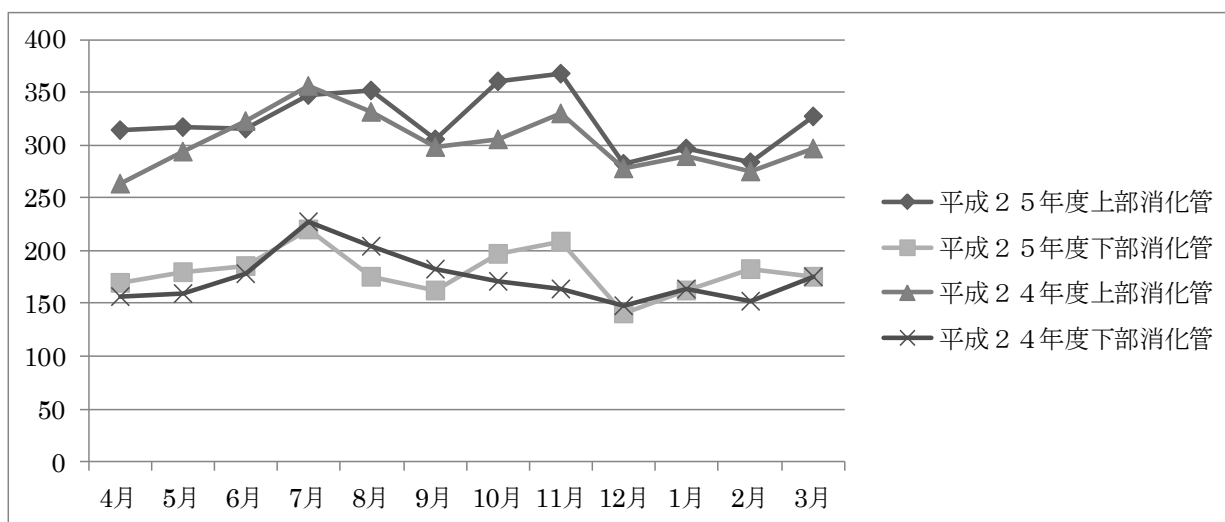
消化器内科医 9 名、外科・内視鏡外科医 8 名の合計 17 名のスタッフで日々協力しながら消化器病診療を行った。

～検査件数～

上部消化管検査は、24年度 3,641 件、25年度 3,871 件の 230 件増。

下部消化管検査は、24年度 2,081 件、25年度 2,158 件の 77 件増であった。

平成24年度 25年度内視鏡検査件数



～内視鏡検査と治療件数～

	平成23年度		平成24年度		平成25年度	
	上部消化管	下部消化管	上部消化管	下部消化管	上部消化管	下部消化管
総数	3,727 件	2,151 件	3,641 件	2,081 件	3,871 件	2,158 件
ポリペクトミー	3 件	344 件	1 件	159 件	0 件	298 件
EMR	7 件	356 件	4 件	511 件	13 件	461 件
ESD	59 件	12 件	39 件	2 件	54 件	1 件
拡張術	2 件	4 件	6 件	1 件	7 件	2 件
止血術	65 件	21 件	56 件	24 件	45 件	28 件
PEG	85 件		85 件		78 件	
EVL EIS	37 件		45 件		37 件	
異物除去術	4 件		8 件		9 件	
ERCP EST ENBD	59 件		71 件		77 件	
小腸内視鏡	76 件		70 件		34 件	
カプセル内視鏡	22 件		13 件		8 件	

～おわりに～

25年度は上部消化管、下部消化管とも前年度に比し増加した。そのなかで上部消化管ではEMR、ESDが、下部消化管ではポリペクトミーの増加が目立った。

脳神経外科

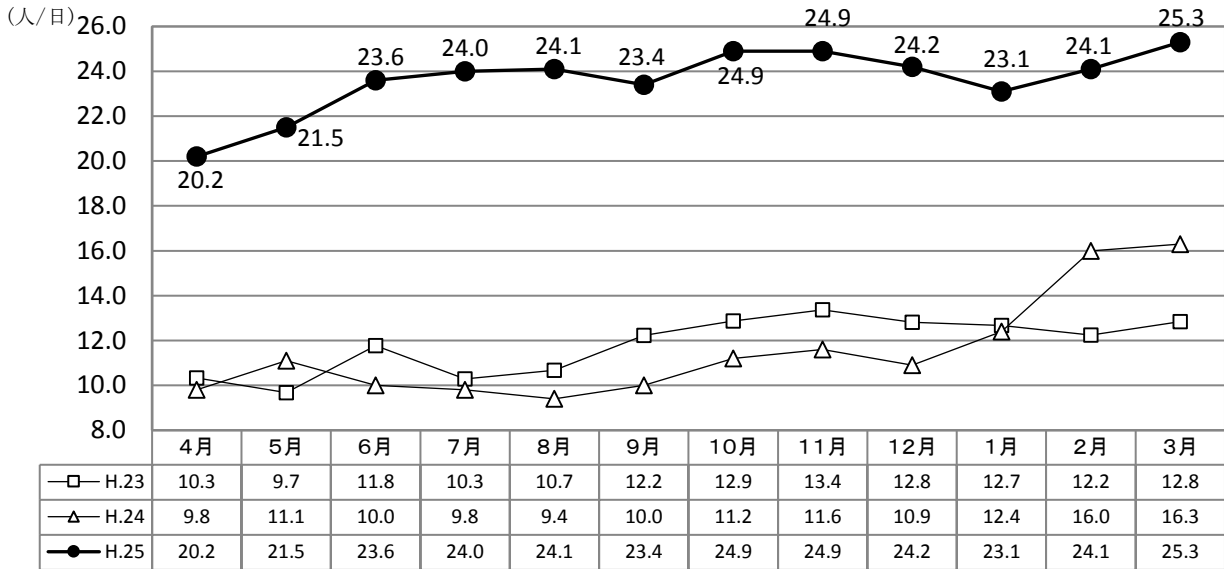
【概要】

平成25年度は脳神経外科医業収益については入院は昨年を上回り、外来はやや減収で、入院が2億6,756万円、外来が3,978万円計3億734万円で平成24年度より大幅に増加しております。相変わらず脳神経外科は医師一人で応援医師も無く、外来に専属の看護師もいないという状況ですが、医業収益の金額面だけで判断することには多少の問題点はあるとはいえ、一応善戦できたものと考えております。

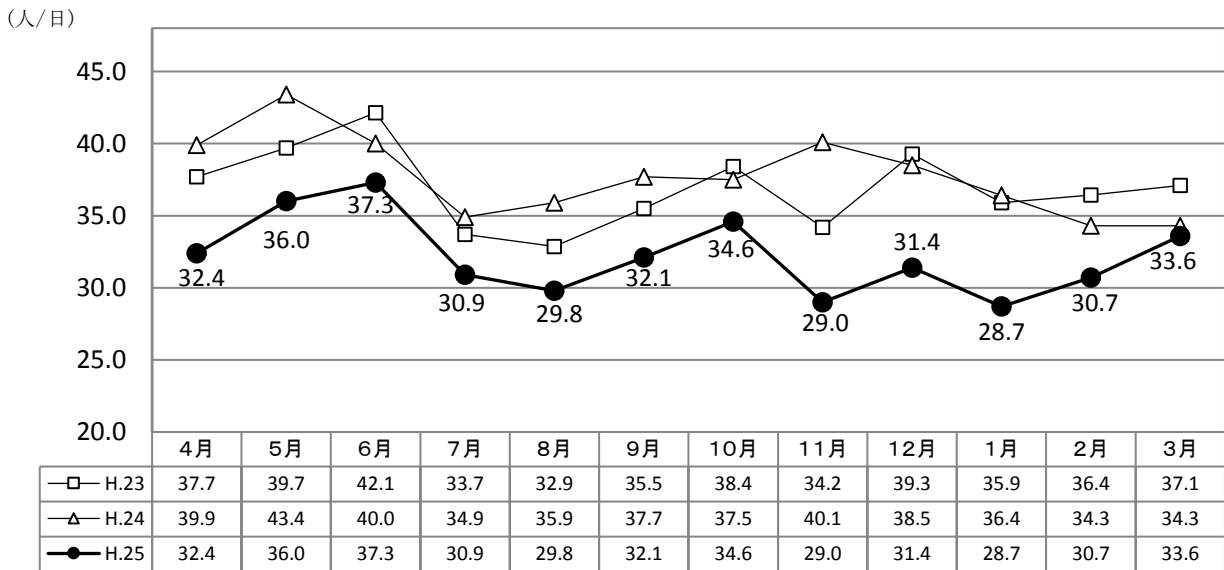
【学術業績】

末梢神経障害類似の症状を呈したprecentral knob近傍の皮質梗塞の2例
内科 第113巻 第5号 [2014年5月号] 別刷

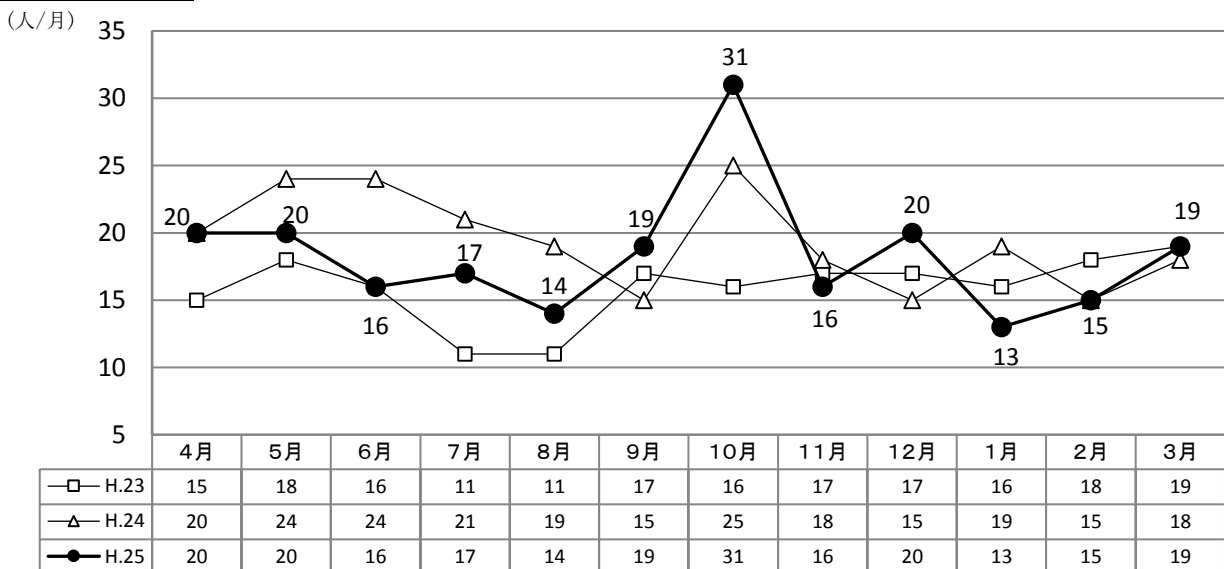
入院患者数



外来患者数



新入院患者数



整形外科

【概要】

平成22年6月より、常勤医師として岸田宗久（昭和61年卒、大阪市立大学整形外科より派遣）が着任し、手術を含めた業務にあたっている。外来業務は、非常勤医師の支援を得ているが、整形外科の診療体制としては、未だに不十分な状況である。現状で行える医療の質は維持したいとは考えている。

【入院患者数】

	平成23年度	平成24年度	平成25年度
入院患者数	1,287人	1,267人	863人

【外来患者数】

	平成23年度	平成24年度	平成24年度
外来患者数	8,421人	5,757人	5,075人

平成25年度 リハビリテーション室の実績

【概要】

平成25年度、リハビリテーション科は大幅にスタッフ数が増加した。

これはNASVA（交通事故対策機構）委託病床が開設され、それに対応するのが主な理由である。そのため4月からは医師1名 理学療法士7名 作業療法士3名 言語聴覚士1名の体制となった。

（6月からは、さらに言語聴覚士1名が非常勤で採用）

リハスタッフの増員により、充実したリハビリテーションを提供することが可能となった。特に外科周術期リハについては、重症例への複数回のリハを実施することで術後肺炎などの合併症を予防することが可能となった。

また、入院中の患者に対して自宅への退院前訪問を実施するなど、きめ細かいリハサービスを提供できるようになった。

こうした取り組みにより、当リハビリテーション科はNASVA（交通事故対策機構）委託病床での交通外傷により遷延性意識障害患者へのリハ、外科周術期の早期リハ、小児肢体不自由児・発達障がい児へのリハを中心として、その他生活習慣病への取り組みなど幅広い疾患に対してのリハビリテーションの提供することが可能となった。

【実績】

月次報告(リハビリテーション部門・平成25年度)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 部 門	外 来	運動器	50	67	64	64	52	46	48	34	29	28	28	29	539
		脳血管疾患	972	1,376	936	917	856	829	976	946	789	815	717	763	10,892
		呼吸器	18	10	12	12	10	4	7	6	5	0	0	0	84
		早期加算	0	0	0	0	6	4	0	0	0	0	0	0	10
		初期加算	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	6
		がん患者リハビリテーション	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	消炎鎮痛処置(マッサージ)	196	255	207	200	192	194	204	173	165	144	162	167	2,259	
	リハ総合計画評価料	0	4	5	8	7	8	6	0	1	1	2	3	45	
	小計	1,236	1,712	1,224	1,201	1,129	1,085	1,241	1,159	989	988	909	962	13,835	
	入 院 部 門	リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン	運動器	128	85	227	223	198	204	185	267	264	290	185	150
脳血管疾患			1,864	1,947	2,436	2,173	2,660	2,129	2,339	2,319	2,232	2,280	2,172	2,366	26,917
呼吸器			372	143	154	222	140	178	327	278	380	356	475	357	3,382
摂食嚥下療法				17	36	42	35	53	101	80	67	55	68	77	631
早期加算			747	735	825	859	837	718	844	1,048	1,083	1,099	952	870	10,617
初期加算			476	488	551	485	535	400	547	646	600	574	584	491	6,377
がん患者リハビリテーション		166	170	141	139	60	58	135	131	95	19	83	140	1,337	
消炎鎮痛処置(マッサージ)		25	10	11	18	8	13	8	10	15	6	8	17	149	
退院時リハビリテーション指導		21	18	14	22	29	28	24	30	33	15	22	27	283	
リハ総合計画評価料		90	99	95	100	108	101	127	120	128	119	128	111	1,326	
小計	3,889	3,712	4,490	4,283	4,610	3,882	4,637	4,929	4,897	4,813	4,677	4,606	53,425		
合計	5,125	5,424	5,714	5,484	5,739	4,967	5,878	6,088	5,886	5,801	5,586	5,568	67,260		

小 児 科

【勤務体制】

常勤医

宮下律子 中西直之 木岡直美 原田智

非常勤医

柳川敏彦 中西浩一 上碓仁美 熊谷健 崔信明

後期研修医

栗並樹里

臨床心理士

前川登代美 福井星仰

【はじめに】

平成25年度は、前年度に引き続き和歌山県立医科大学から小児科初期研修として毎月1人から2人の研修医の先生が来られていました。昨年度から取り組んでいる小児在宅生活支援地域連携の一環としてレスパイト入院の受け入れが軌道にのり、月平均2.83名の受け入れを行なった。

基礎疾患に脊椎骨端異型性症、脊椎2分症、肺低形成、仙骨形成不全、神経因性膀胱がある2歳の女児がRSウイルスにより入院加療行っていた。医療が奏効し翌日退院の予定であったが夕方急変し、救命を行なうも死亡に至った。AIを行なったが死因の特定はできなかった。

15歳の女児発熱を主訴に受診。始めは、上気道炎を疑い入院となったが、弛張熱が改善せず、腹痛も出現し最終的にクローン病の診断に至った。

8歳男児、血管性紫斑病で入院加療となるもステロイドを減量し、食事を進めると腹痛が出現し、その後もステロイドを減量できず、IVH管理となり、退院まで4ヶ月を要した。

【外 来】

外来患者数 1日平均162.2名

夜間救急外来（水曜日、土曜日）受診者数

3062名／年

紹介患者数 477名／年

乳児健診数 883名／年

予防接種者数 5022名／年

入院患者数 919名（新生児は除く）

平成25年度 小児科病名別件数

呼吸器系	肺炎・気管支炎	155	不明熱	3
	喘息・喘息性気管支炎	112	ヘルパンギーナ	3
	上気道炎・扁桃炎	28	ウイルス性発疹症	2
	咽頭炎	22	カポジ水痘様発疹症	2
	急性喉頭炎・クループ	12	頸部リンパ節炎	2
	肺膿瘍	1	サルモネラ腸炎	2
	皮下気腫	1	敗血症	2
	慢性呼吸不全	1	蜂窩織炎	2
消化器			EBウイルス	1
	ウイルス性腸炎	61	ウイルス性肝炎	1
	腸重積	6	ウイルス性筋炎	1
	細菌性腸炎	5	炎症性腸疾患	1
	新生児黄疸	5	キャンピロ腸炎	1
	虫垂炎	5	丹毒	1
	イレウス	4	伝染性膿痂疹	1
	潰瘍性大腸炎	4	腹腔内感染症	1
	肝炎	3	ヒトメタニューモウイルス	1
	胃炎	2	百日咳	1
	クローン病	2	ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群	1
	食道閉鎖	2	ムンプス	1
	脾膿瘍	2	ムンプスウイルス性髄膜炎	1
	回盲部周囲炎	1		
	肝機能障害	1	血液・腫瘍	
	下痢型過敏性腸症候群	1	血管性紫斑病	4
	口内炎	1	特発性血小板減少性紫斑病	2
	臍腸管遺残による腸閉塞	1	血友病	1
	直腸肛門奇形	1	母乳性黄疸	1
	便秘	1	溶血性貧血	1
尿路系			免疫系、	
	ネフローゼ	22	アレルギー	
	尿路感染症	10	川崎病	17
	腎炎	3	蕁麻疹	6
	精巣上体炎	1	アトピー	4
	副腎腫瘍	1	アレルギー性紫斑病	4
	肉眼的血尿	1	アナフィラキシー	2
	尿管結石	1	SLE	1
感染症			食物アレルギー	1
	RSウイルス	88	神経系	
	インフルエンザ	25	熱性けいれん	27
	ロタ	25	てんかん	8
	マイコプラズマ	17	過換気症候群	3
	アデノウイルス	11	痙攣重積	3
	溶連菌感染	11	無熱性けいれん	3
	化膿性リンパ節炎	10	痙攣	2
	中耳炎	8	神経性食欲不振	2
	ノロウイルス	8	アテトーシス型脳性麻痺	1
	突発性発疹症	5	下肢麻痺	1
	水痘	4	代謝・内分泌	
	ヘルペス	4	成長ホルモン分泌不全	20
	流行性嘔吐症	4	思春期早発症	3
	ウイルス性髄膜炎	3	ケトン血性嘔吐症	2
多形紅斑	3	糖尿病	2	
		バセドウ病	1	

その他	先天性多発性関節拘縮症	7
	脳性麻痺	6
	Miller Dieker 症候群	5
	肥満症	3
	膝・股関節炎	3
	摂食障害	2
	心因性多飲多尿	2
	チアノーゼ精査	2
	心肺停止後の低酸素脳症	2
	先天性筋疾患	2
	超低出生体重児	2
	先天性胆道拡張症	2
	不登校	1
	哺乳不良	1
	ワクチン接種後副反応	1
	意識障害	1
	右室肥大	1
	縦隔腫瘍	1
	高度肥満	1
	食欲低下	1
	ダウン症	1
	フォンウィルブランド病	1
	深頸部膿瘍	1
	仙骨形成不全症	1
	仙腸関節炎	1
	頭部陥没骨折	1
	頭部挫創	1
	高血圧	1

新生児内科

【医療機関の指定・学会認定施設】

日本周産期・新生児医学会暫定研修施設認定

【概要】

1. スタッフ

周産期母子医療センター・NICU 常勤医師

(平成25年1月1日入職) 関谷 真一郎 (せきや しんいちろう)	日本小児科学会専門医 日本周産期新生児医学会新生児蘇生法インストラクター
(平成25年4月1日入職) 高橋 雅也 (たかはし まさや)	日本小児科学会専門医
(平成25年4月1日入職) 神田 枝理子 (かんだ えりこ)	小児疾患全般 新生児蘇生法「専門コース」認定

周産期母子医療センター 非常勤医師・スタッフ

外来、病棟回診・指導

関西医科大学小児科講師

大橋 敦	日本小児科学会専門医、日本周産期・新生児医学会新生児専門医 日本周産期新生児医学会新生児蘇生法インストラクター
------	--

大阪市立大学外科学教室講師

諸富 嘉樹	日本外科学会指導医、日本小児外科学会専門医 日本小児泌尿器学会認定医
-------	---------------------------------------

和歌山県立医科大学眼科学教室

南出 文子	
-------	--

臨床心理士

大阪市立大学大学院生活科学研究科・生活科学部准教授

長濱 輝代	臨床心理士
-------	-------

宿直応援

大阪市立大学外科学教室

林 宏昭	日本外科学会専門医（泉大津市立病院外科常勤）
------	------------------------

関西医科大学小児科学教室

辻 章志	日本小児科学会専門医、日本周産期・新生児医学会新生児専門医
中野 景司	日本小児科学会専門医
峰 研治	日本小児科学会専門医 新生児蘇生法インストラクター

中島 純一	日本小児科学会専門医、PALSプロバイダー
平林 雅人	関西医科大学大学院
山内 壮作	関西医科大学大学院、日本小児科学会専門医

2. 診療体系（主な診療内容と取り組み）

入院病棟・病床： NICU 6床、GCU 9床

- 1) 診療疾患：原則として出生直後または産科施設を退院していない新生児で、以下の入院基準を満たすものを診療対象とする。
(入院基準に一部変更あり。別表参照)
- 2) 他診療科との連携
産婦人科・小児科・小児外科医師、周産期病棟・NICU・GCU看護部、臨床心理士と
合同でNICU病床利用委員会（周産期カンファレンス）を毎週金曜日に開催し、入院患者とハイリスク症例の情報交換ならびに治療方針検討を行っている。
- 3) 地域医療機関との連携
大阪新生児診療相互援助システム（NMC S）産科施設
平成25年NMC S紹介新生児受け入れ実績 19症例
平成24年救急隊搬送新生児受け入れ実績 1症例
- 4) 専門外来
NICU・GCU退院後フォローアップ外来（兼シナジス外来、予約制）
乳幼児健診（1か月健診、後期健診）

3. 主な診療実績

NICU入院数

男	88
女	70
合計	158

出生体重別入院数 (%)		
<1000	2	1.3
1000-1499	2	1.3
1500-1999	20	12.7
2000-2499	39	24.7
2500-2999	39	24.7
3000-3499	37	23.4
3500<	19	11.9

入院時間帯	
深夜帯 0～7時	21
日勤帯 8～16時	93
準夜帯 17～23時	44

居住地区（里帰り実家を含む）	
泉大津市	70
岸和田市	26
和泉市	21
高石市	16
堺市	10
泉北郡忠岡町	3
貝塚市	3
泉南市	2
阪南市	2
泉佐野市	1
松原市	1
奈良県奈良市	1

在胎週数別入院数	
26	1
27	0
28	1
29	1
30	0
31	3
32	3
33	7
34	12
35	11
36	15
37	23
38	23
39	24
40	22
41	12

月別入院数	
1月	11
2月	6
3月	15
4月	15
5月	22
6月	14
7月	7
8月	14
9月	18
10月	11
11月	11
12月	14

呼吸管理症例	
気管挿管下の人工呼吸器管理	
babylog8000plus	12
SLE5000	0
合計	12
経鼻CPAP型呼吸器管理	
NDPAP	28
保育器内酸素投与	10

転機	
軽快退院	152
転院 母子センター	3
大阪市大病院	1
ベルランド総合	1
谷口病院	1
死亡	0

疾患別入院症例分類（重複あり）

病名		
早産・低出生体重児	低出生体重児	49
	不当軽量児	17
	極低出生体重児	2
	超低出生体重児	2
	早産児	49
呼吸不全	無呼吸発作	16
	胎便吸引症候群	13
	大量羊水吸引症候群	2
	新生児一過性多呼吸	21
	新生児特発性呼吸窮迫症候群	10
	気胸・縦隔気腫	10
	新生児肺出血	1
	その他の呼吸不全	6
循環器疾患	症候性動脈管開存症	3
	心室中隔欠損症	2
	心房中隔欠損症	1
	不整脈	3
	新生児遷延性肺高血圧	1
代謝性疾患	早発黄疸	1
	遷延性黄疸	3
	新生児低血糖	24
	糖尿病母体児	15
新生児仮死 (超・極低出生体重児を除く)	重症新生児仮死	6
	軽度新生児仮死	5
新生児感染症	肺炎	4
	新生児感染症（focus不明）	9
	髄膜炎	0
双胎	双胎第一子	8
	双胎第二子	9
消化器疾患	新生児嘔吐・哺乳不良	9
	新生児メレナ	2
染色体異常	21トリソミー	1

病名		
その他の新生児合併症	墜落産	1
	未受診妊婦からの出生	1
	帽状腱膜下出血	1
	新生児けいれん	2
	薬物離脱症候群	1
	ちく溺	1
	多発性脳梗塞	1
その他の先天異常	先天性食道閉鎖	1
	卵巣嚢胞	1
	喉頭軟化症	1
	多発性肺嚢胞	1
	単一臍帯動脈	1
	耳介低形成	1
	Hirschspurung病類縁疾患	1

考察

泉大津市を中心とした泉州地区北部の周産期医療中核病院をめざしています。

大阪府や泉大津市の援助により平成21年10月に開設され、現在新生児集中治療室（NICU）6床、回復期病床（GCU）9床の合計15床で運営しています。平成22年には164名、平成23年には163名、平成24年には144名、そして平成25年には158名の新生児が入院しました。関西医科大学小児科学教室、大阪市立大学外科学教室の協力により、大阪新生児診療相互援助システム（NMC S）に参加して、365日24時間体制で救急入院に対応しています。

前周産期センター長である北村直行先生が退職となり、常勤医3名体制は維持しているものの、経験年数がこれまでに比すると若くなっております。そのため、NICUの入院基準を平成25年4月1日より一部変更し、早産児に関しては受け入れ週数を在胎28週から32週へ引き上げました。また各種合併症が懸念される糖尿病母体児や一絨毛膜二羊膜双胎に関しては、出生時の合併症検索のため、全員一旦はNICUに入室するようになりました。不必要な母児分離を避けるため、そのような症例に関しては合併症等認めない場合には可及的速やかに母児同室へ移行させています。

出生体重別に考察すると1000g未満が1.3%、1000～1499gが1.3%、1500～1999gが12.7%、2000～2499gが24.7%と2500g未満の症例が全体の約40%を占めました。これは前年の54%から減少しておりますが、施設基準の変更に伴っての影響と考えます。しかし、全入院数に占める母体搬送、新生児搬送の割合は23.4%であり、これは当院NICUが泉州地区北部の周産期医療の中核病院であるということが周知され、近隣の分娩を扱う施設からの母体搬送が増加していることとも関連していると考えます。

平成25年も救急隊搬送で1名入院がありましたが、自宅出産児（墜落産児）でした。当院産婦人科は月2回、第一・第三土曜日に産婦人科一次救急を請け負っており、今後もこのような症例受け入れがあるものと考えられます。泉州北部に限らず堺市、大阪市、泉州南部からの入院もあり、今後とも広域に連携して周産期医療に貢献することが使命となっております。

4. 業績 平成25年 発表、講演会、学会・研究会活動実績

- 平成25年2月24日 : 市民公開講座『知っておきたい新生児医療の最前線』
関谷真一郎：『新生児蘇生法』を体験してみよう
- 平成25年3月20日 : 第9回泉大津市立病院地域周産期母子センター新生児蘇生講習会開催
- 平成25年3月23日 : 第26回近畿小児科学会
関谷真一郎：異なる経過を辿った一過性骨髄増殖症を合併したDown
症候群の2例
- 平成25年12月22日 : 第10回泉大津市立病院地域周産期母子センター新生児蘇生講習会開催

皮膚科

【担当医師】（平成26年3月現在）

部長 永尾淳
医長 星郁里
診察応援医師 白鳥隆宏、夏見亜希（大阪市立大学皮膚科）

【平成25年度紹介患者数】

計 94名（泉大津市立病院月次経営動態指標平成26年3月分より引用）

【平成25年度外来患者数】

計 7,883名（泉大津市立病院月次経営動態指標平成26年3月分より引用）

【平成25年度入院患者数】

計 21名（退院時要約より引用）

【学会活動など】

1. 46歳で発症し、78歳で診断されたDarier病の1例
星郁里、永尾淳、持田和伸、小林晏
（第64回日本皮膚科学会中部支部学術大会 名古屋国際会議場 2013年11月）

泌 尿 器 科

スタッフ：梶川博司部長、森康範副部長

【概 要】

平成25年度の診療実績については一日平均外来患者数は49.5人と前年度に比べ0.4人増加したが、一日平均入院患者数は9.3人と前年度より0.7人減少した。ESWLを除く手術件数は前年度と比較し、約40件増加した。手術内容は経尿道的尿管結石破碎術（TUL）、経尿道的前立腺切除術（TUR-P）、前立腺生検術が増加した。今後も病診連携を密にとりながら、地域医療に貢献したいと考えている。

【平成25年度患者数】

入院患者数 9.3名／日

外来患者数 49.5名／日

【平成25年度手術統計】

（腎・尿管・後腹膜）

腎摘除術	3 例
腎尿管全摘術	6 例
腎部分切除術	1 例
経皮的腎瘻造設術（PNS）	8 例
経尿道的尿管碎石術（TUL）	11 例
その他	28 例

（膀胱）

膀胱全摘＋尿管皮膚瘻造設術	1 例
経尿道的膀胱腫瘍切除術（TUR-Bt）	55 例
経尿道的膀胱生検術	1 例
膀胱部分切除術	1 例
膀胱碎石術	8 例
膀胱瘻造設術	2 例
TVT手術	2 例
膣前壁形成術	1 例

（前立腺・尿道）

根治的前立腺全摘術	6 例
経尿道的前立腺切除術（TUR-P）	13 例
被膜下前立腺摘除術	1 例
直視下内尿道切開術	2 例
前立腺生検術	44 例
その他	3 例

（陰茎・陰囊）

精巣固定術	5 例
精巣摘出術	5 例
陰囊水腫根治術	4 例
包茎手術	6 例
その他	6 例

（その他）

内シヤント造設術	16 例
上皮小体摘出術	2 例

【平成25年度体外衝撃波結石破碎術件数】

腎結石	31 例
尿管結石	56 例
合計	87 例

産 婦 人 科

【概 要】

産婦人科は平成16年以降、大阪市立大学産婦人科医局より医師が派遣され、平成25年度の常勤医師は以下のとおりである。

平成25年3月末で梶谷医師、寺前医師が退職し、4月に田中医師と山内医師が入職となった。

全員が病棟入院患者を把握し対処できるようなチーム医療が目標である。

平成25年4月～平成26年3月：常勤医

職 名	氏 名	資 格	備 考・専門領域
副院長（平成26年6月に院長就任） 産婦人科部長	西尾順子	産婦人科専門医 超音波専門医 母体保護法指定医 母体・胎児専門医暫定指導医 新生児蘇生インストラクター	平成16年7月入職 周産期
産婦人科部長	竹林忠洋	産婦人科専門医 母体保護法指定医	平成19年4月入職
産婦人科医長	三枚卓也	産婦人科専門医 母体保護法指定医	平成19年4月入職 不妊・内分泌
産婦人科医長	田中雅子	産婦人科専門医 新生児蘇生インストラクター	平成25年4月入職
医員	中川佳代子	産婦人科専門医	平成24年4月入職
医員	山内 真		平成25年4月入職

【外来診療体系】

午前中は産科・婦人科の2診制で診療を行なっている。

午後は特殊外来・予約診・産後1ヶ月健診・助産師外来を主体とした診療を行っている。

胎児超音波検査については月曜日～木曜日に検査枠を設け、妊娠20週、30週頃に健診と同時に胎児スクリーニングを行なえるように配慮している。

医師が超音波検査を担当し、異常の鑑別については複数の医師で協議し、さらに小児科の専門医に相談を行っている。

助産師外来は、母乳に関する相談が多いが、それ以外に妊娠・育児の相談や指導を行なうようになってきている。年々相談件数は増加傾向にある。母乳に関するトラブルはできるだけ受け入れるよう配慮しているため、夜間・休日の相談は病棟勤務の助産師が対応し、当院以外の施設で分娩を行った褥婦の相談も受け入れ可能である。

毎週木曜日には両親学級を行い、妊娠中の生活等について熱心な指導を行っている。

また、マタニティヨガ・インファントマッサージの教室を、資格をもった助産師が指導し活動中である。

産科診療：分娩に関してはできるだけ医療介入を行わず、自然な状態での分娩をめざし、骨盤位・双胎妊娠に対しても可能であれば経膈分娩の方針としている。

希望があれば硬膜外麻酔による無痛分娩が可能で、分娩時の体位も妊婦の希望に応えるよう対処（側臥位での分娩など）をしている。

母乳育児のために母子同室も勧め、健診中に母子同室にするか否かについての希望をきいている。両親学級を受講してもらったうえでの立会い分娩を希望される妊婦が増加しつつあり、陣痛時～産褥までを同じ部屋で行えるLDR専用の分娩室で過ごしてもらっている。

常勤医5～6名＋当直応援医が、産婦人科当直を交代で行い、夜間・休日の産科救急診察や分娩に対処している。

婦人科診療：手術日は火曜・金曜とし、子宮筋腫・卵巣腫瘍・骨盤臓器脱・外陰部病変等の良性疾患に対応している。腹腔鏡下手術は主に卵巣嚢腫・卵管妊娠に対して行なっている。悪性腫瘍に関しては、その状態と患者の希望により、和泉市立病院をはじめとする専門の病院や大学病院へ紹介している。午後の予約外来は検査・異形成・更年期・手術後のフォロー患者の対応や、時間のかかる処置を主としてうけいれている。

子宮癌の市民検診は月曜・金曜の予約枠で行い、待ち時間のないよう配慮している。

産科・婦人科ともクリニカル・パスを使用し、各々の症例に対して標準化されたケアを行うようにし、在院日数を短くするべく努力している。

不妊治療についてはタイミング指導、排卵誘発、AIH等は可能で希望者に対して処置をおこなっている。

他診療科との連携

総合病院である利点として、合併症妊娠について他科へのコンサルトが容易である。

緊急帝王切開時は、休日・深夜を問わないが、手術場の待機スタッフや麻酔科の協力で安心して手術に臨める状況にあり、平成21年10月よりNICU病棟が本格的に稼動しているため、分娩時の新生児科医立会いやその後の新生児治療等が独立した病棟で可能となっており、より安心して分娩に臨めるようになった。現在、当院NICUでは、妊娠32週以上、出生体重1500g以上の児については対応可能としているが、状況に応じて新生児科医師と連絡をとりあっている。当院外科では小児外科疾患にも対応可能である。

新生児科医師を中心とした新生児蘇生講習会も院内で行なわれ、当院の助産師・看護師をはじめ、近隣の病院からの受講者にも対応している。

1週間に1回、小児科・新生児科との合同カンファレンスをもち、また、2か月に1回は泉大津市との連携で、虐待予防をふまえた周産期社会的ハイリスク妊婦の連絡会を行っている。

地域医療機関との連携

産科診療については近医で健診を行い、分娩は当院ごといつたセミ・オーソニカ式で分娩予約をしている症例も多い。

和泉市立病院との協力体制により当院は産科に特化し、婦人科悪性症例は和泉市立病院や大学病院、その他関連病院への紹介としているが、患者の希望に応じて紹介病院を考慮している。術後フォローや初期治療後の緊急時対応は当院で行うことも可能である。

当直医の派遣は大学病院や和泉市立病院の協力を得ている。

大阪府産婦人科相互援助システム（OGCS）の加盟病院であり、母体搬送件数は年間平均約50件である。

大阪府産婦人科一次救急の受け入れにも微力であるが協力している。

【診療実績】(平成25年1月～12月)

分娩統計（平成25年1～12月）

分娩様式		(双胎妊娠児数)
正常分娩(自然)	434	4
(陣痛促進)	64	0
(陣痛誘発)	80	1
骨盤位経膈分娩	11	2
吸引分娩	36	1
鉗子分娩	0	0
帝王切開	122	14
選択的帝王切開	82	8
緊急帝王切開	40	6
中期中絶	12	2
子宮内胎児死亡	6	0
計	765	24

母体搬送受入症例：45症例

近隣の開業医・病院からの搬送が多く、30～36週の切迫早産や前期破水、子宮内胎児発育遅延といった症例がほとんどである。正期産の期間に入った場合は希望により前医へのバックトランスファーを行っている。

当院から他院への搬送症例は3例であった。

手術統計（手術場使用）平成25年1～12月

帝王切開術	122 (選択的:82 緊急:40)
子宮外妊娠	2 (2)
単純子宮全摘術	9
筋腫核出術	6 (1)
附属器摘出術	14 (6)
卵巣悪性手術	0
性器脱	4
その他小手術(円錐切除、頸管縫縮など)	23 (6)
計	180 (15)

()内 腹腔鏡・内視鏡手術

その他、病棟処置室での小手術は流産手術や子宮内膜増殖症、子宮頸管ポリープ、筋腫分娩、コンジローマ焼灼等、年間100件前後の症例を数える。

眼 科

【概 要】

稲垣直人部長、澤明子医師の2名体制で平成25年度を迎えた。手術機器、外来検査機器等に特に変化なく、スタッフの増減もなかった。

【手術件数】

(手術室)

超音波白内障手術	313件
囊外摘出術	3件
眼内レンズ縫着術	1件
硝子体手術	9件
(PDR、黄斑前膜、黄斑円孔、網膜剥離)	
眼瞼内反症	2件
眼瞼下垂	1件
結膜弛緩	2件
結膜腫瘍	2件
翼状片	2件
霰粒腫	2件
ケナコルトテノン嚢下注入	32件
ルセンチイス硝子体腔内注射	31件
その他	2件

計 402件

(レーザー手術)

網膜光凝固術	86件
YAG後発切開術	67件
レーザー虹彩切開術	1件

計 154件

耳鼻咽喉科

【医局の現況】

平成22年9月より常勤医師が不在となり、以降は非常勤医師により外来診療を行っている。

非常勤医師 木村忠司医師 宮下美恵医師 宮本英明医師 坂口喜清医師 寺尾恭一医師

【入院患者数】

	平成22年度※	平成23年度	平成24年度	平成25年度
入院患者数	985人	0人	0人	0人

※平成22年8月まで

【外来患者数】

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
外来患者数	8,211人	5,810人	5,010人	5,145人

麻 酔 科

【スタッフ】

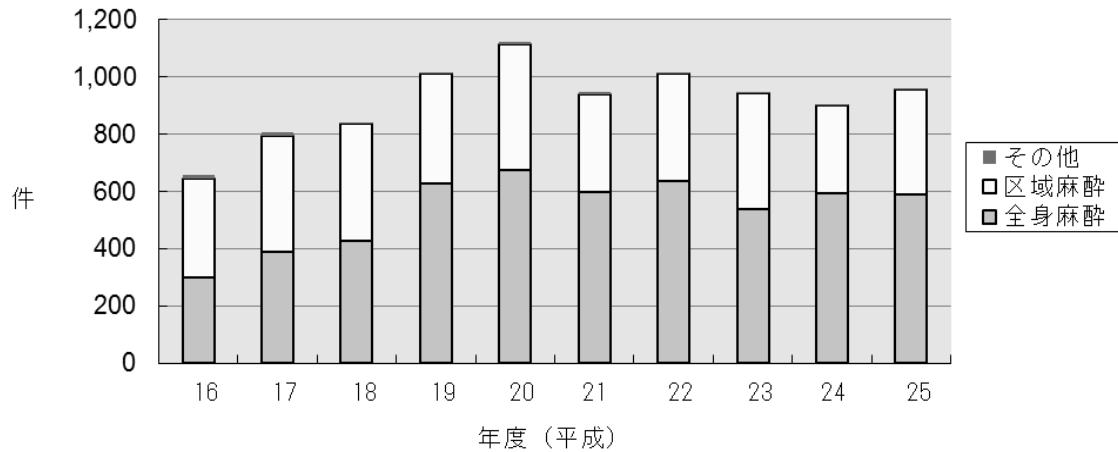
高津徹、西澤伸泰（～9月）、上原圭司（9月～3月）

【概要】

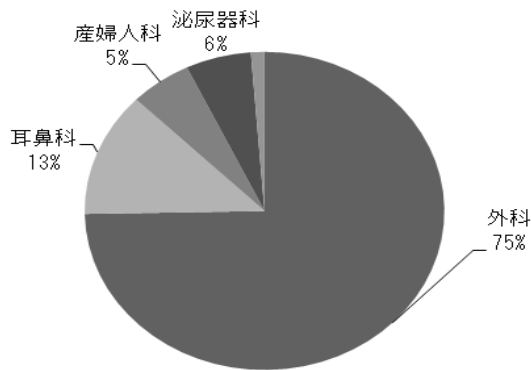
麻酔件数は、下表のとおりであった。

	件数
全身麻酔	580件（60.9%）
区域麻酔	368件（38.7%）
その他	4件（0.4%）
合 計	952件（100%）

麻酔件数の年次推移



**診療科別占有率
(全身麻酔)**



昨年度と比べて、麻酔件数及び占有率ともに目立った変化はなかった。

放射線科

【スタッフ】

宇田光伸（副院長兼放射線科部長）、清水洋（副部長）の3名の常勤医師、9名の診療放射線技師で平成25年度を迎えた。

9月30日付退職 菅 直木（常勤医師）

【機器】

一般撮影

（株）日立メディコ DHF-S2-158×2台

東芝メディカルシステムズ（株）MRAD-A32S/01×1台

X線TV装置

（株）日立メディコ TU-230XF形×1台（平成25年10月まで稼働）

東芝メディカルシステムズ（株）ZEXIRA DREX-ZX-80×2台

（平成25年11月から1台稼働）

X線CT装置

GEヘルスケア・ジャパン（株）LightSpeed Plus×1台

（株）フィリップスエレクトロニクスジャパン Brilliance iCT×1台

MR I装置

シーメンス・ジャパン（株）MAGNETOM Avanto×1台

乳房撮影装置

シーメンス・ジャパン（株）MAMMOMAT 3000Nova×1台

血管撮影装置

（株）島津製作所 DIGITEX2400×1台

回診型撮影装置

（株）日立メディコ シリウス125B×1台

（株）日立メディコ シリウス125MX×1台

（株）日立メディコ シリウス130HP×1台

放射線治療装置

（株）三菱電機 EXL-12SP×1台

シュミレーター

（株）島津製作所 SAT-20×1台

放射線治療計画装置

（株）バリアンメディカルシステムズ ECLIPSE×1台

骨塩定量検査装置

GEヘルスケア・ジャパン（株）Lunar Prodigy×1台

【業績】

なし

H25年度放射線科検査件数

一般撮影	頭頸部		躯幹部					四肢	
	頭部	頸部	胸部	腹部	骨部	小児	ドック胸部	上肢	下肢
4月	40	9	575	266	244	211	16	49	78
5月	63	6	644	272	367	257	24	46	109
6月	85	8	604	280	285	245	24	38	88
7月	34	15	704	344	204	222	20	57	95
8月	30	4	639	326	277	182	21	75	101
9月	52	10	593	268	283	222	28	42	103
10月	82	8	687	277	403	223	33	64	121
11月	31	5	632	263	303	248	26	48	126
12月	43	12	661	277	232	220	12	60	88
1月	37	4	662	275	335	152	9	34	92
2月	44	14	648	230	249	192	16	35	73
3月	73	13	656	287	245	283	26	57	46
計	614	108	7,705	3,365	3,427	2,657	255	605	1,120

一般撮影	頭頸部 合計	躯幹部 合計	四肢合計	全合計
4月	49	1,312	127	1,488
5月	69	1,564	155	1,788
6月	93	1,438	126	1,657
7月	49	1,494	152	1,695
8月	34	1,445	176	1,655
9月	62	1,394	145	1,601
10月	90	1,623	185	1,898
11月	36	1,472	174	1,682
12月	55	1,402	148	1,605
1月	41	1,433	126	1,600
2月	58	1,335	108	1,501
3月	86	1,497	103	1,686
計	722	17,409	1,725	19,856

ポータブル 撮影	病棟撮影	OP室撮影	合計
4月	158	8	166
5月	125	3	128
6月	95	8	103
7月	141	4	145
8月	113	1	114
9月	128	10	138
10月	132	2	134
11月	130	6	136
12月	118	3	121
1月	130	4	134
2月	150	3	153
3月	136	1	137
計	1,556	53	1,609

乳房撮影	乳腺外来	検診	合計
4月	12	14	26
5月	7	23	30
6月	22	15	37
7月	17	21	38
8月	12	14	26
9月	18	19	37
10月	15	24	39
11月	19	16	35
12月	11	19	30
1月	11	17	28
2月	11	18	29
3月	11	19	30
計	166	219	385

骨密度測定	予約	予約外	ドック	合計
4月	23	6	16	45
5月	22	5	24	51
6月	15	5	24	44
7月	16	1	20	37
8月	15	1	21	37
9月	5	3	28	36
10月	13	1	33	47
11月	18	1	26	45
12月	13	3	12	28
1月	9	5	9	23
2月	9	4	16	29
3月	15	6	26	47
計	173	41	255	469

CT検査	頭頸部単純		頭頸部造影		四肢単純・造影		その他 単純・造影	RTPS
	頭部	頸部	頭部	頸部	上肢	下肢		
4月	156	8	13	5	0	0	1	2
5月	209	8	13	5	1	0	0	7
6月	166	1	11	5	0	0	0	2
7月	150	4	7	2	2	1	0	2
8月	165	1	9	0	0	0	0	3
9月	175	5	5	1	0	0	0	5
10月	197	2	10	3	1	0	1	8
11月	136	1	8	2	0	1	0	3
12月	139	4	4	3	1	1	0	0
1月	156	4	8	2	0	0	2	6
2月	142	3	6	2	0	0	0	4
3月	148	6	15	1	0	0	0	2
計	1,939	47	109	31	5	3	4	44

CT検査	躯幹部単純					躯幹部造影					
	胸部	腹部	骨盤部	全腹部	脊椎部	胸部	腹部	骨盤部	全腹部	脊椎部	心臓
4月	164	65	5	69	0	8	27	1	38	0	9
5月	180	60	6	85	0	7	44	0	33	0	8
6月	152	83	7	84	1	8	38	1	31	0	5
7月	177	75	2	74	0	8	27	0	42	0	10
8月	174	53	5	100	1	10	27	0	28	0	11
9月	176	53	4	81	1	9	31	0	38	0	4
10月	187	54	9	99	1	9	39	0	33	0	15
11月	186	54	6	92	1	7	44	0	27	0	8
12月	168	71	4	93	1	14	38	1	39	0	7
1月	173	68	8	102	1	15	44	0	36	0	10
2月	181	71	1	76	1	9	27	0	26	0	2
3月	168	55	2	91	0	11	33	1	25	0	1
計	2,086	762	59	1,046	8	115	419	4	396	0	90

CT検査	頭頸部 合計	四肢 合計	躯幹部 合計	その他 合計	RTPS	全合計
4月	182	0	386	1	2	571
5月	235	1	423	0	7	666
6月	183	0	410	0	2	595
7月	163	3	415	0	2	583
8月	175	0	409	0	3	587
9月	186	0	397	0	5	588
10月	212	1	446	1	8	668
11月	147	1	425	0	3	576
12月	150	2	436	0	0	588
1月	170	0	457	2	6	635
2月	153	0	394	0	4	551
3月	170	0	387	0	2	559
計	2,126	8	4,985	4	44	7,167

血管造影	腹部	心カテ	合計
4月	4	3	7
5月	3	1	4
6月	3	3	6
7月	3	4	7
8月	5	1	6
9月	2	0	2
10月	2	3	5
11月	3	1	4
12月	5	1	6
1月	4	0	4
2月	3	0	3
3月	2	0	2
計	39	17	56

MRI検査	頭頸部単純			頭部造影	四肢単純・造影		その他 単純・造影
	頭部	頸部	ドック	頭頸部	上肢	下肢	
4月	85	2	1	3	3	8	0
5月	90	2	1	3	0	2	2
6月	98	2	1	3	2	5	1
7月	80	4	1	3	0	7	4
8月	86	5	1	8	2	7	1
9月	82	0	1	2	2	7	2
10月	96	5	0	1	2	6	3
11月	77	0	1	1	4	7	4
12月	70	6	1	2	2	6	2
1月	80	4	1	1	0	4	1
2月	113	2	1	2	0	5	0
3月	94	3	1	6	1	4	0
計	1,051	35	11	35	18	68	20

MRI検査	躯幹部単純					躯幹部造影				
	胸部	腹部	骨盤部	肩・股関節	脊椎部	胸部	腹部	骨盤部	肩・股関節	脊椎部
4月	1	15	30	2	47	3	3	2	0	2
5月	0	17	32	3	34	3	3	1	1	3
6月	0	17	27	2	42	5	2	1	0	1
7月	1	13	31	2	39	5	3	3	0	1
8月	0	15	18	4	30	6	5	1	0	1
9月	0	11	13	4	38	5	3	1	0	0
10月	2	12	26	8	37	5	5	0	0	0
11月	1	17	26	2	40	3	6	0	0	0
12月	0	18	35	3	37	4	2	2	1	1
1月	1	9	33	3	37	3	4	2	0	1
2月	0	12	27	2	29	1	5	0	0	0
3月	1	17	29	4	31	2	4	2	0	2
計	7	173	327	39	441	45	45	15	2	12

MRI検査	頭頸部 合計	四肢 合計	躯幹部 合計	その他 合計	全合計
4月	91	11	105	0	207
5月	96	2	97	2	197
6月	104	7	97	1	209
7月	88	7	98	4	197
8月	100	9	80	1	190
9月	85	9	75	2	171
10月	102	8	95	3	208
11月	79	11	95	4	189
12月	79	8	103	2	192
1月	86	4	93	1	184
2月	118	5	76	0	199
3月	104	5	92	0	201
計	1,132	86	1,106	20	2,344

放射線治療	診察	シミュレーション	治療照射	合計
4月	3	2	74	79
5月	7	8	111	126
6月	3	3	131	137
7月	2	2	51	55
8月	3	3	73	79
9月	6	7	101	114
10月	8	9	227	244
11月	3	4	186	193
12月	2	1	41	44
1月	9	6	54	69
2月	4	5	149	158
3月	2	2	77	81
計	52	52	1,275	1,379

X線TV検査	UGI	BE	食道造影	小腸造影	イレウス管	CF	EIS	その他消化器
4月	3	8	4	0	9	0	2	7
5月	5	5	2	0	1	0	3	6
6月	2	2	5	0	2	2	1	6
7月	6	5	0	1	6	1	2	6
8月	4	2	2	0	8	0	1	3
9月	6	4	0	0	12	0	3	3
10月	10	1	0	0	8	1	5	3
11月	5	3	1	1	10	2	1	2
12月	9	3	0	0	7	2	6	5
1月	2	3	2	1	12	0	2	4
2月	4	3	2	0	4	0	3	2
3月	2	2	2	1	22	0	2	2
計	58	41	20	4	101	8	31	49

X線TV検査	HSG	腸重積	PTC(GB)D	PEIT	ERCP	ENBD	BF	RFA	IVH	トロッカー
4月	0	1	1	0	8	0	2	1	3	0
5月	0	1	4	1	1	3	3	1	3	1
6月	1	2	5	3	2	1	3	2	0	0
7月	1	1	2	0	1	1	3	3	4	0
8月	0	0	2	0	6	0	4	0	5	0
9月	1	0	2	2	3	2	3	1	2	0
10月	0	0	2	3	3	2	0	1	1	5
11月	1	2	2	3	10	2	3	2	1	2
12月	1	2	3	1	5	0	3	2	3	1
1月	0	1	0	0	7	0	3	3	1	1
2月	1	1	1	1	2	0	0	1	3	0
3月	0	1	4	8	8	0	1	0	3	1
計	6	12	28	22	56	11	28	17	29	11

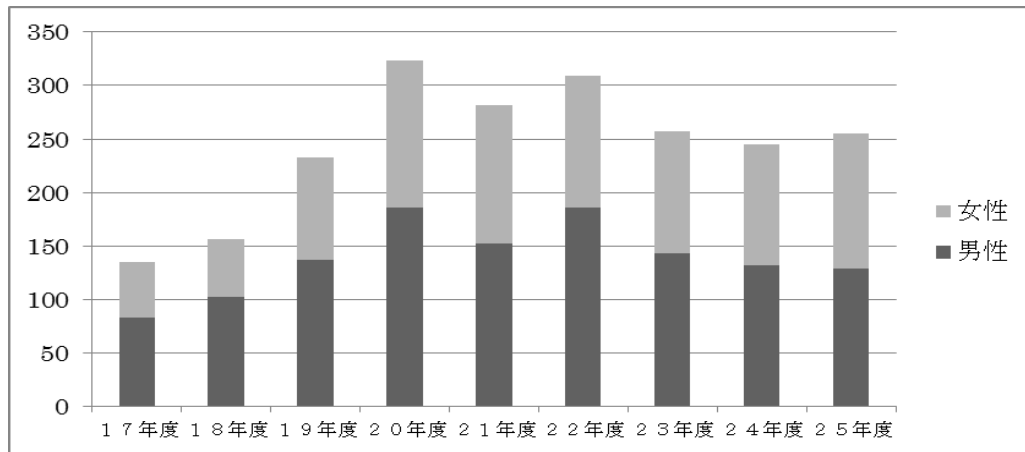
X線TV検査	IVP・DIP	S-J交換	UCG VCG・CG	RP・AP	その他	全合計
4月	5	16	5	0	7	82
5月	5	13	3	1	5	67
6月	10	14	1	1	2	67
7月	7	14	3	0	0	67
8月	10	13	0	0	3	63
9月	9	13	3	0	2	71
10月	13	15	1	0	2	76
11月	8	16	0	0	2	79
12月	10	15	0	1	2	81
1月	11	14	0	1	3	71
2月	8	12	3	0	0	51
3月	9	14	1	1	1	85
計	105	169	20	5	29	860

健 診 科

【概要】

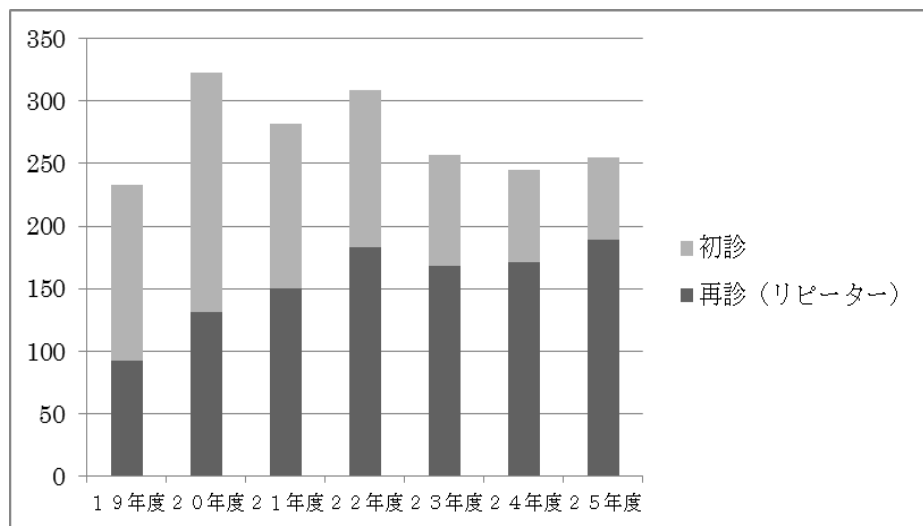
24年度は245件の人間ドック件数であったが、25年度は255件と前年度比10件の増となった。男女別では、男性が3件減の129件、女性が13件増の126件であった。（図1）

図1 年度別人間ドック件数(男女別)



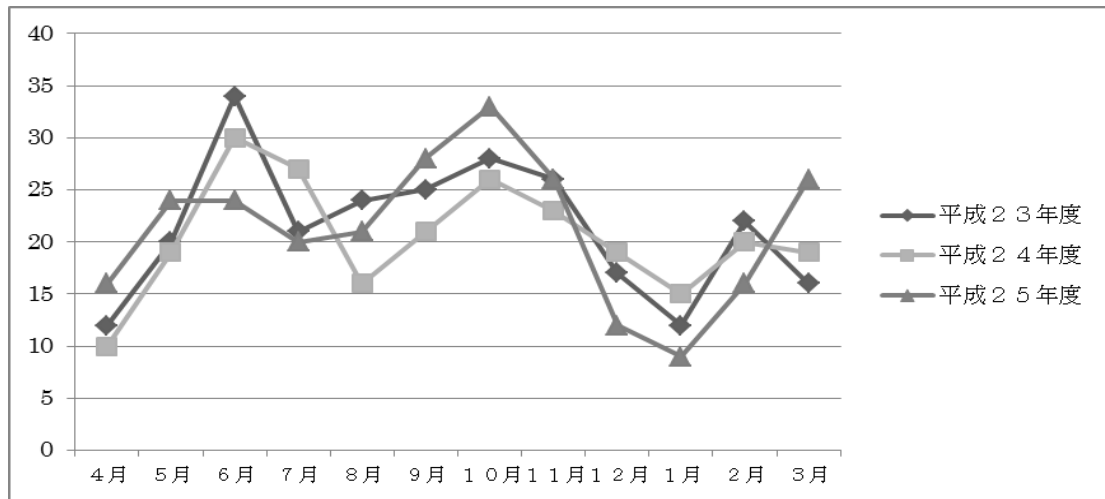
初診、再診別でみると再診（いわゆるリピーター）は18件増の189件、初診は8件減の66件であった。（図2）

図2 初診再診別人間ドック件数



月別件数で見ると、10月に多く4月、1月に少ない傾向は、ほぼ例年どおりであった。(図3)

図3 月別人間ドック件数



当科では、ドックの結果説明、相談を1人30分の予約枠をとり懇切丁寧に行っている総合病院であるメリットを生かし、ドック受診後の院内の各専門医への紹介も円滑である。リピーター件数は十分確保できており、今後これらの当科ドックの特色を積極的にアピールしてドック初診件数の増加を図りたい。

尚19年度から実施している脳ドックであるが、毎週月曜日1件の予約枠で21年度32件、22年度40件、23年度23件、24年度19件、25年度12件であった。

中央検査科部

【スタッフ】

平成25年度の検査科部体制は4月1日現在、部長（内科医）1名、臨床検査技師12名（内訳：正職員10名、非常勤職員3名）、事務職員1名で、正職員1名欠員状態でのスタートとなった。5月には欠員の補充として1名の採用があった。

また、5月には1名希望退職が出たため、6月に1名の採用があった。しかし、6月から1名病欠となり結局1名減での運用となった。

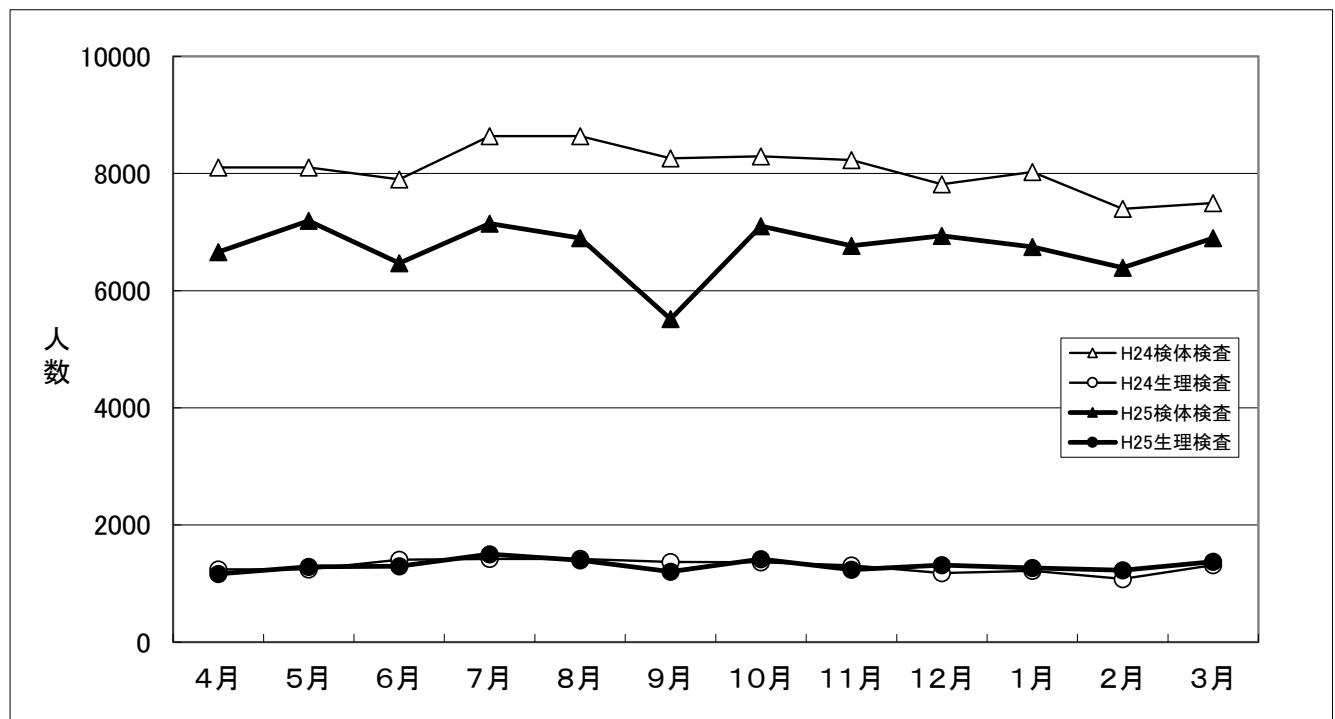
【概要】

平成25年4月から新体制がスタートした。技師の約3分の1が入れ替わったため、臨床に迷惑をかけないことを目標にした。しかし、短期間で検査機器・システム・外注業者を変えたため、4月からなんとかスタートしたものの細かい部分での不手際が発生する事態となった。それでも新入職員初めスタッフ全員で協力し、対応した。

SRLとの共同事業を解消し、外注業者をBMLに変えることで大幅なコストダウンを図る事ができた。また、経営コンサルからの提案に基づき健診業務の充実の一つとして「健診プロジェクトチーム」を立ち上げ、健診案内リーフレットの作成・配布、大腸がん検診の促進、AICS・ABC健診の導入、市役所健康福祉部と連携し、健康診査受診率アップへの取組みなどを行った。

【実績】

平成25年度		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
検体検査	尿一般	2,485	3,411	3,094	3,488	3,318	2,630	3,344	3,145	3,209	3,176	2,949	3,112	37,361
	血液・生化学検査	4,124	3,738	3,342	3,620	3,543	2,853	3,712	3,578	3,661	3,509	3,390	3,721	42,791
	細菌・ウイルス検査	14	8	5	8	5	2	6	5	15	11	9	12	100
	輸血検査	37	36	27	29	32	30	38	37	54	51	43	54	468
	小計	6,660	7,193	6,468	7,145	6,898	5,515	7,100	6,765	6,939	6,747	6,391	6,899	80,720
	時間外検査	525	771	596	758	767	660	669	754	867	850	622	664	8,503
	外注検査(細胞診検査含)	0	1,991	1,910	2,838	2,059	2,386	2,480	1,859	1,912	1,567	1,626	1,981	22,609
生理検査	脳波	39	33	42	53	58	34	50	34	44	43	47	53	530
	心電図	371	445	455	496	477	425	479	429	427	444	422	479	5,349
	心エコー	120	106	124	167	138	113	147	121	140	124	121	128	1,549
	神経伝導速度	0	0	0	8	0	1	1	0	2	0	0	0	12
	腹部エコー	404	446	426	486	473	393	470	427	471	418	437	473	5,324
	ドプラーエコー	14	15	14	15	21	11	9	11	11	13	20	18	172
	甲状腺エコー	22	31	28	25	26	24	37	24	26	30	18	35	326
	頸動脈エコー	42	50	48	60	51	51	63	45	47	47	47	48	599
	乳腺エコー	27	28	33	32	27	34	29	28	23	17	17	19	314
	マスター負荷心電図	3	4	4	5	11	1	0	3	1	1	0	7	40
	トレッドミル	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ホルター心電図	17	15	12	22	9	11	23	13	16	12	10	12	172
	肺機能	74	62	67	87	66	55	63	58	62	66	53	68	781
	脈波	0	17	6	6	7	6	9	3	8	8	8	5	83
	ABR	2	6	3	5	5	6	8	7	4	1	1	2	50
	ABI	30	30	35	35	27	38	30	35	31	40	28	28	387
小計	1,165	1,288	1,297	1,502	1,396	1,203	1,418	1,238	1,313	1,264	1,229	1,375	15,688	
病理	細胞診検査	236	270	260	269	230	230	278	246	235	265	207	224	2,950
	病理検査	219	277	274	353	306	282	302	288	250	274	258	286	3,369
	免疫抗体法	22	16	13	13	11	10	11	6	10	9	9	11	141
	迅速術中組織検査・細胞診	6	5	5	6	6	9	4	7	6	2	5	5	66
	剖検数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0



..... 4

薬剤部の現況

4. 薬剤部の現況

【スタッフ】

薬剤部長 宇梶明起
部長補佐 松岡慶子
管理主任 福井司郎
主任 南野充宏
主任補 小門明美
薬剤師 白鞘直明、葛城（6月～姓変更；笹栗）美幸、渡邊直之
事務職 吉ノ谷 知子

【概要】

平成25年度は前年度末3月に事務職の異動により上記の体制（薬剤師8名+事務職1名）でスタートしたが、同年6月に小門が退職、また翌年1月末には渡邊が退職予定となったため、代わりに8月に中田ひとみ薬剤師が、9月には野中あおい薬剤師が、それぞれ入職した。この直後1名増員状態となったため、10月から5階病棟で病棟薬剤業務をシミュレーションとして開始し（算定はなし）、引き続き増員要望を行っていたところ、12月に田辺和史医事課長（薬剤師）が異動により薬剤部長に着任、宇梶が診療局参事へ昇格した結果、年度最終（平成26年2月～）で薬剤師9名+事務職1名の体制となった。

上記のとおり2名退職3名入職とメンバーが入れ替わり、一方、新規に病棟薬剤業務（5階・内科病棟）を開始したことによる影響で、薬剤管理指導実績の低下が懸念されたが、各人が奮闘した結果、件数は△0.9%、収益は△1.5%に留まった。その他、引き続き後発品使用推進・病棟薬剤師を含むチーム医療の促進等、薬物療法やリスクマネジメントにおいて、更なる医療の質向上に努めた。

年間の院外処方箋発行枚数は74,768枚、院内処方箋枚数は25,553枚（外来3,948入院21,605）、院外処方箋発行率は95.0%と前年とほぼ同じだが処方箋枚数はそれぞれ微増した。

採用薬品数については、平成24年4月からのDPC開始以来、引き続いて薬事委員会において後発品を提案し、先発薬品21品目を後発品に追加変更して、後発品合計236品目（内用剤；96品目、注射剤；98品目、外用剤；42品目）とし、後発品採用率を品目ベース21.4%と20%以上にキープ。また特に後発品のある先発品の後発品への変更率が50%台後半に達した結果、機能評価係数Ⅱの後発医薬品指数に関して、DPC係数が最大0.0154のところ0.0152とほぼmaxに近い係数を獲得することになり、DPCにおける収益に貢献することに繋がった。

薬剤管理指導については、ハイリスク薬等を含む指導算定（380点）件数が1,099件、それ以外の薬剤の指導算定（325点）件数が3,719件、退院時指導加算は年間1,299件とハイリスク薬を含む処方の服薬指導が減少したが、それ以外は増加した。収益合計は17,406,400円/年と前年より267,350円の減額となった。

チーム医療についてはICT、糖尿病・NST・褥創・疼痛緩和チームへ参加、感染対策委員会（ICC）においては前年同様、特定抗菌薬届出に基づき毎回報告して適正使用を促し、また病棟薬剤師

が医師から抗MRSA注射薬等の用量・用法の投与計画のコンサルトを受けシミュレーションやTDM所見をカルテに添付するなど薬剤師のチーム医療への参加が定着した。

抗がん剤混注業務については、細胞毒性のある抗がん剤の混注（580点）が516件、ホルモン剤・モノクロナール抗体の混注（430点）が241件の合計757件と、前年の640件から18.3%も増加し、加算収益も前年の3,512,500円から4,029,100円/年と14.7%増加した。また同時に入院混注件数も前年の139件から178件へ28%増と、入外共に大幅に増加した年度であった。

病棟薬剤業務に関しては、10月から一病棟（5階）で病棟薬剤業務をシミュレーションとして開始し、主な業務内容として①配薬セット（一日配薬患者の処方点検及び準備）、②配置薬及び管理薬の点検補充、③処方・注射指示内容確認、④医師・看護師からの薬事相談、⑤薬品鑑別などを行い、所要時間1日平均約5.3時間であった。

持参薬鑑別に関しては、入院DPCによる持参薬の有効利用が促進され、鑑別依頼が増えた結果、前年度合計1,049件であったものが、本年度合計1,736件と前年比65.5%アップの大幅な増加になった。

薬学生実務実習については、Ⅲ期（9月30日～12月15日）1名（大阪薬大）、Ⅳ期（1月6日～3月23日）1名（大阪大谷大薬学部）を受け入れ合計2名指導した（Ⅰ期；4月～7月、Ⅱ期；7月～9月は受け入れ無し）。

【学会発表】

- ・平成25年8月10日(土)・11日(日)；第16回日本医薬品情報学会 総会・学術大会 口頭発表『泉大津市立病院におけるDPCへ変更に伴う後発医薬品導入の取り組み』（於 名古屋市；名城大学薬学部）；宇梶明起
- ・平成25年11月23日(土)；第50回日本糖尿病学会近畿地方会 口頭発表『インスリン自己注射手技指導再介入の必要性』（於 京都府；国立京都国際会館）；葛城 美幸 松岡慶子、川崎華子、重田美由紀、泉谷めぐみ、田口真弓、松尾みゆき、江藤潔子、李 英子

【講演・研修会等】

- ・平成25年9月30日(月) 泉大津市出前講座『ジェネリック医薬品について』；講師 宇梶明起（宮町・宮公民館）
- ・平成25年11月21日(木) 泉大津市出前講座『知って得するお薬の飲み方、使い方、飲み合わせについて』；講師 宇梶明起（森町・条東長寿園）

【認定等】

- 日本糖尿病療養指導士認定機構 認定薬剤師 1名
- 日本薬剤師研修センター 認定薬剤師 2名
- 日本薬剤師研修センター 認定実務実習指導薬剤師 2名
- 日本静脈経腸栄養学会認定 栄養サポートチーム（NST）専門療法士（薬剤師） 1名

平成25年度薬剤部統計

	外 来								入 院								
	院外処方箋枚数	一般名処方加算件数	院内処方箋枚数	左記のうち小児科救急処方箋	院外処方箋発行率%	がん化学療法 ミキシング件数			処方箋枚数	注射箋		薬剤管理指導（服薬指導）件数				持参薬鑑別件数	適正使用提案情報提供件数
						580点	430点	入院		枚数	Rp件数	ハリス薬(380点)	その他の薬(325点)	麻薬管理加算(50点)	退院時指導加算(90点)		
平成25年4月	6,182	3,069	231	170	96.4%	35	15	13	1,762	1,764	5,195	103	278	9	121	111	49
5月	6,533	3,220	386	208	94.4%	44	17	22	1,734	1,793	5,115	96	271	11	98	150	37
6月	5,881	2,817	302	207	95.1%	36	12	15	1,653	1,687	4,492	98	268	3	115	104	23
7月	6,481	3,176	348	248	94.9%	45	23	23	1,841	1,880	5,378	86	314	2	88	146	25
8月	6,256	3,165	301	192	95.4%	45	16	10	1,850	1,826	4,871	61	372	4	113	160	18
9月	5,675	2,903	240	153	95.9%	28	19	6	1,624	1,634	4,275	75	332	3	75	124	9
10月	6,606	3,485	330	163	95.2%	51	25	6	1,820	1,848	5,209	80	337	7	124	156	21
11月	6,227	3,349	306	197	95.3%	40	20	14	1,983	1,786	4,950	89	300	6	97	148	29
12月	6,410	3,301	363	196	94.6%	42	25	18	2,064	1,709	4,458	76	351	9	135	144	38
平成26年1月	6,056	3,160	416	273	93.6%	48	24	22	1,784	1,533	4,094	106	281	6	97	163	49
2月	5,955	3,096	319	261	94.9%	51	23	10	1,842	1,827	5,358	111	282	7	107	166	57
3月	6,506	3,349	406	261	94.1%	51	22	19	1,699	1,982	5,899	118	324	5	129	164	44
合計(件)	74,768	38,090	3,948	2,529	95.0%	516	241	178	21,656	21,269	59,294	1,099	3,710	72	1,299	1,736	399
						935						4,176,200円	12,057,500円	36,000円	1,169,100円		
月平均(件)	6,230.7	3,174.2	329.0	210.8	95.0%	77.9			1,804.7	1,772.4	4,941.2	91.6	309.2	6.0	108.3	144.7	33.3

○院外処方せん疑義照会件数

	H25/4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H26/1月	2月	3月	計	月平均
門前薬局	64	77	62	90	84	56	69	89	75	63	79	80	888	74.0
市内薬局	12	12	16	14	14	22	15	14	16	9	21	18	183	15.3
市外薬局	7	6	10	9	11	5	12	7	3	5	3	8	86	7.2
計	83	95	88	113	109	83	96	110	94	77	103	106	1,157	96.4

○薬剤部への院内問い合わせ件数

	H25/4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H26/1月	2月	3月	計	月平均
医師	25	13	13	15	12	3	8	14	19	17	33	19	191	15.9
看護師	16	13	5	5	4	4	10	13	12	21	16	21	140	11.7
薬剤師から医師	1	8	2	2	1	2	1	0	7	8	6	1	39	3.3
患者	2	2	2	2	0	0	0	2	0	3	0	1	14	1.2
クレーク	3	1	0	0	1	0	1	0	0	0	2	0	8	0.7
その他	2	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	2	7	0.6
計	49	37	23	25	18	9	21	29	38	49	57	44	399	33.3

..... 5

看護部の現況

.....

5. 看護部の現況

看護部の理念

私たちは患者さんの苦痛を癒すために愛情と責任をもって最善を尽くします。

平成25年度 看護部目標

優しい「手」と「目」で患者に寄り添う看護を実践する。

1. 質の高い看護を実践する。
2. 病院の方針を理解し、前向きに取り組む
3. 笑顔で挨拶
4. 専門職としての自覚を持ち、役割を遂行する。

【平成25年度の主な取り組み】

1. 患者サービス・接遇向上の目的で、看護師長が輪番で9：30～11：30の間、1階フロアで来院者の対応を行う事を開始した。このことで、来院者が不便に感じていることや、看護師長自身が気づいた点などを日誌で報告することで、これらの問題点の改善につながった。
2. 病棟看護師が看護本来の業務に集中できるよう、平日の8：30～17：00の間に病棟クラーク1名を各部署に本格的に導入した。
3. 前年度1月から8床で開始したNASVA委託病床が、4月1日から16床を定床として新たに患者受け入れを開始した。
4. 救急患者受け入れという市民ニーズに少しでも応えたいという目的で、看護師長の遅出勤務を8月から開始した。
5. 10月から地方公営企業法全部適用となり、さらに市民ニーズに応えるため、看護師長の管理夜勤を開始した。（月・火・金曜日）これに伴い、小児救急輪番時の管理準夜師長業務は廃止した。（11月開始）
6. 従来、外来治療室（外来化学療法室）は週4回のオープンであった。患者サービス・病院機能を考慮した結果、週5日のオープンに変更した。（12月開始）
7. 患者サービス・看護職員の接遇向上を目的に、看護部接遇研修を毎月1回実施した。また、患者サービス向上委員会を新たに設け、患者アンケート調査を11月から開始した。アンケート結果は委員会で検討し改善策の立案・実施を継続して行っている。
8. 1看護単位が三交替であったが、今年度から二交替を開始できた。
9. NASVA委託病棟への入院希望患者の訪問を、地域医療連携室の職員とともに、当該部署の看護師も同行することとした。
10. 主任補昇任試験を導入し、当院以外での看護経験を活かせるようにした。

[看護部]

看護部長 鳥羽 敏子

看護部理念	私たちは患者さんの苦痛を癒すために愛情と責任を持って最善を尽くします				
25年度看護部目標	優しい「手」と「目」で患者に寄り添う看護を実践する				
区分	目標	主な成果	25年目標値	25年実績値	分析・評価・今後の課題
顧客の視点	質の高い看護を実践する	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師個々の看護実践力の向上 ・効果的なカンファレンスの実施 ・認定看護師の活躍による看護の質の向上 	<p>看護に関するお礼件数 120件以上 患者参画型看護計画修正数 400件以上</p> <p>ケースカンファレンス数 100件/月 合同カンファレンス 10件/月 アクシデント数 0件 認定看護師による研修実施回数 12回/年以上 認定看護師による研修参加者数 各部署3人以上/回 褥瘡発生件数 0件</p>	<p>279件 + α</p> <p>600件</p> <p>合同 176件 アクシデントあり</p> <p>研修実施12回以上</p> <p>研修参加者 3人以下 褥瘡発生 6件</p>	患者サービス向上委員会を本年度から設置し、アンケートを実施。多くのお礼の言葉をいただいた。各部署にフィードバックすることでサービス向上の相乗効果があったと考える。次年度もアンケートは継続する。看護計画修正、カンファレンスも行っており質の高い看護の実践に結びついている。アクシデントについては、要因として「確認不足」が多くある。次年度は徹底して「確認不足」で生じるアクシデントを「0」にするように取り組む。認定看護師による研修は実施されているが、参加者が目標以下である。次年度は認定看護師が実施する研修の支援と、参加を促すための方策が必要と考える。褥瘡院内発生に関しては、看護研究で取り組んだ部署もあり、具体的な予防策も実践されている。
財務の視点	病院の方針を理解し、前向きに取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・病院の方針が理解できる ・NASVA病床が順調に運営される ・7対1入院基本料維持 ・急性期看護補助体制加算維持 ・中途退職者がでない 	<ul style="list-style-type: none"> ・説明会開催数 必要な都度 ・看護必要度 15%以上 ・中途退職者 2人以下 	<p>必要な都度開催</p> <p>3回(5月、6月、12月)15%以下 10人</p>	病院全体での開催、師長会での説明の実施等を通じて、25年度10月から全部適用となった。病院の方向性の不安定さの影響か、予定の2人の中途退職者以外に8人が退職した。6月に実施する意向調査に関する曖昧な回答を早めに精査していく必要がある。看護必要度は2ヶ月連続して15%以下があったが、運営委員会での提言等で全職員の協力のもと、3ヶ月目には15%以上となった。
内部プロセスの視点	笑顔で挨拶 全看護職員の成長	<ul style="list-style-type: none"> ・笑顔で挨拶の実践 ・看護サービスの質向上 ・苦情の減少 ・業務改善 ・看護職員の成長 	<ul style="list-style-type: none"> ・患者サービス向上委員会での取組数 3件以上 ・意見箱への苦情件数 0件 ・市民からの良い評価の数 1件以上 ・実習生からの良い評価の数 3件以上 ・業務改善数 260件以上 ・看護師長学習会開催数 6回以上/年 	<p>2件 1件 あり</p> <p>13件</p> <p>768件 6回</p>	看護部の接遇研修を通して接遇面の向上があった。市からも「以前よく耳にした看護師の接遇面等について悪い評価は、聞かなくなった」という評価をいただいた。看護師長学習会は計画的実施は出来なかったが、基礎的な内容、トピックスの伝達等を実施した。次年度は計画的な実施・研修時間の確保・研修内容の検討を行い、師長会全体で研修会の運営を行っていく。全部適用になり、看護職員に今迄の不安定さがいくらかは払拭されたようで、来訪された厚生文教委員からも「職員の表情が変わってきた」という評価があり、看護職員の帰属意識等についての成長が感じられるようになった。
学習と成長の視点	専門職としての自覚を持ち、役割を遂行する	<ul style="list-style-type: none"> ・自己啓発 ・安全な看護の提供ができる ・後輩指導ができる ・キャリアアップ支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・オンデマンド研修受講数 8回/人/年以上 ・実習指導担当者の増加 各部署1名増 ・夜勤開始時期 新卒7月 既卒4月 ・院内院外研修参加数 1回/人/年以上 ・院外研修参加支援 30人 	<p>8回以下 35名増</p> <p>新卒・既卒とも遅れた</p> <p>1回以上 30人以下</p>	個々の看護実践能力の向上を目的にe-ラーニングを導入したが、内容の制限・学習環境の整備・意識付けの問題があり受講者は少なかった。次年度は導入せず、別の方法で自己啓発を図っていく必要がある。実習受け入れ施設が多岐にわたったこともあり、実習指導担当者は順調に増加した。学生指導を通じて専門職としての自覚につながったと考える。院外短期研修・管理者研修・実習指導者講習会・認定看護師の学会参加を支援することができた。次年度も継続して行っていく。認定看護師教育課程の受講希望者がいないのが課題である。新採用者、既卒者であらたに採用した職員を対象に早い時期から動機づけをしていきたい。

[3階詰所]

看護師長 小林 祥子

看護部理念	私たちは患者さんの苦痛を癒すために愛情と責任を持って最善を尽くします				
25年度看護部目標	優しい「手」と「目」で患者に寄り添う看護を実践する				
部署の使命	1. 患者に寄り添い温もりある看護を実践する 2. スタッフ全員が生き生きと働く職場を作る				
区分	目標	主な成果	25年度目標値	25年度実績値	分析・評価・今後の課題
顧客の視点	患者に寄り添い温もりある看護を実践する	効果的なカンファレンスの実施 合同カンファレンス アクシデントを起こさない 患者参画型看護計画の継続 記録監査件数	120件以上/年 3件以上/年 0件(レベル3以上) 計画数100% 修正数60%以上 各チーム30件/年	77件/年 20件/年 6件 転倒転落2件/年 100% 54.3% 10件/年	カンファレンスの時間に入院や搬送等が重なり日勤者全員が参加できることが少ないが、短時間・少人数でも集中して参加し内容を深めることができるような取り組みが必要。医師・リハビリ・MSWを交えて退院カンファや術前カンファを実施できた。今後は薬剤部や栄養科も交えてのカンファを行っていききたい。高齢者の硬膜外チューブや胃管の事故抜去5件、注射薬の誤投与1件。周術期の不穩の予防・対策が必要。今後はチューブ類は早めに抜去することや、3点柵や離床センサーの積極的な使用を検討していくことが必要。又、他のスタッフと情報共有し、再発防止対策の強化を図っていく。 入退院が多く、業務が複雑なため計画が画一的になりがち。個別的な計画・修正ができるよう勉強会で意識づけしていく。 監査数が少ない。業務に流され実施予定日に出来ない事が多いので、記録委員や記録係を中心に対策の検討が必要。
財務の視点	病院経営への貢献	7対1入院基本料と急性期看護補助体制加算維持 超過勤務時間を減らす 退院システムの活用 摂食嚥下機能加算がとれる	看護必要度15%以上 平均3.6時間以下/月 ケアマネ加算30件以上/年 10件以上/年	16.1% 5.3時間/月 55件/年 19件/年	勉強会を開催し、必要度15%維持の重要性を理解させ、個人指導を含め正確に入力できるよう指導していく。又、維持できるよう監査の徹底と結果をフィールドバックしていく。入退院が複雑で医師の指示が締切時間を過ぎることが多い。急がない指示は次勤務者へ依頼するなど振り分けが必要。緊急入院に関しては応援機能も利用し対応していく。 連携室との連携がスムーズになり、加算の取り方も周知できた。維持できるよう声かけしていく。 勉強会で必要性を周知できた。維持できるよう声かけしていく。
内部プロセスの視点	働きやすい環境づくり	二交替勤務に向けての検討 業務改善 自由な意見交換ができる 看護補助者(土曜日)の活用	20件以上/年 アンケート7月実施 毎月100%	17件/年 8月実施 100%	1月から二交替を試行し導入できた。三交替とのミックスであるが、個人のライフバランスに合った勤務計画ができるよう調整していく。業務改善数は目標に届かなかったが、看護の質を高められるよう勉強会等で意識づけしていく。全員にアンケート実施できた。今後も必要に応じて意見交換できるよう取り組んでいく。土曜日は半日出勤が定着したことで、日勤業務の負担が軽減してきた。今後は日曜・祝日にも拡大できるよう調整していく。
学習と成長の視点	看護実践能力の向上	専門的知識・技術の習得 院内・院外研修の参加 勉強会実施 病棟勉強会の開催数 認定看護師の支援	1人12回以上/年 12回以上/年 活動数4回/月 ストーマ外来患者数	1人4.7回/年 10回/年 4回/月 のべ239人	e-ラーニングを含めて参加率アップできず、院内の必須研修やラダー研修の参加率が低い。研修案内の検討と個別の声かけが必要。チームの行動計画に挙げ意識づけしていく。 定例化できた。教育係を中心に継続できるよう支援していく。 週1回のストーマ外来は定着している。他病棟からの褥瘡の相談や被覆材の相談に対応している。今後はがん患者指導管理料がとれるよう業務調整と支援を進めていく。

[4階詰所]

看護師長 堀内 正子

看護部理念	私たちは患者さんの苦痛を癒すために愛情と責任を持って最善を尽くします				
25年度看護部目標	優しい「手」と「目」で患者に寄り添う看護を実践する				
部署の使命	サービス向上に努め、寄り添う看護を提供する				
区分	目標	主な成果	25年度目標値	25年度実績値	分析・評価・今後の課題
顧客の視点	患者のニーズに応える看護の提供	お礼の件数 看護計画評価修正数 インシデントアクシデント検討 アクシデント数 ケースカンファレンス数 合同カンファレンス数 新生児サマリー数	20件/年 1件/月 1回/月 0件 12件/月 12件/年	48件/年 5件/月 1回/月 0件 4件/月 4件/月 72件	親切・安心・感謝の言葉を多数戴き、お礼の件数は増加した。苦情の件数はゼロにならなかったが、苦情の内容の共有・検証を行い改善を図った。看護計画修正数は対象者が少人数の為増加に繋がらなかった。ケースカンファレンス数は増加しなかった。日々の話し合いを記録することでカンファレンス実施という意識づけにつながる為記録の充実を図る必要がある。新生児サマリーはハイリスク患者を保健センターと連携して援助していく体制が守られている。今後も連携を深めていく。財務の視点では依頼されたOGCSは100%受け入れができており、スムーズに受け入れられるよう環境を整えている。今年度は分娩件数の増加はなかったが、助産師外来は他院で出産された方がお乳トラブルで受診する患者が増えた。母乳育児支援について学習をすすめ、指導内容の統一やスキル向上することが今後の課題となる。内部プロセスの視点では業務改善の1つとして早期母児接触実施に向けての業務内容の検討・マニュアル・チェックリスト・同意書を作成した。次年度は活用後の評価、修正を行う予定である。また、分娩リーダーが増加するためにサービス向上に取り組んだ。昨年からは始めたマタニティヨガの教室は月2回の午前・午後に取り組んだ。昨年からは始めたマタニティヨガの教室は月2回の午前・午後に取り組んだ。新しい企画として前期は腰痛ヨガ、後期は安産ヨガを取り入れた年間計画を立て教室運営ができた。新たに2名インストラクターの認定を取ることができたので教室の内容変更するなど工夫ができた。インファントマッサージも昨年より始めたが希望者が多くなった月は午後も追加で開催することができた。産後のお母さん達から親子で集まる機会の要望が聞かれる事があった。マッサージ修了者が集まる「おさらい会」も毎月開催する事で集まる機会の提供ができたことは子育て支援に繋がったといえる。さらに「次の子もここで」という声も聞かれリーダー獲得の一助になったと考える。学習と成長の視点においてはオンデマンド研修受講数は少なく目標達成できなかった。個々に受講している研修数は多くあったので研修内容や慣れない自宅での研修が定着しなかったのが原因と考えられる。詰所内の勉強会はチーム間での応援体制の強化に向けた勉強会を助産師に依頼した。ポジショニングとラッチオン、NST装着など看護師の技術習得に繋がった。今年度は新しい大学の実習生の受け入れを2校おこない、実習指導担当者も増やすことができた。短期実習ではあるが良い評価を学校からもらえた。しかし、異なる学校の教育方針に合わせるなど困難もあった。今後も新しい学校の実習生の受け入れがあるので学生指導者の育成を含め課題を明確にしていきたい。今年度の看護研究は出産後のおっぱいケアについて研究にとり組んだ。多くの人がおっぱいのケアを希望していることが明らかになった。研究を活かし短い入院期間の中で母乳推進や母の悩みに対応していく。次年度も患者の声を大切にして部署全体で看護サービス向上に努めていきたい。
財務の視点	組織の方針に積極的に参画する	病床利用率 分娩件数 助産師外来数 助産師の応援人数 OGCS受け入れ件数 NICUとのカンファレンス数 病院の方針説明会参加数 超過勤務時間数	80% 70件/月 5人 6回/年 80% 2時間/月/人	76.5% 62.7件/月 56件/月 5人 42件 6回/年 16% 3.4時間/年/人	
内部プロセスの視点	看護サービス向上に努める	苦情の件数 業務改善数 地域活動件数 マタニティヨガ件数 インファントマッサージ件数 分娩リーダー件数	0件 60件/年 2回/年 	4件/年 45件/年 1回/年 20名/月 47組/年 58%	
学習と成長の視点	人材育成と専門性を向上させる	オンデマンド研修受講数 リーダー会チーム会での報告 夜勤開始時期 中途退職者数 実習指導担当者の増加 応援体制勉強会数 院内・院外研修参加数	8回/人/年 12回/年 新卒7月・既卒4月 0人 1人 1回/月 1回/年	2回/人/年 6回/年 新卒7月・既卒4月 0人 6人 3回/月 1回/年	

[5階詰所]

		看護師長		西川 朝子	
看護部理念	私たちは患者さんの苦痛を癒すために愛情と責任を持って最善を尽くします				
25年度看護部目標	優しい「手」と「目」で患者に寄り添う看護を実践する				
部署の使命	患者に寄り添う看護を実践する				
区分	目標	主な成果	25年度目標値	25年度実績値	分析・評価・今後の課題
顧客の視点	患者に寄り添う看護	提供した看護に対して患者・家族の満足が得られる	ケースカンファレンス数 3回/週 IC立会い 予定時間内の50% IC立会い時の反応の記録 100%	2件/週 24% 73%	ケースカンファレンスは平均5回/月行っている。目標は達成できていない。珍しい症例や関わりが困難な患者については早期に医師に勉強会の開催を依頼したりカンファレンスへの参加を声かけできるようになっている。病棟全体で患者の情報共有を行い、スタッフ全員で目標達成に向けて行動する事ができるようになっている。即日入院受け入れなどで業務が繁忙で開催できない事もあるため円滑に開催できるよう業務調整を行っていく必要がある。また、今後も主任以上がファシリテーターとなりスタッフ全員でお互いの不足を補い合い共に協力して問題解決に向けて取り組めるよう働きかける必要がある。ICの立会いは平均77%、IC後の反応の記録は、平均72.7%と共に目標達成できていない。理由として、業務多忙や準夜帯でのICであった事が挙げられる。チーム内での時間調整が円滑でなかった。ICに立ち会えない場合は、医師より情報提供してもらいコミュニケーションや連携は図れている。反応の記録は、以前より10%以上アップしており記録する事でチーム内で情報提供する事ができていると考えられる。また、患者・家族に対して共通の認識を持って接することができ統一した声かけ、援助ができるようになっている。今後も継続する。NCP修正数は平均10.8件/月であり目標達成できていない。理由として在院日数が前期に比べ短くなっている事が要因の一つとして考えられる。しかし、問題のある患者に対してはカンファレンスで医師を交えて勉強会を開催し、意見交換を行う事ができている。それらを看護計画に反映させ計画の修正を行う事ができるようになっている。記録監査も適宜行う事ができている。今後もスタッフが自ら考え行動できるよう働きかける必要がある。お礼の件数7件、苦情は1件であった。患者より手紙や色紙、俳句などをいただいた。全てに感謝の言葉が綴られてあった。苦情に関しては、退院後CFがある患者に対してきちんと検査前日・当日の飲食について説明ができていなかった事があった。スタッフにマニュアルを再周知するよう伝達を行った。受け持ち看護師が患者と家族を交えて話す機会も以前に比べ多く持つように心がけており実施されている。患者の家族が来院した際は、患者の状態を伝えるだけでなく家族の思いを傾聴し患者・家族にとってどのような状況がより良いのか考え、医師へ働きかける事ができるようになっている。今後も患者・家族に寄り添った看護が提供できるよう働きかける必要がある。褥瘡発生1件であった。褥瘡が発生したケースについては、予防策としてフィルム剤を貼用しクッションを使用していたが頻回に自己でクッションを抜いてしまった事が要因の一つとして考えられる。ハイリスク患者であっても認知症がありベッド上で体動が激しい場合は、エアマット・フローテーションマットを使用すると転倒のリスクが高くなるため適応しにくい。患者の状態に合った方法で褥瘡予防に取り組むとともに症状が安定し、医師の許可があればリハビリを施行し離床に向けて働きかける必要がある。理学療法士とも連携を取り進めていく必要がある。褥瘡持ち込み患者は、入院時必ずエアマットを使用している。また、定期的な皮膚科医師の診察、フローチャートを用いての評価・管理を行っている。褥瘡が悪化したケースは報告されていない。今後も継続して実施していく。今年度の看研で踵部の褥瘡予防に対する知識と意識の向上、ポジショニング・ポジショニング方法の手技の統一が図れた。今後、援助する際に習得した知識・技術を活かし褥瘡予防に努める必要がある。
		受け持ち看護師の役割を認識できる	看護ケアの説明 お礼の手紙 20件以上/年 苦情 3件以下/年 褥瘡発生数 0件 NCP修正数 10件/月	20件/年 1件/年 3件 12件/月	

区分	目標	主な成果	25年度目標値	25年度実績値	分析・評価・今後の課題
財務の視点	病院経営に貢献できる	病院経営に貢献できる	病床利用率 90%以上 看護必要度 15%維持 超過勤務 1人8時間以内/月 ケアマネ加算 60件以上/年 摂食嚥下機能訓練 100件以上/月	89% 18.10% 1人5.1時間/月 87件/年 129.3件/月	病床利用率については後半はほぼ90%を超えている。病棟目標値である90%以上に達しており目標はクリアできた。これは、平均在院日数の短縮に反映されている。10月17.7日、11月21.2日、12月16.9日、1月18.4日、2月18.9日、3月19.6日平均在院日数18.8日であることからベットが回転していることが言える。ベットを回転させるには退院調整を図りながら入退院の調整とベットの確保、ベット利用率90%キープが出来るバランスを考慮した退院の調整は必要である。今後も患者の入院はお互い協力して受け入れを行っていく。業務調整については、各チームリーダーや日々のリーダーがそれぞれ声をかけ合いながら残務内容の把握を行いながら必要な業務の調整を行う事ができている。行動からリーダー及びメンバーによって、人の采配や業務の調整の判断を行うまでの差はあるが、業務調整とチーム間で協力し合おうとする意識はお互いできている。また、リーダー会において残務の報告を必ず行う事を再周知することで日々のリーダーまたは各チームのリーダーが残務の有無の報告をする行動ができていく。入院受け入れに関して、スタッフの協力がより得られるよう患者の情報の提供だけでなく、チームの今の状況を確認する姿勢も必要である。また他の病棟における入院状況などタイムリーな状況に対する情報の提供も必要である。また、退院調整となる関連部署との連携を入院時から関わっていることもベットを調整する中で重要となり、情報の共有は常に行っておく必要がある。診療報酬についての加算は、ケアマネ加算87件である。前期にチーム内での声かけやシグナルでの明示、退院調整委員からのケアマネ加算や退院支援スクリーニングについての勉強会の開催がスタッフの意識付けとなった。しかし、転院患者は加算の対象とならないため件数が減少した要因になったと考える。また、入院時ケアなどの情報提供の確認や家族への加算に関しての説明などの確認が必要となる事から未確認により加算が取れないことが発生していた。このことから件数が減少した要因の1つともいえる。今後も定期的なケアマネ加算や退院支援スクリーニングについて勉強会は必要である。摂食嚥下訓練平均129.3件であった。目標である1ヶ月100件をクリアした。対象となる患者をチーム内で検討するなど摂食嚥下訓練に対する意識が高まっていると考える。しかし、ケアした内容や改善した内容などの評価ができていないことを踏まえて、今後その評価をどのように行うか検討していく必要がある。超過勤務時間は、5.1時間、目標の月8時間をクリアしている。業務調整とチーム間での協力によりチーム内、チーム間での声かけが行えている事から、業務調整をスタッフが行うことで時間への意識ができてきた。個々により超過勤務時間数に個人差があることについては個々に指導することで差が生じないようになっている。限られた人員の中での人員配置やメンバーの看護力などを考慮した日々のチームへの応援配慮も必要である。
内部プロセスの視点	働きやすい環境作り	相談・協力し合える人間関係ができる	業務改善数 3件/月 超過勤務 1人8時間以内/月 人間関係の問題による中途退職者 0人	41件/年 1人5.1時間/月 0人	業務改善後半は、10件であった。各チームの業務改善においてはミスにつながった事例から改善策を検討するなどリスクの回避ともなる業務改善ができていた。これは、メンバーからの意見の中から問題意識を共有することにもなりよい改善につながっていると考える。各チームリーダーや日々のリーダーがそれぞれ声をかけ合いながら残務内容の把握を行い必要な業務の調整を行う事ができている。その行動からリーダー及びメンバーによって、人の采配や業務の調整の判断を行うまでの差はあるが、業務調整とチーム間で協力し合おうとする意識はお互いできている。これには声をかけやすい関係性によって良いコミュニケーションができていともいえる。話しかけやすい雰囲気作りにはそういった環境であったりそれをスタッフに気づかせるように関わっていくことが必要である。常に同じ行動ができるように個々のスタッフへの教育や指導は必要となり、このことを継続して行っていかなければならない。

区分	目標	主な成果	25年度目標値	25年度実績値	分析・評価・今後の課題
学習と成長 の視点	看護実践能力が高まる (心・技術・知識・マナー)	その人らしさを尊重した看護が提供でき、看護にやりがいを感じられる 共に成長できる 受け持ち看護師の役割を 実践できる	必要な勉強会開催 1回/月 検討シートを使用した 事例検討数 3件/2ヶ月 ケースカンファレンス 10件/月	10回/年 (0.8回/月) 8件/年 96件/年 (8件/月)	10月に2回目の日々のリーダーチェックリストの自己評価を行ってもらった。他チームの把握・協力の部分の評価が下がっていたが、実際には前期よりもチームを超えての応援の姿を見る機会が増えている。チェックリストが1回目・2回目と別紙であった為比較できず、自己評価しづらかったかもしれない。チーム内での勉強会は2ヶ月に1回のペースで定期的に行えた。その時々、業務の中で気になった題材を取り上げ、勉強会を通してタイムリーに知識を深めることへとつながり、看護に活かされている。病棟での勉強会は6件で、中でも、ケアマネ加算・退院支援の勉強会は、高齢で介護度の高い患者の多い当病棟での継続した支援につながられる知識となった。また、当病棟は糖尿病患者が多く、指導や諸手続き、管理料等複雑な事柄の把握が繁雑になりやすい。今年度、糖尿病係による糖尿病ファイルの作成、周知を行った。倫理検討シートを使用しての倫理検討は後半5件と目標達成はできなかったがスタッフからの「その時の看護を振り返ることができて良かった」という声もあり、その人らしさを尊重した看護が提供できたか、意見交換を行う中で、自分の看護の振り返り、他者の看護の共有と、共に成長できる場となった。業務多忙の中での倫理検討シート作成は大変ではあるが、検討の場では、一人一人、自分の意見や思いを語り、とても貴重な時間となっている。受け持ち看護師の役割実践については、後半、評価表の自己評価は行わなかったが、受け持ち患者を理解するための取り組みとして、疾患の理解・治療方法の把握を行えるよう、医師を交えてのカンファレンスを行った。その中で、医師による勉強会・意見交換を行い、治療方針の明確化・看護問題の抽出が行えた。今後も継続し、問題意識を持ち、受け持ち患者を理解し、考え、寄り添う看護が提供できるような、受け持ち看護師の育成に努めていく。いい看護の場面を見かけたら、頑張りに対して、その都度声をかけ、少しでもやりがいにつながればと考える。

[6階詰所]

看護師長 尾崎 弘己

看護部理念	私たちは患者さんの苦痛を癒すために愛情と責任を持って最善を尽くします				
25年度看護部目標	優しい「手」と「目」で患者に寄り添う看護を実践する				
部署の使命	患者中心の看護を提供する 業務改善を行い職場環境を整える 教育体制を構築し専門性を向上させる				
区分	目標	主な成果	25年度目標値	25年度実績値	分析・評価・今後の課題
顧客の視点	患者に寄り添った看護ができる	個々の患者に合せた看護が提供できる 安全安楽な療養環境の整備	患者参画型看護計画修正数 4件/月 ケースカンファレンス 26件/月 合同カンファレンス 1件/月 レベル3以上 0件/年 レポートカンファレンス 20件/年	7件/年 8件/年 18件/年 5件/年 11件/年	患者参画型看護計画に関する勉強会を行ったことで、年間目標の達成は出来なかったが、件数が増加した。今後もケースカンファレンスや合同カンファレンスも含めてカンファレンスを開催し、患者のニーズに沿った看護ケアが提供できるように支援していきたい。リスクカンファレンスに参加し、SHELLモデルで分析を行い、的確な対応策が導けるように支援した。結果、分析モデルに対する知識の提供も行ったが、スタッフ間で分析モデルを用いたカンファレンスを開催するのは困難であった。次年度もリスクカンファレンスに参加し、分析モデルを用いて問題解決を行い対策を講じることで、患者の安全安楽な療養環境を整備できるように支援していきたい。
財務の視点	業務整理ができる 時間管理ができる	物品管理 整理整頓 時間管理	業務マニュアルの作成・評価 随時 超過勤務時間 6時間/月/人 コストに関する説明会 2回/年	27件/年 7.6時間/月/人 2回/年	物品定数が少なく、他部署から借用することが多いが、物品の管理が行えず、借用したままになっていることが多かった。適切な定数配置と物品の管理方法について次年度検討していきたい。業務改善の必要性を認識して6階一般倉庫での物品管理が可能となり、小スペースでの適切な管理が構築されつつある。業務しやすい環境づくりをスタッフと構築していきたい。 超過勤務は、目標値が達成できなかった。今後はリーダーを育成し、チーム医療を最大限に発揮することで、チームワークを良くし、質の高い看護ケアが提供できるように支援したい。ペーパーでコストに関する説明をもらった。医事課と意見交換を行ったことで、コスト意識は高まったが、コストチェック漏れが続いている。今後は、コストチェック漏れが防げるよう、病棟のクレークも含めて改善策を講じていきたい。
内部プロセスの視点	救急外来と詰所業務が両立できるスタッフの育成 接遇の向上	救急外来と詰所業務の修得 苦情の減少	救急外来と詰所業務が両立できるスタッフ数 7人/年 苦情件数 0件/年	8人/年 1件/年	年目標を上回り達成することが出来た。今後も詰所業務修得看護師に対し救急業務を指導し、救急外来と詰所業務が両立できるスタッフ数を育成していきたい。それと同時に、専門知識も指導し、看護の質向上につながるよう教育プランを検討していきたい。患者サービス向上委員会のアンケートで、対応やプライバシーに関して改善が必要な結果があった。カンファレンスを行うことで、接遇に関して関心が高まり、新たな対策を講じることが出来た。次年度もさらに接遇を向上させ、患者満足度が上がるように対応できるスタッフの育成に努めたい。
学習と成長の視点	自己啓発ができる 専門知識の向上	救急看護の知識向上 泌尿器科看護の知識向上 脳外科看護の知識向上 フィジカルアセスメント能力向上	e-ラーニング受講数 8回/人/年 認定看護師研修参加数 2回/人/年	90回/年 36回/年	教育係が中心となり、研修内容や資料の提示を行い、受講推進を行ったが、e-ラーニングの受講数は、格差が著名であった。e-ラーニングは受講できなくなるが、自己研鑽の必要性を理解し、行動できるように次年度も働きかけたい。研修参加者は少なかった。次年度は、院内研修に1人は参加し、詰所内で伝達できるような働きかけを行いたい。

[6階小児詰所]

看護師長 藤原 美幸					
看護部理念	私たちは患者さんの苦痛を癒すために愛情と責任を持って最善を尽くします				
25年度看護部目標	優しい「手」と「目」で患者に寄り添う看護を実践する				
部署の使命	子どもと保護者が安心できる療養環境の提供				
区分	目標	主な成果	25年度目標値	25年度実績値	分析・評価・今後の課題
顧客の視点	小児の療養環境を整えることで、子どもと保護者が安心して療養できる	患者参画型看護計画の評価 レスパイト入院の受け入れ 母児同室入院の受け入れ 安全安楽な療養環境の整備 療養指導の充実 小児病棟としての環境整備	1人3件/年 24件/年 3件/年 6回/年	164件 39件 4件 12回	決定された受け持ち看護師が看護計画の評価を継続して実施している。レスパイト患児においても1人に対し2人の受け持ち看護師を決定し、スムーズに受け入れができるようにしていく体制とした。部署内でのケースカンファレンスは情報交換をかねて医師と2回実施されたのみで、ほとんどが看護師同志で行われている。レスパイトの受け入れにおいては医師とのケースカンファレンスができていない。院内院外の看護師や他職種との連携ができてきているので、安心して受け入れができるよう次年度はカンファレンスを看護師が主となり進めていく。母児同室については、今年度作成した手順に沿って受け入れ、その都度NICU看護師と情報共有し評価をしながら今後も進めていく。病棟のエントランスの様態替えは季節や行事に合わせ、レクリエーション係中心に替えている。
財務の視点	安全・安心な業務の遂行	効率的な時間管理 二交替勤務の定着 リスクの低減 効率的な業務の推進 入院待ち時間短縮 接遇の向上	6時間/月 20件/年 12件/年	2時間 43件 13件	時間管理はチームリーダーが主となり、メンバー同士で業務を把握してきている。二交替勤務は定着できているが、冬場の繁忙期の小児救急は小児科応援時間も長くなるため、フリー1人を今までと同じ準夜深夜に分け効率的な業務の推進を考慮した。リスクはレポート内容の情報共有に努め、必要時はカンファレンスを行い業務改善を行った。レポート内容が類似していることもあるため、同じことを繰り返さない業務改善や周知を継続して行っていく。入院時リエゾン冊子を家族より聞き取り調査後、新たに作成した。小児科外来にも引き続き協力要請し、冊子を活用して待ち時間の利用と、複数入院時少しでも早く次の入院患者を受け入れることができるように繋げたい。
内部プロセスの視点	一般病棟との応援機能の維持 小児救急との連携 さつきナースの実践	業務整理 小児救急が出来る 新採用者の定着	2人/年 100%	13件 2人 50%	業務改善については、カンファレンスで意見交換を行いながら進めた。以前業務改善したにも関わらずマニュアルが変更されていなかった内容もあったため共有するためにも、その都度マニュアルの変更を行っていく。小児救急においては、2人が6階一般詰所の救急メンバー指導の下育成された。育成された小児救急メンバー以外に、小児救急日には、詰所のフリーが調整をしながら小児救急の応援に行っている。4月の新採用者は退職となってしまったが、3月からの新採用者をチーム、プリセプターが主となって関わり指導している。小児科経験がないためフォローしながら指導し関わっていく。
学習と成長の視点	専門的知識の向上	自己啓発(勉強会開催) 実習指導担当者の増加	6件 1人	14件 1人	部署での勉強会の実施においては教育係が企画し、開催件数の目標も達成されている。主にカンファレンスの時間で行い、1回ではなく数回する時もあるため多く参加できている。人工呼吸器装着しているレスパイト患児は夜勤も増員しているため、人工呼吸器についての勉強会を継続して実施していく。実習指導者は9月より1人増員した。担当者と継続していく。

[NICU・3階GCU]

		NICU看護師長		田中 美紀	
看護部理念	私たちは患者さんの苦痛を癒すために愛情と責任を持って最善を尽くします				
25年度看護部目標	優しい「手」と「目」で患者に寄り添う看護を実践する				
部署の使命	1.NICU看護の知識・技術の向上 2.産科・小児病棟、小児科外来及び地域との連携及び継続看護の充実				
区分	目標	主な成果	25年度目標値	25年度実績値	分析・評価・今後の課題
顧客の視点	子どもの最善の利益を尊重した看護の提供	情報共有の充実 面会時間の充実 子どもが害を被ることなく治療を受け入れられる スムーズに退院支援が出来る	ケースカンファレンス数 60件 他職種との合同カンファレンス数40件 インシデントレポートカンファレンス数 アクシデント数(レベル3以上) 保健センターへの連絡数	62件 39件 22件 15件 35件	情報共有の充実として、木曜日の周産期カンファレンスへの参加を確実にするために今までは業務終了者から参加していたが、参加者を勤務表で指名し業務調整し遅れずに参加し、カンファレンスでの情報を業務に生かすことができました。毎週金曜日に行われているケースカンファレンスにMSWが参加するようになり、情報共有の場となっている。今後は、ケースによってはカンファレンスの場から連携が開始できるようになるのではないかと考えている。患者情報の共有については、ウオーキングカンファレンスの内容を看護計画の評価・修正も視野にいれ、充実を図っているところである。プライマリナーズは、必要時保健センターへの連絡調整が出来ている。今年度より保健所から保健センターに移行したが連携はスムーズである。面会時間拡大は、スタッフの意識調査まで実施できた。このことは、次年度につなげていきたい。レポートの取り扱いについて検討しその仕組みが出来たが、周知が必要であり、レポートのカンファレンスが進まないのが現状である。今後は、カンファレンスを定着させていく必要がある。
財務の視点	NICUの順調な運営	NICU必要人員の確保 新採用者の定着 中途退職者が出ない 物品管理	NICU必要人員の確保 新採用者の定着 中途退職者 0人 物品管理 3回/年	1人 3回	必要人員は確保された勤務表であった。そのために人員が配置されている。中途退職者7月末に1名。4月、7月の採用者は定着した。物品は委託業者が変わった時は混乱があったが、そのことを機会に物品係が定数を見直し、デッドストックを見直した。しかしNICU特有の物品においては難しいものがある。突然のことにも対応できる備えが必要である。今後も継続的に見直していく。
内部プロセスの視点	スタッフ全員が育つ環境作り	笑顔であいさつの実践 チーム活動の充実 業務改善 院内他部門との連携が強化される	お礼の件数 50件 チーム会の実施数 10回 業務改善数 30件 連絡会の開催数 12回	50件 10回 52件 4回	看護部全体での取り組みでもある笑顔で挨拶は、励行できている。身だしなみチェックもできている。今後も継続する。スタッフが主体的にNICUの環境を検討し、環境整備された。今後は問題があれば検討をする。他部署との連携会議は、継続されている。今後も問題解決の場としていく。今年度は、チーム会を始動させた。スタッフそれぞれが問題意識を持ってチーム会に参加し主体的に運営できるようになった。今後も問題解決しながら看護の質向上を図っていく。
学習と成長の視点	専門的知識・技術が向上し安全な看護の提供が出来る	自己啓発 教育体制の充実 後輩育成ができる	院内院外研修参加数 10回/人 オンデマンド研修参加数 6回/人 部署内勉強会実施数 スタッフによる勉強会実施数 30回/年 蘇生講習会受講者数 1回/人	院内10回 院外1.8回 0.4回/人 10回/年	オンデマンド研修は参加があまりなかった。個人的に参加している研修が多い。部署内での勉強会は多くの参加者があった。特に新人又は異動対象者の研修はスタッフ全員で調整し実施した。今後はスタッフによる勉強会・デモが増えるように進めていく。

[手術室・内視鏡センター]

		看護師長 永田 美華			
看護部理念	私たちは患者さんの苦痛を癒すために愛情と責任を持って最善を尽くします				
25年度看護部目標	優しい「手」と「目」で患者に寄り添う看護を実践する				
部署の使命	1.患者に寄り添い、その人らしいぬくもりのある看護を提供する 2.チームワークを高め、活き活きと働ける職場環境を整える				
区分	目標	主な成果	25年度目標値	25年度実績値	分析・評価・今後の課題
顧客の視点	優しさと思いやりを持ち信頼できる看護を提供する	術前・術後訪問を行い看護を振り返る アクシデントが起きない	術前後訪問 100% 術前後振り返りカンファレンス 内視鏡100% OP 24件 アクシデント数 0件	内視鏡 100% OP 術前100% 術後99% 内視鏡 100% OP 28件 内視鏡 3件 OP 6件	手術室は術後訪問は前期が98%であったが、退院患者の把握や業務調整の工夫により、99%に向上できている。術前訪問は100%実施できた。カンファレンスは目標の数値を上回り28件実施できている。カンファレンスを行うことで看護の振り返りができ、評価することで課題が見つかり今後のケアに活かせる。また情報を共有することで新人教育にもつながったと考える。内視鏡は術前術後訪問を100%実施できている。スタッフ人員が少なく応援体制の状況の中であったが、時間の工夫でできており、目標を達成できている。訪問することで得た経験を今後のケアに活かしていく。アクシデントは内視鏡・手術室ともに0件であった。インシデントについては速やかに報告がなされている。また、カンファレンスにて対策を検討し情報の共有もできている。対策の評価も時期をみてできており今後につなげられている。
財務の視点	コスト意識を持ち病院経営に貢献できる	クリパズ評価・修正ができる 物品の破損がでない 検査件数が増える	クリパズ評価 100% 物品破損 0件 検査件数 5800件以上	評価数 100% 作成数 5件 内視鏡 7件 OP 1件 6030件	クリパズについては、評価・改正・作成を行っている。評価は100%と目標達成できた。改正は手術室で70%、内視鏡では改正に至らなかった。新しいハズは手術室で5件作成した。内視鏡センターでは気管支鏡バスを作成中。物品破損は起こったケースに対する情報共有と対策を行ったことで、前半の8件から1件に減少した。検査件数は6030件であった。緊急検査に対してもウェルカム姿勢で受け入れている。個々のスタッフが接遇を心がけ、患者サービス向上委員会アンケートでも、患者から良い評価を頂いている。
内部プロセスの視点	チームワークを高め活き活きと働ける環境を整える	フィッシュな発言、行動実践ができ、人間関係が良好に保てる 相談、協力しあえる人間関係を築き、退職者がでない 業務改善ができる	フィッシュの数 4個 中途退職者 0人 業務改善数 25件	内視鏡 2個 OP 5個 0人 内視鏡 59件 OP 170件	フィッシュについては、各チーム予定通りに取り組むことができ、目標値も達成できた。しかし、部署全体で予定していた勉強会は開催できなかった。今年度は、年度末の退職者が3名いたが、フィッシュに取り組むことで相手のことを考えるよい機会になるため、来年度もよりよい職場環境が作れるように取り組んでいきたい。業務改善数は、手術室・内視鏡共に目標値を大幅に達成できた。各自が業務改善に意識を向けることで働きやすい職場に繋がり、業務が円滑に進むように取り組むことができた。また、手術室・内視鏡での応援体制を意識的に取り組むことで、お互いに応援依頼をしやすい環境作りができた。応援体制の充実については今後も積極的に取り組んでいく。
学習と成長の視点	個人の成長と後輩育成ができる	積極的に研修に参加できる 後輩と共に成長できる 新人の自立 看護実践能力が高まる OP室ラダーの導入	e-ラーニング受講数 1人5回 研修参加数 1人5回 待機開始時期 9月 個人目標評価 ラダー評価 チェック表評価	内視鏡 29回 OP 26回 内視鏡 99回 OP 129回 最終評価する	e-ラーニングについては、内視鏡は目標値を達成したが、手術室は目標値に至らなかった。しかし、研修参加については、手術室・内視鏡共に目標値を達成できている。これは、自部署の専門性が高いため、興味がある研修を選んで受講していることが要因と考える。次年度は、基礎的な研修と専門的な研修の両立を支援していく。新卒新人の育成については、外回り、器械出し(短時間手術)の独り立ちができていく。次年度は、高難易度手術の器械出しの自立に向けて支援していく。個人目標シート・ラダー評価については全員が、中間評価より向上できている。しかし、ラダー申請については1名の認定であった。手術室ラダーは、作成できたため次年度活用し、実践力向上につなげる。

[外来]

看護師長 森 浩子					
看護部理念	私たちは患者さんの苦痛を癒すために愛情と責任を持って最善を尽くします				
25年度看護部目標	優しい「手」と「目」で患者に寄り添う看護を実践する				
部署の使命	あたたかく質の高い看護を提供する				
区分	目標	主な成果	25年度目標値	25年度実績値	分析・評価・今後の課題
顧客の視点	患者に寄り添った看護の提供	看護実践力の向上 統一した看護の提供 接遇の強化 笑顔で対応 待ち時間の活用 患者満足度の向上	受け持ち患者数 記録の評価件数 各チーム3件 倫理カンファレンス件数 各チーム1件 お礼の件数 患者満足度調査 苦情数の減少 0件	0件 0件 30件 11件	今年度は、受け持ちを持つ事、計画立案になれる事を目的とし、記録委員による勉強会を実施し、32名中2名のみが受け持ちが持っていない迄に減少した。今後も全員が受け持ちを持てるまで、記録委員と進めていく。倫理カンファレンスは実施までには至らなかったが、インシデントレポートの症例検討は継続して行っている。接遇面では患者満足度調査を基に、積極的に接遇係にて意識統一をはかり、改善していった。
財務の視点	経営改善に参加	外来患者数の増加 効果的な勤務時間管理 コスト意識を持つ 指導料の獲得 在庫管理ができる	外来患者数 超過勤務時間数 10時間/月 外来指導件数 在庫のチェック	652.1人 7.6時間/人 14件	外来患者数は中間では昨年度を下回っていたが、時間外患者を積極的に受け入れる事で、昨年度より増加した。しかし、これによりスタッフの超過勤務時間の減少はあまりみられなかった。来年度は外来全体での協力体制で、15:30以降の応援体制の見直しを行っていく。外来指導では指導料、管理料のコストもれの無いよう工夫を行った。平成26年度診療報酬改定に伴い、指導加算が取れるよう記録用紙の検討を行う必要がある。
内部プロセスの視点	働きやすい環境作り モチベーションの向上	業務改善の実施 チーム力の強化によりスムーズな応援体制 統一した看護の提供	業務改善件数 各科2件以上 離職者の減少 0人 勉強会の実施 各科1件 クリニカルパスの使用件数 クリパス作成	80件 4人 2件(4回) 165件 0件	業務改善は各科積極的に取り組むことができたので、今後も継続していく。離職者は後半自己都合によるものであった。今後も働きやすい環境作りを行い、離職者0人を目指していく。チーム力強化のための勉強会は講師の協力で同内容を2回行う事で、参加率上昇につながった。勤務調整が困難な時もあるが、この方法を継続し勉強会を継続して行っていく。今年度はクリパス作成には至らなかった。統一した看護の提供を行う為に、来年度は積極的に取り組んでいく。
学習と成長の視点	看護実践力のアップ	個別性のある看護の提供 専門的技術・知識の習得	指導件数 指導内容 研修会の参加(院外含む) 10回/年	6.8回/年	患者指導は行われているがカルテには経時記録であり、継続看護へは繋がっていない場合がある。其々の指導内容が継続したケアに繋がりに、加算の算定に繋がるよう、記録用紙の検討をしていく。研修会は嘱託職員が多いせい時間内研修であれば、参加率も上昇する。自己都合で時間外研修に参加出来ないスタッフも多いため、伝達研修など、研修会に参加しやすい環境を整えていく必要がある。

☆看護部委員会活動実績☆

委員会名	目 標	活 動 結 果	委員名 ◎委員長 ○副委員長
看護副師長会議	患者満足度が向上する為に問題点を抽出し、解決方法を見出し実践する	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者満足度が向上する為に問題点を抽出した 2. 接遇について4つのテーマ「態度」「身だしなみ」「言葉遣い」「私語」に絞った 3. 問題解決技法を用いグループワークを行った 4. 4つのテーマについて問題点をさらに掘り下げ、解決策を見出した 5. 身だしなみマニュアルに沿って定期的に評価を行った 6. 接遇委員会に問題提起を行いマニュアル改正と説明文が追加され身だしなみの改善に繋がった 7. 看護業務基準、看護業務手順の評価、改正を行った 	◎川上好美 ○植村恵美 岩切いつ子 江藤潔子 熊本訓子 清水美幸 溝内千晶 望月ゆみ子
主任会 災害グループ	災害看護対応マニュアルを作成し、看護部で周知できる	前期は緊急連絡網、赤電話の使用法、後期は地震発生時のフローチャートについて取り組んだ ・緊急連絡網については検討するも災害対策プロジェクトで検討 ・赤電話の使用法については、火災フローチャートを作成しスタッフに周知させた ・地震発生時のフローチャートを完成させ看護部各部署にて伝達した ・災害対策プロジェクトが発足され今年度で災害グループは終了した	◎大植美智子 飯阪幸子 金子貴久代 武内香利 坂井雅子 寺中直美 葉山美紀 尹明恵 濱田幸子 山口朋子 北野浩輝
看護手順グループ	看護技術チェックリストにある看護手順を完成させる	・個人での作成は順次行うよう試みたが全体での検討が終了していない項目を順次完成させる予定であったが、一部完成できなかった。次年度に持越しする。平成26年度に終了する予定 ・振り分けできていない9項目に関して担当割り振りを作成した ・キャリア新人担当と連絡を取り合い、チェックリストの変更部分を看護手順にも反映させた	○禱淳子 山本直美 山本明美 阿多亜矢子 船本加奈子 大宅加代 西田京子 浅田陽子 隅野美佐与 遠藤千恵 井上千穂 新妻尚巳
看護リスクマネジメント委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. リスクに対する意識を高める 2. レポート分析による対策立案と周知 3. リスク関連書類の評価、修正 	・2ヶ月毎のレポート集計と、他部署で発生した事象を報告・検討 ・レポートの集計方法の統一のため、転倒・転落の集計表のひな形を作成し使用。インシデントの集計では、NICUで作成した用紙を使用した。要因を明確化するため集計項目の表を作成中 ・転倒・転落に関するレポートの評価では、小児分は事象が少なく、引き続きそのまま使用。今後再評価する ・内服自己管理に対するアセスメントスコアシートの検討中 ・リスク関連書類の見直し	◎岩切いつ子 ○山口朋子 藤本佳恵 竹田容子 阪口みどり 梅本真紀 新甚尚美 平井美由紀 吉田幸子 河野雅津子

委員会名	目 標	活 動 結 果	委員名 ◎委員長 ○副委員長
看護記録委員会	1. 看護記録基準の周知 2. 記録監査の充実を図る 3. ラダー研修の充実を図る	1. 看護記録基準の見直しを行う 透析記録の改正 新生児記録の改正 データベースの基準の追加 2. 記録監査については、質監査に対する新しい監査表の作成 3. ラダー研修は新人研修 ラダーⅠ、Ⅱ、Ⅲの内容検討と研修を行う	◎尾崎弘己 ○遠藤千恵 池上浩子 重田美由紀 東賢 矢邊範恵 小島直美 山田松代 山田育子 木村千亜紀
看護広報委員会	1. 当院の看護活動を地域にアピールし、市民とふれあう 2. 看護師確保のための活動をする	・ 6月6日（木）看護協会主催ふれあい看護体験 高校生2名受け入れ ・ 11月20日（火）21日（水）職場体験 忠岡中学校2年生女子4名受け入れ ・ 3月31日 看護部ホームページ更新 ・ 5月9日（金）13時～15時看護の日フェア開催 アルザアトリウム 参加者100名	◎小林祥子 ○隅野美佐与 西田京子 中西幸乃 山中歩 田口真弓 鈺真由美 大西陽子 尾上光子 藪内裕子
看護補助者連絡会	1. 看護補助者の業務を整理し、全職員に業務内容の浸透を図る 2. 看護補助者会の研修を企画・運営し、レベルアップに努める	1. 看護補助者の業務整理を行い、業務内容の浸透を図った 2. 看護補助者会運営方法の再周知を行い、運営がスムーズに行えるようになった 3. 研修の参加率が向上した 4. 年間計画は予定通り行えた 5. 認定看護師に依頼し、感染についての研修を行った 6. 実践をまじえた入浴介助の研修は、理解しやすかったと好評でレベルアップにつながった 7. 看護補助者連絡会に、看護補助者のリーダーとサブリーダーが参加することで情報伝達がスムーズに行えるようになった	◎川上好美 ○井上千穂 船本加奈子 浅田史美 瀬戸山睦子 二家本潤
感染リンクナース部会	1. 実践能力の統一を図る 2. 部署で実践モデルとなり、感染対策を実践する	1. 感染対策マニュアルの見直しと改正を行った 2. ICTラウンド実施後の現場へのフィードバックと改善の確認を行った 3. ラダー研修Ⅰ～Ⅲの担当を決めた。各自が講師として、研修資料作成から準備し、研修を実施した	◎濱田幸子 ○溝内千晶 寺中直美 東賢 野村陽子 高橋祥子 中村美穂 池田佳代 森弘樹 鍛冶幸司

委員会名	目 標	活 動 結 果	委員名 ◎委員長 ○副委員長
キャリア開発委員会：クリニカルラダー	<ol style="list-style-type: none"> 各個人がキャリア向上にむけての動機付けができる ラダー研修の充実に向けた取り組みができる 	<ol style="list-style-type: none"> ラダーについての研修を各部署単位で実施した 他委員会との調整は不十分であった。次年度は各委員長へ研修内容を確認していく 年間研修スケジュールの作成と修正を行った。ラダー受付については、担当部署への声かけが必要 	◎永田美華 ○藤原美幸 西村映里香 中野奈津子 北野浩輝
キャリア開発委員会：新人担当	<ol style="list-style-type: none"> 新人看護師臨床研修制度の研修体制を確立する チェックリストの運用および評価を行う（看護技術チェックリストと看護業務チェックリストを使用する） ローテーション研修の運営・評価と今後の課題を明確にする 新人・既卒新人・中途採用者の進行状況の把握を行う 必要研修への参加を促す 	<ol style="list-style-type: none"> シミュレーション(人工呼吸器・CVなど)・看護技術・コミュニケーション研修の実施など研修内容を検討し研修の質向上に努めた チェックリストを活用し、未経験項目の把握と声かけを行った。チェックリストの見直し実施 新人の進捗状況とともにローテーション研修の各部署の受け入れ環境について検討・実施・評価した 交流会の報告や会議の中で新人の進捗状況について情報交換を行い支援した 参加必須研修について声かけやお知らせを配布した。必須研修の見直し検討を行った 	◎永田美華 ○江藤潔子 寺田真弓 袴淳子 西山知子 西川朝子 井上和美 武内香利 隅野美佐与 寺中直美 山口朋子
キャリア開発委員会：プリセプター	プリセプター制度を理解し、活用できる	<ol style="list-style-type: none"> 面接時期の面接を実施できたのかの確認を行った また、プリセプターの「私の成長日記」と「自己評価表」をチェックした 教育担当者会議、キャリア全体会議で「私の成長日記」・「自己成長日記」の使用と支援について声かけを行った ラダーⅡプリセプター研修を実施 看護部新人研修と次年度の新プリセプターへ当院のプリセプター制度について説明を行った 各時期にプリセプターの状況に応じて、研修の企画・運営を行った キャリア全体会議プリセプターの状況についての情報交換を行った 	◎永田美華 ○井上千穂 橋本舞子 大芝利恵 川崎華子 横田優
キャリア開発委員会：臨地実習	基礎教育課程の把握と臨地実習受け入れ施設としての向上を図る <ol style="list-style-type: none"> 教員との連携を深め、指導の向上を図る 各部署での実習環境の整備を図る 	<ol style="list-style-type: none"> 河崎会看護専門学校、泉大津市医師会附属看護高等専修学校の学生指導マニュアルの見直し・改正実施 統合実習のマニュアル見直し・改正 各部署の学生指導マニュアル作成 実習指導者会で教員と実習指導の状況について情報交換を実施 各部署の指導状況の確認と問題点の検討 	◎永田美華 ○植村恵美 大植美智子 中田真澄 大宅加代 松山鈴代

委員会名	目 標	活 動 結 果	委員名 ◎委員長 ○副委員長
キャリア開発委員会：教育担当者会議	<ol style="list-style-type: none"> キャリア開発委員会にて教育全般について情報共有する 自部署での問題等を会議で検討する プリセプターや実習指導者など、自部署で教育に携わる看護師の直接的支援を行う 	<ol style="list-style-type: none"> キャリア開発委員会にてキャリア各担当の情報共有を行った 自部署での新人やプリセプター、看護学生の進捗状況や問題点を話し合い、解決策を検討した プリセプターや新人のチェックリストを確認し、支援に繋げた。学生指導を主体的に実践した 	◎永田美華 ○袴淳子 大植美智子 西山知子 武内香利 隅野美佐与 川上好美 北野浩輝 山口朋子
看護システム委員会	<ol style="list-style-type: none"> 固定チームナーシングにおけるチームリーダーの育成を図る 受け持ち看護師の役割を發揮できるように働きかける 	<ol style="list-style-type: none"> 年2回のリーダー研修会の開催 固定チームナーシング基準のマニュアルの受け持ち看護師の役割について見直し 	◎阿多亜矢子 ○金子貴久代 亀甲佳奈 徳尾純子 福島妙 古川舞 井上千穂 徳永優子 若井規子 鍛治幸司
認定看護師会	認定看護師の役割が發揮できるように活動内容を構築する	認定看護師の役割を果たすため、広報活動、研修、必要書類のフォーマット作成を行った <ul style="list-style-type: none"> 泉大津市の広報誌「いずみおおつ」に人認定看護師の役割と活動内容に関する記事記載 おづレンジャー新聞の発刊 認定看護師研修会開催 市民公開講座講師 コンサルテーション報告書作成 認定看護師講義依頼書作成 	◎望月ゆみ子 ○池野真智 濱田幸子
退院調整委員会	<ol style="list-style-type: none"> 退院支援看護師の役割を果たす 退院支援システムと退院支援計画書・介護支援専門員との共同支援の周知と定着 	退院支援看護師として、退院支援システムについて各部署で勉強会や決定事項の伝達を行い、周知に努める事ができ、地域連携室と協力して活動することができた <p>介護支援専門員との共同支援については、周知、定着してきたが、ケアマネージャーとの情報交換を行うための窓口を含めた、システムの構築が必要である。退院支援計画書は、地域連携室が主体となって行っているが、今後は退院支援看護師として、各部署へ周知、定着できるよう継続して支援する</p>	◎江藤潔子 ○船本加奈子 堀内正子 川崎伸絵 泉谷めぐみ 中野裕美 小野智里 川上好美

委員会名	目 標	活 動 結 果	委員名 ◎委員長 ○副委員長
看護部機能評価委員会	平成26年度機能評価受審に向けて問題点を抽出し、看護の質の向上を図る機能種別版Ver. 1.0の自己評価を行い、問題点の抽出と改善に繋げる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 委員会の新メンバーが多かった為、1、2、領域の自己評価の方法、問題点の抽出と各部署での改善を行った。後期に行われた機能評価プロジェクトに看護部で検討した問題点、課題を提案した ・ 各委員会、部署に伝達し、マニュアル評価、改正を行った ・ 2グループに分かれて院内ラウンドの検討、実施を行った。次年度も受審に向けて院内ラウンドの検討、実施と受審のシミュレーションを行う ・ 機能評価委員が機能種別版Ver. 1.0の各部署での自己評価の指導を行い、C評価改善と看護職員への周知を行う ・ 看護部で解決できない問題は、引き続き機能評価受審プロジェクトで検討・改善するように、問題提起を行う ・ 受審に必要なマニュアル、看護の準備を行う 	◎熊本訓子 ○武内香利 須川景子 岩切いつ子 清水美幸 尹明恵 葉山美紀 遠藤千恵 森下多美 内田美砂子 山本真奈美
外来治療室担当者会議	1. 外来治療室のシステム構築 2. 外来治療室担当者による患者指導の標準化 3. がん化学療法に関する看護実践の向上	1. インフューザーポンプ使用者の自己抜針指導方法、CVポート固定方法の統一化を図った 2. 抗がん剤が薬剤部より運搬された際のダブルチェックに加え、抗がん剤接続後に滴下速度、薬剤名のダブルチェックを行い、レジメンに看護師2名のサインをするシステムの導入 3. 一部の抗がん剤使用者に副作用チェックシートを渡し副作用マネジメントに介入するようにした 4. 新たな抗がん剤導入のシステム確立 5. 一部抗がん剤の注射部位反応を考慮し、腹部に変更した 6. 化学療法に使用する衛生材料の検討と導入 7. 各種抗がん剤勉強会	◎飯阪幸子 ○西田京子 奥茜 本田由美 池上浩子 藤野陵子 野口愛 渥美加奈子
患者サービス向上委員会	1. 「患者さんの声」を聴き、サービスの向上に反映させる 2. 看護師満足度を向上させる	「理想の看護師像」をテーマにフレームワークを行いアンケート内容を検討し作成した。自分たちが患者目線で考えることで自身の行動を振り返る機会になった 11月よりアンケート調査を開始し、患者さんから評価をいただいた。結果を各部署にフィードバックすることで話し合う機会を作り自分たちの看護を振り返る事ができた。患者の声を聴き、接遇およびサービスの意識が高まり看護師のモチベーションの向上に繋がった	◎清水美幸 ○森浩子 下平みどり 山本明美 井上真佐美 西浦智成 那須井みか子 山中かおり 森佳子 大杉久枝

☆看護部院外活動実績☆

No.	活動場所	活動内容	参加人数	開催日	活動者名
1	大阪府看護協会 桃谷センター	救急看護2 演習③④ インストラクター	40名	平成25年7月12日	望月ゆみ子
2	大阪府看護協会 桃谷センター	フィジカルアセスメントの 基礎演習① インストラク ター	40名	平成25年8月2日	望月ゆみ子
3	大阪市立総合医療 センター さくらホール	関西ストーマケア講習会 講義・演習	80名	平成25年8月9日 ～ 平成25年8月11日	池野真智
4	NASVA交流会	きょうからはじめるスキン ケア	6名	平成26年3月1日	池野真智
5	久米田病院	講演「褥瘡のアセスメント と評価」	50名	平成26年3月6日	池野真智
6	浪切ホール	日本オストミー協会共催 岸和田 QOL相談会		平成26年3月9日	池野真智
7	大阪府看護協会 会議室	2013年度大阪府専任教 員養成講習会 「看護論」演習講師	9名	平成25年5月9日 ～ 平成25年9月27日	鳥羽敏子
8	河崎会看護専門学校 看護第1学科	成人看護方法論Ⅲ講師	40名	平成25年10月 ～ 平成25年11月	泉谷めぐみ
9	泉大津市医師会附属 看護高等専修学校	成人看護 講師	40名	平成25年10月 ～ 平成25年12月	山原真代
10	泉大津市医師会附属 看護高等専修学校	成人看護 講師	40名	平成25年10月 ～ 平成25年12月	中野裕美
11	泉大津市医師会附属 看護高等専修学校	成人看護 講師	40名	平成25年10月 ～ 平成25年12月	西尾加奈子
12	泉大津市医師会附属 看護高等専修学校	成人看護 講師	40名	平成25年10月 ～ 平成25年12月	梅本真紀
13	泉大津市医師会附属 看護高等専修学校	母性看護 講師	40名	平成25年11月 ～ 平成26年1月	袴淳子

☆看護部院外研修実績☆

No.	研修名	主催	開催日時	参加者名
1	発達障害の治療について	リリー	H25.4.18	渡邊優美 山本高子 石田浩子 吉田早苗
2	第10回 排尿機能検査士講習会	福井大学医学部泌尿器科学教室	H25.5.18	梶原薫
3	師長が行う「夜勤交替制勤務&業務」 マネジメントスタッフ指導の極意	日総研	H25.5.18	藤原美幸
4	呼吸療法セミナー	チームCE研究会	H25.6.16	横田優
5	地域看護1 病棟看護師としてできる 退院支援・調整	大阪府看護協会	H25.6.18	泉谷めぐみ
6	メディカルケアサポートセミナー in 堺	モルテン	H25.6.22	西川朝子 井上和美 安枝恵二 二家本潤 鈴木加与
7	プラクティスセミナー	近畿内視鏡技師会	H25.6.23、9.29、 11.17	正垣純子
8	パネルディスカッション ～病院、施設と在宅をつなぐ～	看護協会 泉南支部		西川朝子 井上和美 土井美和 泉谷めぐみ
9	第13回 大阪糖尿病患者教育担当者 研修会	大阪糖尿病協会顧問医会	H25.6.29	江藤潔子
10	救急看護認定看護師 聴講講座 フィジカル研修 ブラッシュアップセミナー	大阪府看護協会	H25.7.5、8.1、 8.7、8.8、8.15、 H26.2.8	望月ゆみ子
11	機器取扱い実践編	近畿内視鏡技師会	H25.7.5	正垣純子
12	がん看護	メディカ出版	H25.7.6	福井笑美香
13	チーム医療における看護師の役割	葛城病院	H25.7.6	森本紀子
14	重症度・看護必要度評価者 院内指導者研修	SQ研究会	H25.7.7	岩切いつ子 清水美幸
15	指導者1 臨地実習指導者	大阪府看護協会	H25.7.23～25	山原真代
16	市民講座(内視鏡について)	泉大津市	H25.7.27	熊本訓子 横田優
17	看護管理1 人材育成とコミュニケーション	大阪府看護協会	H25.8.1～2	植村恵美
18	近畿内視鏡技師学会	近畿内視鏡技師会	H25.8.11	藪内裕子 亀井夕紀子 正垣純子
19	地域看護2 病棟管理者としてできる 退院支援・調整	大阪府看護協会	H25.8.20～21	船本加奈子
20	指導者2 リーダーシップ①	大阪府看護協会	H25.9.3～4	中野裕美

No.	研修名	主催	開催日時	参加者名
21	短期入院協力病院職員研修	NASVA本部	H25.9.5～6	藤野芳子
22	大阪府保健師助産師看護師 実習指導者講習会	大阪府	H25.9.24～ H25.11.21	井上千穂
23	認定看護管理者教育課程 ファーストレベル	大阪府看護協会	H25.9.25～ H25.11.29(分散)	西川朝子
24	看護管理1 組織とリーダーシップ	大阪府看護協会	H25.10.10～11	植村恵美
25	透析認定士セミナー	透析技術認定士	H25.10.14	横田優
26	日本救急看護学会ファーストエイド	日本救急看護学会 日本看護協会	H25.10.19～20	望月ゆみ子
27	子どもと家族2 病気・障害を持つ子 どもと家族への看護	大阪府看護協会	H25.10.28～29	小野智里
28	日本クリニカルパス学会学術集会	日本クリニカルパス学会	H25.11.1～2	尾崎弘己
29	子どもと家族3 小児救急	大阪府看護協会	H25.11.14	那須井みか 子
30	大阪府新人看護職員研修 責任者研修	大阪府	H25.11.15～ H25.12.3(分散)	武内香利
31	泉州在宅看護研修	市立岸和田市民病院	H25.11.16	木村千亜紀
32	第50回 日本糖尿病学会近畿地方 会	日本糖尿病学会 近畿地方会	H25.11.23	江藤潔子 泉谷めぐみ 松尾みゆき
33	パネルディスカッション ターミナルケア ～地域全体で患者・家族を支える～	看護協会 泉南支部	H25.11.26	船本加奈子
34	血友病患者へのかかわりについて	バクスター	H25.11.30	江藤潔子 渡邊優美 山本高子 石田浩子
35	第23回新生児看護学術集会	日本新生児学会	H25.12.1～2	二階ゆかり 庄司朋子
36	母性看護1 周産期の診断・検査とグリーフケア	大阪府看護協会	H25.12.4	浅田史美
37	老年看護1 高齢者の理解と認知症患者の看護	大阪府看護協会	H25.12.11～12	梶原薫
38	ベビーACLS	日本周産期新生児 医学会	H25.12.22	望月ゆみ子
39	認定看護管理者教育課程 ファーストレベル	大阪府看護協会	H26.1.7～ H26.2.14	溝内千晶
40	第7回臨床倫理事例研究会	臨床事例研究会	H26.1.18～19	藤原美幸 松山鈴代 平井美由紀 熊本訓子
41	内視鏡外科 手術機器取扱いセミ ナー	OLYMPUS	H26.1.26	阿多亜矢子 新地ことみ
42	摂食・嚥下障害のある患者の看護の 基礎と実際を学ぶ	大阪府看護協会	H26.1.28～29	西山知子

No.	研修名	主催	開催日時	参加者名
43	共通11 看護記録(基礎編)	大阪府看護協会	H26.1.30～31	木村千亜紀
44	第16回 新生児呼吸療法モニタリングフォーラム	新生児呼吸療法 モニタリングフォーラム事務局	H26.2.13～15	山本真奈美 中野奈津子
45	ベクティビスク作用機序及び皮膚障害スキンケア方法	(株)武田薬品工業	H26.2.19	横田美喜
46	共通12 看護記録(実践編)	大阪府看護協会	H26.2.20～21	重田美由紀
47	第31回 日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会	同学会	H26.2.21～22	池野真智
48	近畿消化器内視鏡学会	近畿内視鏡技師会	H26.2.23	横田優 正垣純子
49	第29回 日本静脈経腸栄養学会学術集会	同学会	H26.2.27～28	池野真智
50	泌尿器科看護	メディカ出版	H26.3	福井笑美香
51	第12回 日本フットケア学会年次学術集会	日本フットケア学会	H26.3.7	江藤潔子
52	第12回 日本フットケア学会	同学会	H26.3.7～3.8	池野真智
53	第23回 日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会	同学会	H26.3.16～17	池野真智
54	パーキンソン病の治療について	和泉保健所	H26.3.17	山原真代

☆看護研究☆

院内発表（平成26年2月15日9:00～11:00）

演 題	部 署	研究者（○発表者）
食道癌術前口腔ケアへの取り組み	3階	○橋本舞子 北悠奈 石川希
当院の母乳育児支援に対する褥婦のニーズ	4階	○坂井雅子 浅田史美 島田富美子 尹明恵
踵部の褥瘡予防のためのポジショニング方法の再周知と実践に向けた取り組み	5階	○鈴木加与 安枝恵二 二家本潤
内服管理方法を選択するための判断基準となるアセスメントシートの作成	6階一般	○中西幸乃 那須井みか子 武内香利
医療従事者による水平伝播予防のための取り組み	NICU・GCU	○坂本美由起 森佳子 橋本伊都子 浅田陽子
小児手術で同伴入室する保護者の思い～同伴入室必要性の検討～	手術室・内視鏡センター	○小島直美 家治福子 筒井裕子
透析室による2クール体制の取り組みについて	外来	○遠藤千恵 河野雅津子 畑本由美

看護研究指導講師

森ノ宮医療大学 保健医療学部 看護学科 精神看護学 来栖 清美先生

☆看護部院内研修実績☆

平成25年度

No.	研 修 名	日 時	参加人数
1	新人看護部職員研修	4月2日	14名
2	新人看護部職員研修	4月3日	14名
3	新人第1回研修 酸素吸入・採血	4月4日	15名
4	新採用者オーダリング説明会	4月4日～4月11日	14名
5	新人第1回研修 静脈注射・輸液ポンプ	4月5日	15名
6	新人交流会	4月12日、19日、26日	10名
7	看護研究講義	4月23日	42名
8	1ヶ月交流会(新人)	5月10日	10名
9	1ヶ月交流会(既卒)	5月10日	4名
10	認定看護師研修(オムツの巻き方・選び方)	5月13日	12名
11	ラダー研修Ⅰ 感染	5月21日	3名
12	ラダー研修Ⅱ リスク	5月27日	13名
13	ラダー研修Ⅲ 記録	6月10日	7名
14	ラダー研修Ⅱ プリセプター	6月12日	6名
15	2ヶ月交流会	6月14日	11名
16	第2回新人研修 心電図・モニター	6月14日	11名
17	呼吸ケア研修(挿管介助)	6月14日	37名
18	ラダー研修Ⅰ 感染	6月18日	7名

No.	研修名	日時	参加人数
19	第3回研修会 中心静脈トレーニング	6月28日	11名
20	ラダー研修Ⅲ 感染	7月2日	4名
21	ラダー研修Ⅱ 記録	7月8日	5名
22	呼吸ケア研修(挿管介助)	7月8日	7名
23	3ヶ月交流会(既卒)	7月12日	4名
24	3ヶ月交流会(新卒)	7月12日	11名
25	第4回研修会 ディベート	7月12日	21名
26	認定看護師研修(褥瘡って?)	7月16日	22名
27	呼吸ケア研修(気管吸引・開放式)	8月9日	13名
28	認定看護師研修(褥瘡の予防とケア)	8月20日	12名
29	ラダー研修Ⅲ リスク	8月26日	3名
30	ラダー研修Ⅱ 感染	9月3日	11名
31	認定看護師研修(フィジカルアセスメントⅠ)	9月17日	5名
32	第5回研修会 コミュニケーショントレーニング	9月28日	30名
33	6ヶ月交流会(新卒)	10月1日	10名
34	6ヶ月交流会(既卒)	10月2日	2名
35	中途採用者交流会	10月2日	5名
36	ローテーション研修	10月7日～11月22日	11名
37	ラダー研修Ⅱ プリセプター	10月9日	9名
38	認定看護師研修(フィジカルアセスメントⅡ)	10月15日	9名
39	ラダー研修Ⅱ リスク	10月28日	9名
40	ラダー研修Ⅱ 記録	11月11日	5名
41	認定看護師研修(フィジカルアセスメントⅢ)	11月19日	6名
42	ラダー研修Ⅲ リスク	11月25日	4名
43	第6回研修会 人工呼吸器	11月29日	11名
44	8ヶ月交流会(新卒)	12月2日	10名
45	BLS研修	12月2日	11名
46	ラダー研修Ⅱ 感染	12月3日	1名
47	BLS研修	12月3日	11名
48	ラダー研修Ⅰ 記録	12月9日	8名
49	認定看護師研修(フィジカルアセスメントⅣ)	12月17日	2名
50	認定看護師研修(褥瘡のアセスメント)	12月25日	6名
51	呼吸ケア研修(気管吸引・開放式)	1月10日	10名
52	ラダー研修Ⅲ 記録	1月20日	4名
53	認定看護師研修(ストーマの術後ケア)	1月21日	13名
54	1年目交流会(既卒)	2月3日	6名
55	1年目交流会(新卒)	2月3日	10名
56	呼吸ケア研修(挿管・呼吸器装着)	2月14日	22名
57	認定看護師研修(慢性期褥瘡治療の実際)	2月26日	7名
58	中途採用者交流会	3月3日	3名

☆実習受け入れ状況☆

実 習 名	期 間	人数
泉大津市医師会附属看護高等専修学校 (基礎・各論)	H25. 4. 8 ~ H26. 3. 14	32名
河崎会看護専門学校 看護第1学科 18期生 各論実習	H25. 4. 8 ~ H25. 11. 15	37名
河崎会看護専門学校 看護第1学科 18期生 統合実習	H25. 11. 18 ~ H25. 12. 6	8名
河崎会看護専門学校 看護第1学科 19期生 各論実習	H26. 2. 10 ~ H26. 3. 28	8名
河崎会看護専門学校 看護第1学科 20期生 基礎Ⅱ実習	H26. 1. 13 ~ H26. 1. 31	10名
大阪府病院協会看護専門学校 通信制 (基礎・各論)	H25. 7. 29 ~ H25. 8. 23	34名
福岡看護専門学校 通信制 (各論：母性)	H25. 8. 12 ~ H25. 8. 16	2名
藍野大学短期大学部 第二看護学科 (各論：母性)	H25. 9. 23 ~ H25. 12. 13	15名
大阪大学医学部保健学科 看護学専攻(助産学)	H25. 10. 7 ~ H25. 11. 14	6名
森ノ宮医療大学保健医療学部看護学科	H25. 12. 23 ~ H26. 3. 14	38名
関西女子短期大学 保健科 養護・保健コース	H26. 2. 24 ~ H26. 3. 14	3名
忠岡町立忠岡中学校 職場体験学習	H25. 11. 20 ~ H25. 11. 21	4名
ふれあい看護体験	H25. 6. 6	2名
	計	199名

6

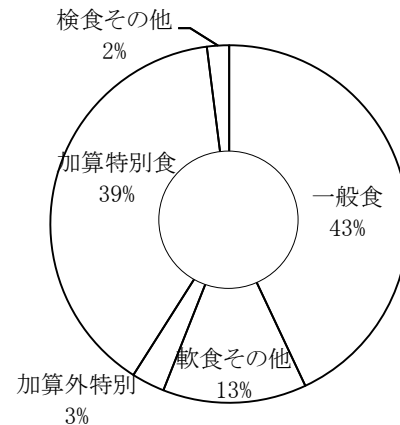
栄養・給食管理業務の現況

6. 栄養・給食管理業務の現況

【平成25年度入院患者給食延人員】

一般 常食	18,335
軟食その他	8,573
加算外特別食	2,255
加算特別食	22,432
検食その他	911
給食総延人員数	52,506
1日平均喫食人員	141
特別食比率（検食その他除く）	43%
調理師1人1日平均調理数	29
1人1日平均給食費（円）	853円

平成25年度入院患者食種別分類



年度別患者食・患者外食延人員及び給食費

区 分		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
一 般 食	常 食	21,978	20,557	20,029	18,335
	軟食その他	7,706	7,591	5,976	8,573
特 別 食	加 算 外 食	1,118	1,496	1,169	2,255
	加 算 食	18,775	20,025	18,261	22,432
患 者 外 食	検 食	1,860	1,862	1,000	911
給 食 総 延 人 員 数		51,209	51,531	47,323	52,506
1 日 平 均 喫 食 人 員		140	143	130	141
特 別 食 比 率		38%	41%	40%	43%
調 理 師 1 人 1 日 平 均 調 理 数		28	27	25	29
1 人 1 日 平 均 食 費（円）		☆ 774	☆ 736	☆ 802	☆ 853

☆消費税抜きの単価

【スタッフ】

管理栄養士：正職1名、臨時職員2名、嘱託2名（調乳業務）

給食業務は業者へ委託

【概要】

◎NST活動では、毎週火曜日13:00～回診、症例検討会・勉強会（専従が不在のため加算なし）糖尿病教育入院、糖尿病勉強会、糖尿病教室等、糖尿病療養指導士チームとしてもチーム医療へ積極的に関わってきた。

25年5月～	集団栄養指導 糖尿病栄養教室再開
25年5月10日(金)	看護の日 栄養相談 佃 暁子
25年7月22日(月)	勉強会6F小児病棟「カーボカウント」基礎編 中島 あゆみ 佃 暁子
25年8月7日(水)	腎臓病教室「腎臓に負担をかけない食事」 佃 暁子
25年11月11日(月)	勉強会6F小児病棟「カーボカウント」応用編 中島 あゆみ 佃 暁子
25年11月19日(火)	出前講座「脳梗塞を食事で防ごう」 佃 暁子
25年11月24日(日)	泉大津健康まつり 佃 暁子・中島あゆみ・平井大敬 栄養クイズ・栄養展示など

25年12月4日(水) 腎臓病教室「年末年始の食事の摂り方」中島 あゆみ
 25年12月18日(水) 糖尿病教室「年末年始に後悔しない食事の摂り方」平井 大敬

市民セミナーH26年3月1日(土)テクスピア大ホール 14:00～16:30
 糖尿病セミナー 糖尿病といわれたら「バイキング料理、あなたならどう選ぶ？」佃 暁子

【実習生受け入れ】

平成26年1月27日～2月7日 大手前栄養学院 2名
 平成26年2月24日～3月7日 羽衣国際大学 2名

H25年4月に臨時職員(管理栄養士)が2名入職し、3名の管理栄養士で管理栄養士業務を行うこととなり、栄養指導件数も開院以来最高の件数を実施することができた。
 院内濃厚流動について特徴等説明・写真付で各病棟へラミネートしたものを配布。

25年11月23日 糖尿病学会近畿地方会 当院の糖尿病発症進展予防への取り組み。
 ～糖尿病市民セミナーを開催して～

月別入院外来栄養指導件数(平成25年度)

区 分	糖尿病	胃腸病	肝臓病	腎臓病	脂質異常症	心高血圧	肥 満	妊娠高血圧	胆 石	その他	合 計	集団	人間ドック	
4月	入院		24	1	5	4	3	0	0	2	3	42	0	10
	外来	40	1	0	6	3	0	0	0	1	4	55		
5月	入院	30	44	9	14	1	5	0	0	3	11	117	2	21
	外来	45	0	2	7	2	0	0	0	0	4	60		
6月	入院	38	34	8	5	2	8	0	1	2	2	100	5	22
	外来	32	0	0	4	6	0	0	1	0	1	44		
7月	入院	46	47	13	12	4	13	0	1	1	7	144	8	21
	外来	43	0	0	13	0	1	0	0	0	5	62		
8月	入院	39	67	11	17	7	12	0	3	0	11	167	18	27
	外来	41	0	0	10	2	1	1	0	0	6	61		
9月	入院	30	45	16	10	3	2	0	0	2	6	114	5	21
	外来	35	0	0	11	4	0	1	1	0	1	53		
10月	入院	43	60	19	9	1	12	0	0	3	13	160	4	24
	外来	45	0	0	9	3	0	1	0	0	3	61		
11月	入院	38	59	13	10	4	0	1	3	2	16	146	4	30
	外来	40	0	0	11	9	0	1	0	0	0	61		
12月	入院	33	53	15	16	5	1	0	0	2	17	142	19	26
	外来	45	1	0	11	6	2	2	0	0	2	69		
1月	入院	47	36	7	5	3	0	0	0	4	14	116	5	9
	外来	39	0	2	12	5	0	0	0	0	1	59		
2月	入院	35	46	14	9	3	9	1	2	6	25	150	4	9
	外来	33	0	0	11	6	1	0	0	0	1	52		
3月	入院	41	48	16	12	3	12	0	1	4	13	150	4	20
	外来	34	0	2	16	7	4	0	0	0	4	67		
合計	入院	420	563	142	124	40	77	2	11	31	138	1,548	78	240
	外来	472	2	6	121	53	9	6	2	1	32	704		

月別患者食及び患者外食延人員(平成25年度)

	一般食			特別食		給食人員 総合計	1日平均 給食人員	患者外食	給食 総延人員数	患者食 1日1人当 平均単価☆
	常食	軟食	流動食	加算食	非加算食			検食		
4月	1,344	639	28	1,602	113	3,726	124	64	3,790	884
5月	1,460	664	31	1,534	145	3,834	124	72	3,906	858
6月	1,612	593	30	1,805	156	4,196	140	82	4,278	850
7月	1,704	650	27	1,842	115	4,338	140	83	4,421	860
8月	1,545	750	25	1,866	185	4,371	141	83	4,454	852
9月	1,668	805	26	1,633	183	4,315	144	68	4,403	869
10月	1,671	679	33	2,009	145	4,537	146	90	4,627	841
11月	1,499	696	25	2,006	182	4,408	147	73	4,481	821
12月	1,633	595	37	2,189	274	4,728	153	62	4,790	848
1月	1,418	680	17	1,859	247	4,221	136	68	4,289	864
2月	1,458	707	45	1,939	260	4,409	157	80	4,489	867
3月	1,323	758	33	2,148	250	4,512	146	86	4,598	816
計	18,335	8,216	357	22,432	2,255	51,595	84,855	911	52,526	10,230
月平均	1,528	685	30	1,869	188	4,300		76	4,377	
1日平均	50	23	1	61	6	141	5	2	144	853
食種別比	36%	16%	1%	43%	4%	100%				

☆消費税抜きの単価

7

事務局の取り組み状況等

経営状況

財務諸表

月次経営指標

社会保険事務局への施設基準届出状況一覧

科別診療収入

診療行為別診療収入

地域別・男女別患者数

疾病別大分類統計表

クリニカルパス統計資料

7. 事務局の取り組み状況等

【平成25年度の主な取り組みと今後の方策】

平成25年度においてはNASVA病棟が本格稼働し16床のベッドすべてが現在も満床となっている。ただ、NASVA病棟設置に伴う看護師、医療技術者等を大量に雇用したため、人件費が増加することとなった。これらの要因もあり平成24年度の決算及び25年度の収支見通しは安定しなかったため、経営形態を地方公営企業法の一部適用から全部適用事業所として病院経営を行うこととし、病院事業管理者を置くとともに、院内での情報を共有するため、ヒアリングや話し合いを持ち、職員の経営意識の向上を図った。この結果、平成25年度経常収支決算見込みは平成24年度に比較し約3億円の改善ができる見込みとなっている。

今後は、経営の安定が病院の安定引いては患者の信頼に繋がることを念頭に、よりよい医療と経営の改善を図ることとしている。

【経営状況等】

平成25年度の収益的収支（損益ベース）については、収益は5,888,462千円で、前年度に比べ、181,832千円（3.2%）の増収となっている。これは、診療単価は減額となったものの、患者数は増加による入院収益の増収が主な要因である。一方、費用は5,742,967千円で、前年度に比べ117,089千円（2.0%）の減少となった。これは材料費が減少していることが主な要因である。以上の結果収益的収支としては145,495千円の利益となった。

また、資本的収支については、他会計出資金などの収入306,088千円、企業債償還金などの支出824,387千円となり518,299千円の不足となった。これらの結果、減価償却費など585,643千円控除後の本年度資金収支は67,344千円となり、本年度末資金不足額（不良債務額）は462,738千円（前年度530,082千円）となった。

今後も公立病院特例債の償還や他会計長期借入金返還等、資金的には非常に厳しい中、不良債務を年次的に減少させていくためには、収益的収支の均衡を図る必要がある。

病院の目標として「消化器病診療の充実」、「こどもと女性にやさしい病院」、「生活習慣病対策」という3本の柱を掲げておりましたが、あらたに「高齢者にやさしい病院」という目標を加え、近隣医療機関との連携を強化し、研修医の獲得と育成に努め、地域の中核病院としての役割を果たしつつ、経営の健全化を進めていく。

収益的収支種別比較表

区 分	年 度	23 年 度		24 年 度		25 年 度	
		金 額 (千円)	金 額 (千円)	対前年度比率	金 額 (千円)	対前年度比率	
医 業 収 益		4,905,966	4,987,097	101.7	5,193,947	104.1	
入院収益		3,034,653	3,059,044	100.8	3,101,008	101.4	
外来収益		1,579,412	1,617,016	102.4	1,612,423	99.7	
その他医業収益		291,901	311,037	106.6	480,516	154.5	
医 業 外 収 益		647,352	547,121	84.5	520,894	95.2	
受取利息配当金		0	0	-	0	-	
他会計補助金		496,574	431,904	87.0	400,000	92.6	
補助金		64,959	67,792	104.4	61,128	90.2	
その他医業外収益		85,819	47,425	55.3	59,766	126.0	
特 別 利 益		0	172,412	-	173,621	100.7	
その他特別利益		0	172,412	-	173,621	100.7	
(A) 収 益 合 計		5,553,318	5,706,630	102.8	5,888,462	103.2	
医 業 費 用		5,443,073	5,462,961	100.4	5,376,300	98.4	
給 与 費		2,826,425	2,854,159	101.0	2,929,259	102.6	
材 料 費		1,059,230	979,472	92.5	915,220	93.4	
経 費		1,149,556	1,252,412	108.9	1,164,120	93.0	
減価償却費		391,260	362,335	92.6	350,059	96.6	
資産減耗費		4,988	3,999	80.2	5,876	146.9	
研究研修費		11,614	10,584	91.1	11,766	111.2	
医 業 外 費 用		416,830	392,274	94.1	361,669	92.2	
支払利息及び 企業債取扱諸費		164,197	159,909	97.4	151,834	95.0	
患者外給食材料費		332	323	97.3	324	100.3	
雑 損 失		103,013	105,819	102.7	95,462	90.2	
繰延勘定償却		119,288	96,223	80.7	84,049	87.3	
寄 付 金		30,000	30,000	100.0	30,000	100.0	
特 別 損 失		4,234	4,821	113.9	4,998	103.7	
過年度損益修正損		4,234	4,821	113.9	4,998	103.7	
その他特別損失				-		-	
(B) 費 用 合 計		5,864,137	5,860,056	99.9	5,742,967	98.0	
(A) - (B) 収 益 的 収 支		△ 310,819	△ 153,426	-	145,495	-	
資金不足額(不良債務額)		△ 322,126	△ 530,082	-	△ 462,738	-	

収益の支出明細比較表

区 分	年 度	24 年 度		25 年 度	
	23 年 度	金 額 (千円)	対前年度比率	金 額 (千円)	対前年度比率
給 料	1,047,449	1,067,912	102.0	1,074,301	100.6
手 当	1,021,028	1,015,916	99.5	1,045,549	102.9
賃 金	93,873	60,344	64.3	78,942	130.8
法定福利費	396,626	410,227	103.4	417,339	101.7
報 酬	272,170	304,967	112.1	315,139	103.3
退職給与金	14,009	11,708	83.6	15,791	134.9
薬 品 費	629,173	605,663	96.3	517,230	85.4
診療材料費	377,793	359,537	95.2	386,014	107.4
給食材料費	36,998	0	—	112	—
医療消耗備品費	15,266	14,272	93.5	11,863	83.1
厚生福利費	8,650	8,400	97.1	8,306	98.9
報 償 費	163,043	152,430	93.5	161,283	105.8
旅費交通費	5,134	4,854	94.5	5,920	122.0
職員被服費	587	403	68.7	983	243.9
消耗品費	35,449	32,281	91.1	28,972	89.7
消耗備品費	12,384	17,666	142.7	14,347	81.2
光熱水費	141,870	150,220	105.9	170,553	113.5
燃 料 費	130	165	126.9	357	216.4
食 糧 費	0	0	—	0	—
印刷製本費	12,906	11,446	88.7	12,390	108.2
修繕費	20,901	31,561	151.0	22,382	70.9
保 險 料	35,212	33,260	94.5	28,331	85.2
賃 借 料	134,869	133,985	99.3	150,633	112.4
通信運搬費	5,396	6,634	122.9	6,844	103.2
委 託 料	549,257	642,141	116.9	525,206	81.8
諸 会 費	1,337	1,225	91.6	1,452	118.5
雑 費	2,907	8,444	290.5	7,873	93.2
交 際 費	794	382	48.1	489	128.0
補 償 金	0	0	—	0	—
企業債利息	151,285	142,757	94.4	133,739	93.7
他会計長期借入金利息	4,567	3,331	72.9	3,305	99.2
一時金借入金利息	8,345	13,821	165.6	14,790	107.0
謝 金	1,027	1,166	113.5	602	51.6
図 書 費	2,283	3,029	132.7	2,640	87.2
旅 費	4,948	4,193	84.7	5,082	121.2
研 究 雑 費	3,356	2,197	65.5	3,442	156.7
患者外給食材料費	332	323	97.3	324	100.3
減価償却費	391,260	362,335	92.6	350,059	96.6
資産減耗費	4,988	3,999	80.2	5,876	146.9
雑 損 失	103,013	105,819	102.7	95,462	90.2
退職給与金償却	104,462	84,002	80.4	71,020	84.5
寄 付 金	30,000	30,000	100.0	30,000	100.0
控除対象外消費税額償却	14,826	12,221	82.4	13,028	106.6
特別損失	4,234	4,821	113.9	4,997	103.7
合 計	5,864,137	5,860,057	99.9	5,742,967	98.0

資本的収支種別比較表

区 分	23 年 度		24 年 度		25 年 度	
	金 額 (千円)	金 額 (千円)	対前年度比率	金 額 (千円)	対前年度比率	
企 業 債	0	0	—	0	—	
一般会計出資金	461,000	296,439	64.3	303,928	102.5	
補 助 金	0	14,176	—	2,160	15.2	
（府補助金）	(0)	(14,176)	—	(2,160)	15.2	
（国庫補助金）	(0)	(0)	—	(0)	—	
売 却 収 入	0	0	—	0	—	
（固定資産売却収入）	(0)	(0)	—	(0)	—	
投 資 収 入	0	0	—	0	—	
（看護師養成収入）	(0)	(0)	—	(0)	—	
（その他投資収入）	(0)	(0)	—	(0)	—	
他会計長期借入金	0	0	—	0	—	
寄付金	—	10,000	—	0	—	
(A)資本的収入合計	461,000	320,615	69.5	306,088	95.5	
施設費(建物改良費)	27,992	4,835	17.3	6,928	143.3	
固定資産購入費 （器械備品購入費）	78,357	37,544	47.9	39,263	104.6	
企業債償還金	612,125	620,964	101.4	651,694	104.9	
看護師養成費貸付金	3,340	3,856	115.4	4,008	103.9	
退 職 給 与 金	9,918	170,585	1,720.0	122,494	71.8	
他会計長期借入金返還金	0	0	—	0	—	
(B)資本的支出合計	731,732	837,784	114.5	824,387	98.4	
(A)－(B)資本的収支	△ 270,732	△ 517,169	191.0	△ 518,299	100.2	

貸借構成比較表

年度区分	23年度		24年度		25年度	
	金額 (千円)	金額 (千円)	対前年度比率	金額 (千円)	対前年度比率	
固定資産	8,538,709	8,216,593	96.23	7,908,657	96.25	
有形固定資産	13,551,693	13,502,666	99.64	13,429,142	99.46	
(減価償却累計額)	△ 5,023,190	△ 5,300,135	105.51	△ 5,538,555	104.50	
土地	1,026,407	1,026,407	100.00	1,026,407	100.00	
建物	9,297,342	9,301,947	100.05	9,308,545	100.07	
(同減価償却累計額)	△ 2,521,391	△ 2,717,682	107.79	△ 2,914,197	107.23	
構築物	192,259	192,258	100.00	192,258	100.00	
(同減価償却累計額)	△ 181,924	△ 181,963	100.02	△ 182,003	100.02	
車輜	0	0	-	0	-	
(同減価償却累計額)	0	0	-	0	-	
器械及び備品	3,035,685	2,982,054	98.23	2,901,932	97.31	
(同減価償却累計額)	△ 2,319,875	△ 2,400,490	103.47	△ 2,442,355	101.74	
建設仮勘定	0	0	-	0	-	
投資	10,206	14,062	137.78	18,070	128.50	
長期貸付金	0	0	-	0	-	
その他投資	10,206	14,062	137.78	18,070	128.50	
流動資産	1,373,927	995,312	72.44	1,071,449	107.65	
現金預金	363,531	53,083	14.60	88,866	167.41	
未収金	980,765	917,219	93.52	951,072	103.69	
貯蔵品	12,353	11,416	92.41	18,186	159.30	
前払金	17,278	13,594	78.68	13,325	98.02	
繰延勘定	193,160	269,458	139.50	309,939	115.02	
退職給与金	151,445	238,028	157.17	289,501	121.62	
控除対象外消費税額	41,715	31,430	75.34	20,438	65.03	
資産合計	10,105,796	9,481,363	93.82	9,290,045	97.98	
固定負債	1,446,935	1,274,523	88.08	1,100,902	86.38	
企業債	696,935	524,523	-	350,902	66.90	
他会計借入金	750,000	750,000	100.00	750,000	100.00	
その他固定負債	0	0	-	0	-	
流動負債	1,696,052	1,525,394	89.94	1,534,187	100.58	
一時借入金	1,350,000	1,050,000	77.78	1,100,000	104.76	
未払金	316,289	469,101	148.31	402,623	85.83	
その他流動負債	29,763	6,293	21.14	31,564	501.57	
預り金	29,763	6,293	21.14	31,564	501.57	
負債合計	3,142,987	2,799,917	89.08	2,635,089	94.11	
資本金	13,132,727	12,980,614	98.84	12,806,469	98.66	
自己資本金	5,883,804	6,180,243	105.04	6,484,171	104.92	
借入資本金	7,248,923	6,800,371	93.81	6,322,298	92.97	
企業債	7,248,923	6,800,371	93.81	6,322,298	92.97	
剰余金	△ 6,169,918	△ 6,299,168	102.09	△ 6,151,513	97.66	
資本剰余金	122,383	146,559	119.75	148,719	101.47	
寄附金	0	10,000	-	10,000	100.00	
国庫補助金	18,247	18,247	100.00	18,247	100.00	
府補助金	104,136	118,312	113.61	120,472	101.83	
欠損金	△ 6,292,301	△ 6,445,727	102.44	△ 6,300,232	97.74	
当年度未処理欠損金	△ 6,292,301	△ 6,445,727	102.44	△ 6,300,232	97.74	
資本合計	6,962,809	6,681,446	95.96	6,654,956	99.60	
負債資本合計	10,105,796	9,481,363	93.82	9,290,045	97.98	

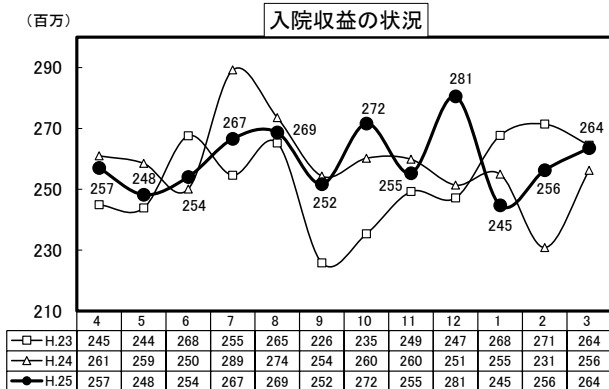
經 営 分 析 表

(単位:%)

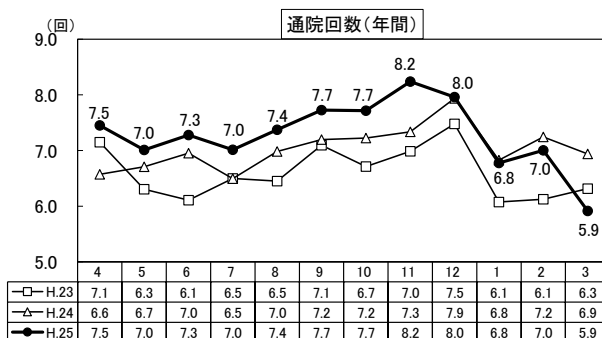
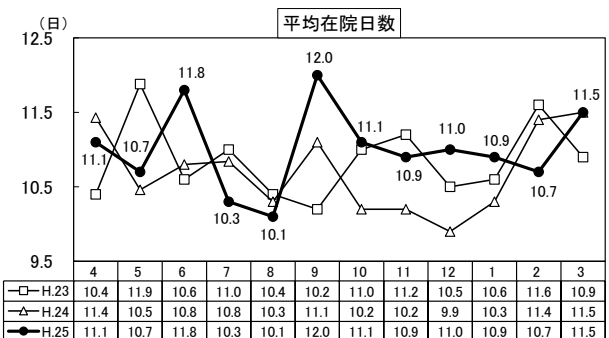
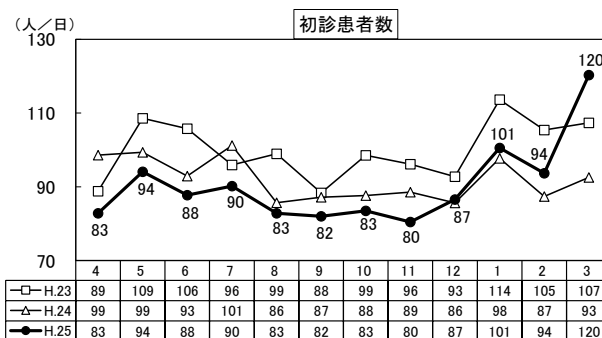
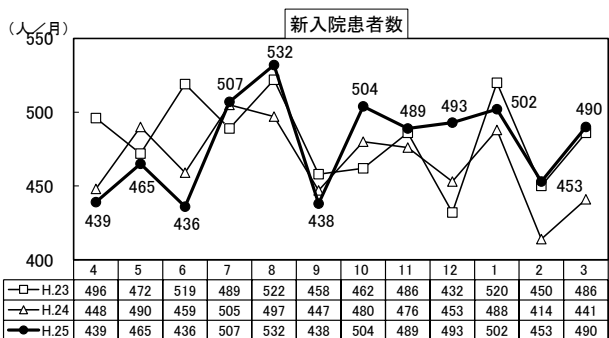
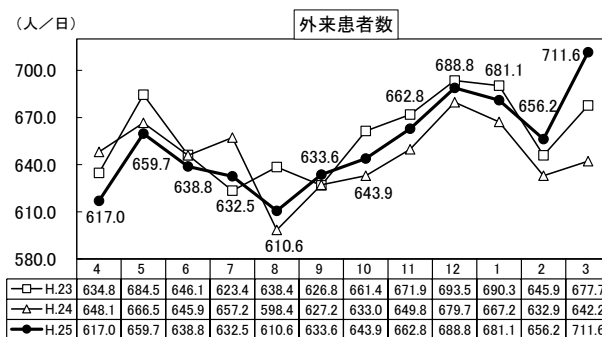
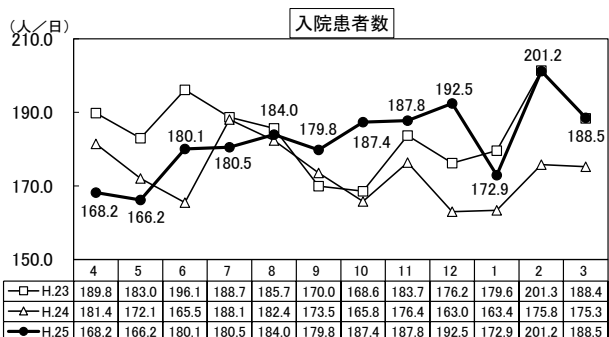
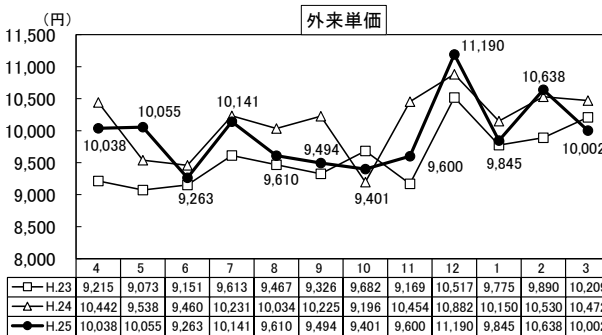
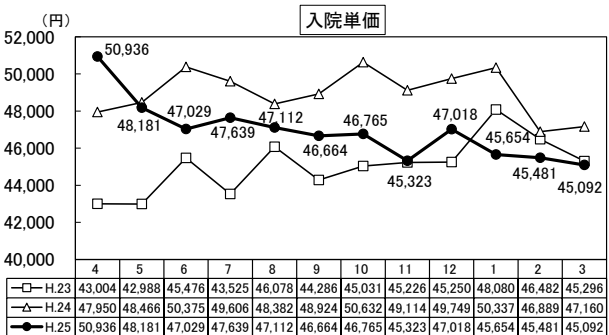
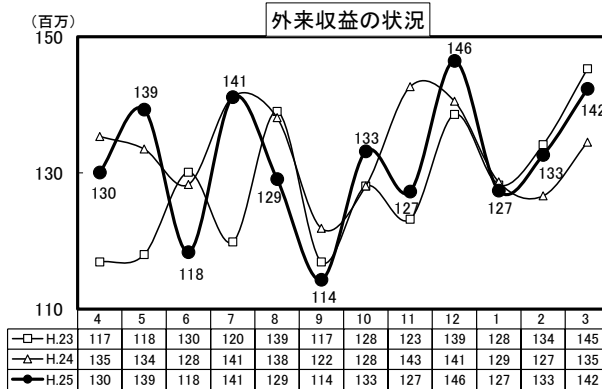
分析項目		23年度	24年度	25年度	算 式
構 成 比 率	1 固定資産構成比率	84.49	86.66	85.13	$\frac{\text{固定資産}}{\text{固定資産}+\text{流動資産}+\text{繰延勘定}} \times 100$
	2 流動資産構成比率	13.60	10.50	11.53	$\frac{\text{流 動 資 産}}{\text{総 資 産}} \times 100$
	3 固定負債構成比率	86.05	85.17	79.90	$\frac{\text{固定負債}+\text{借入資本金}}{\text{負債資本合計}} \times 100$
	4 流動負債構成比率	16.78	16.09	16.51	$\frac{\text{流 動 負 債}}{\text{負債資本合計}} \times 100$
	5 自己資本構成比率	-	-	3.58	$\frac{\text{自己資本}+\text{剰余金}}{\text{負債資本合計}} \times 100$
財 務 比 率	6 流動資産対固定資産比率	15.73	11.73	13.04	$\frac{\text{流 動 資 産}}{\text{固定資産}+\text{繰延勘定}} \times 100$
	7 固 定 比 率	-	-	2,377.00	$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{自己資本金}+\text{剰余金}} \times 100$
	8 流 動 比 率	81.01	65.25	69.84	$\frac{\text{流 動 資 産}}{\text{流 動 負 債}} \times 100$
	9 負 債 比 率	-	-	2,692.67	$\frac{\text{負債}+\text{借入資本金}}{\text{自己資本金}+\text{剰余金}} \times 100$
	10 不 良 債 務 比 率	6.57	10.63	8.91	$\frac{\text{流動負債}-\text{流動資産}}{\text{医業収益}} \times 100$
損 益 に 関 す る 比 率	11 給 与 比 率	57.61	57.23	56.40	$\frac{\text{給 与 費}}{\text{医業収益}} \times 100$
	12 材 料 比 率	21.59	19.64	17.62	$\frac{\text{材 料 費}}{\text{医業収益}} \times 100$
	13 経 常 収 支 比 率	94.77	94.52	99.60	$\frac{\text{医業収益}+\text{医業外収益}}{\text{医業費用}+\text{医業外費用}} \times 100$
	14 医 業 収 支 比 率	90.13	91.29	96.61	$\frac{\text{医 業 収 益}}{\text{医 業 費 用}} \times 100$
	15 累 積 欠 損 金 比 率	128.26	129.25	121.30	$\frac{\text{累 積 欠 損 金}}{\text{医 業 収 益}} \times 100$

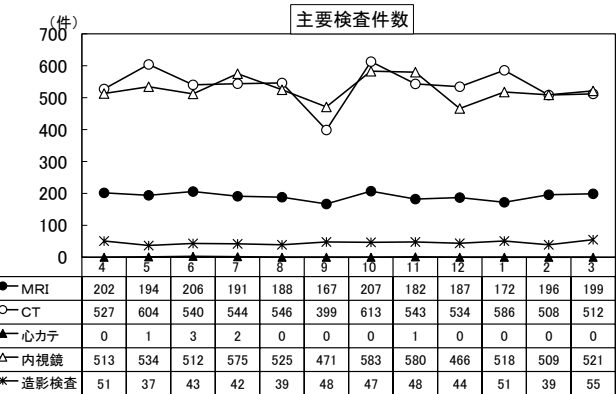
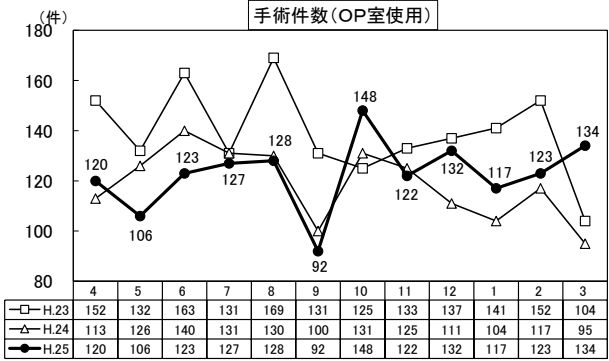
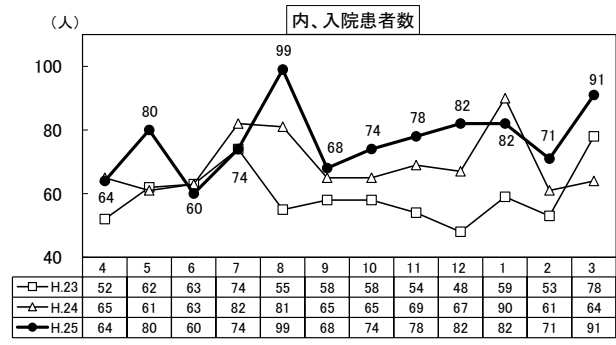
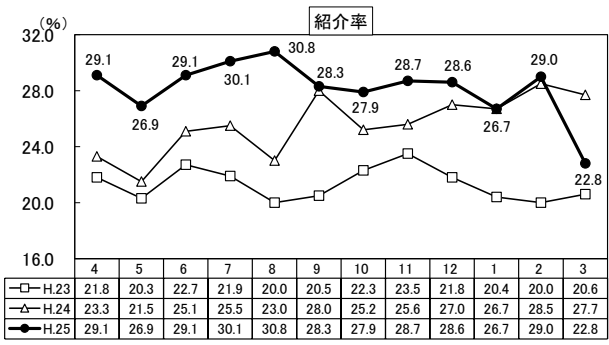
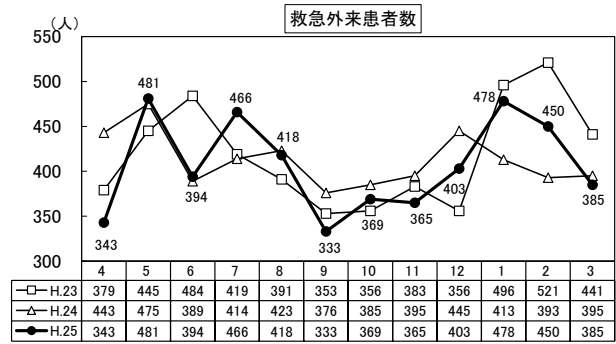
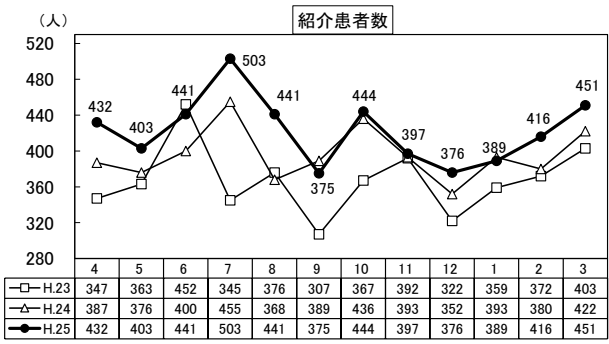
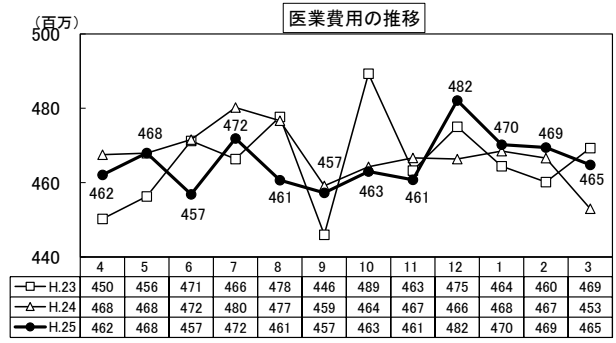
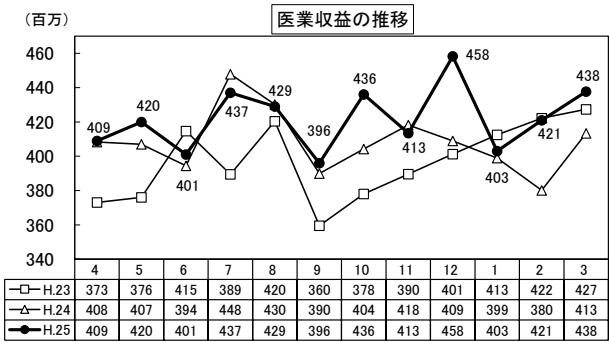
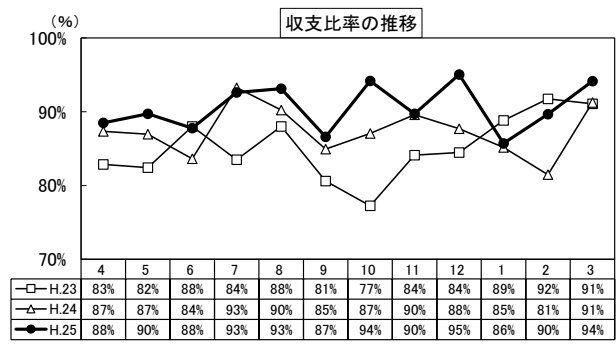
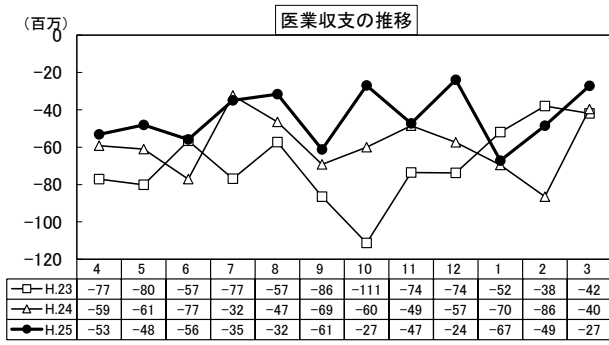
月次経営指標<全科計>

入院収益の状況



外来収益の状況





施設基準届出状況

平成26年3月31日現在

解釈番号	項目	点数(金額)	算定開始年月日
A100	一般病棟入院基本料(7対1)	1,566点	平成24年4月1日
A106	障害者施設等入院基本料	1,311点	平成25年3月1日
A204-2	臨床研修病院入院診療加算(基幹型)	40点	平成20年8月1日
A205	救急医療管理加算	800点	平成22年4月1日
A205-3	妊産婦緊急搬送入院加算	7,000点	平成20年4月1日
A207	診療録管理体制加算	30点	平成20年8月1日
A207-2	医師事務作業補助体制加算(25対1)	490点	平成23年3月1日
A207-3	急性期看護補助体制加算(50対1)	120点	平成23年11月1日
A211	特殊疾患入院施設管理加算	350点	平成25年3月1日
A219	療養環境加算	25点	平成21年11月1日
A234	医療安全対策加算2	35点	平成22年4月1日
A234-2	感染防止対策加算2	100点	平成25年6月1日
A234-3	患者サポート体制充実加算	70点	平成24年4月1日
A236-2	ハイリスク妊娠管理加算	1,200点	平成21年2月1日
A237	ハイリスク分娩管理加算	3,200点	平成21年2月1日
A238	退院調整加算	—	平成24年9月1日
A238-4	救急搬送患者地域連携紹介加算	1,000点	平成24年4月1日
A238-5	救急搬送患者地域連携受入加算	2,000点	平成22年4月1日
A243	後発医薬品使用体制加算2	28点	平成25年11月1日
A245	データ提出加算	100点	平成24年10月1日
A302	新生児特定集中治療室管理料1	10,011点	平成21年11月1日
A307	小児入院医療管理料3	3,611点	平成24年1月1日
—	入院時食事療養(I)	640円	昭和47年10月1日
B001 20	糖尿病合併症管理料	170点	平成25年9月1日
B001 22	がん性疼痛緩和指導管理料	200点・100点	平成23年9月1日
B001 23	がん患者カウンセリング料	500点	平成25年9月1日
B001 27	糖尿病透析予防指導管理料	350点	平成24年7月1日
B001-2-5	院内トリアージ実施料	100点	平成24年4月1日
B001-2-6	夜間休日救急搬送医学管理料	200点	平成24年4月1日
B001-2-7	外来リハビリテーション診療料	104点・69点	平成24年10月1日
B002	開放型病院共同指導料(II)	220点	平成15年6月1日
B005-2	地域連携診療計画管理料	900点	平成21年6月1日
B005-6	がん治療連携計画策定料	750点	平成23年3月1日
B005-8	肝炎インターフェロン治療計画料	700点	平成22年4月1日
B008	薬剤管理指導料	430点・380点・325点	平成22年4月1日
B011-4	医療機器安全管理料1	100点	平成20年4月1日
B011-4	医療機器安全管理料2	1,100点	平成20年4月1日
D023 5	HPV核酸検出	360点	平成23年2月1日
D026 注3	検体検査管理加算(I)	40点	平成20年4月1日
D026 注3	検体検査管理加算(II)	100点	平成23年11月1日
D215 3	胎児心エコー法	1,000点	平成26年1月1日
D211-3	時間内歩行試験	560点	平成24年6月1日
D291-2	小児食物アレルギー負荷検査	1,000点	平成22年4月1日
通則5	画像診断管理加算2	180点	平成20年4月1日
E200・E202	CT撮影及びMRI撮影	—	平成24年4月1日
E200 注4	冠動脈CT撮影加算	600点	平成23年12月1日
E200 注7	大腸CT撮影加算	600点	平成24年4月1日
E202 注4	心臓MRI撮影加算	300点	平成20年4月1日
F100 注7・F400 注5	抗悪性腫瘍剤処方管理加算	70点	平成25年11月1日
通則6	外来化学療法加算1	780点・580点・630点・430点	平成20年4月1日
H001	脳血管疾患等リハビリテーション料(II)	200点・190点	平成24年4月1日
H002	運動器リハビリテーション料(I)	175点	平成24年4月1日
H003	呼吸器リハビリテーション料(I)	170点	平成24年4月1日
H007-2	がん患者リハビリテーション料	200点	平成24年3月1日
J038 注9	透析液水質確保加算1	8点	平成22年5月1日
K476 注2	乳がんセンチネルリンパ節加算2	3000点	平成22年6月1日
K597・K579-2	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	15060点・7820点・4000点	平成22年9月1日
K600	大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	8780点・3680点	平成24年9月1日
K695-2	腹腔鏡下肝切除術	50600点・74880点	平成22年11月1日
K721-4	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	18370点	平成24年4月1日
K768	体外衝撃波腎・尿管結石破砕術	19300点	平成3年7月1日
K800-3	膀胱水圧拡張術	6950点	平成23年10月1日
—	手術の通則5及び6に掲げる手術	—	平成20年4月1日
K920-2	輸血管管理料II	110点	平成24年6月1日
K920-2 注2	輸血適正使用加算	60点	平成24年6月1日
K939-3	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	450点	平成24年6月1日
L009	麻酔管理料(I)	200点・900点	平成21年11月1日
M000 注2	放射線治療専任加算	330点	平成12年8月1日
M000 注3	外来放射線治療加算	100点	平成20年4月1日

平成25年度 診療収入集計表(科別)

入院の部	内科	小児科	新生児内科	外科・内視鏡外科	整形外科	産婦人科	眼科	耳鼻科	皮膚科	泌尿器科	麻酔科	放射線科	脳神経外科	合計
平成25年4月	79,699,292	17,286,228	19,819,910	48,546,294	2,525,847	44,544,409	6,778,288	70,850	2,059,987	15,799,076		35,280	19,857,770	257,023,231
” 5月	76,342,664	24,359,112	15,573,849	48,201,089	829,522	38,505,843	5,494,132	108,740	1,485,874	15,146,754		232,900	21,947,221	248,227,700
” 6月	75,095,746	22,490,848	17,441,240	41,733,846	5,156,004	46,641,550	7,795,376	107,730	263,442	14,437,211		239,400	22,647,606	254,049,999
” 7月	76,358,940	25,609,327	9,137,210	57,648,198	2,212,912	48,135,523	7,537,899	153,170	728,288	15,452,248			23,616,351	266,590,066
” 8月	81,528,123	20,413,091	13,329,450	55,164,484	1,675,018	53,728,900	5,100,860	1,235,850	531,714	13,263,148			22,712,090	268,682,728
” 9月	70,890,550	19,702,250	22,027,510	52,572,074	1,993,924	49,949,302	2,247,134	58,470	1,633,441	9,301,238		1,800	21,326,758	251,704,451
” 10月	81,898,291	20,611,094	20,045,284	61,411,595	2,037,264	40,913,244	8,713,850	101,970	751,442	10,996,173			24,129,800	271,610,007
” 11月	76,879,382	26,990,549	10,075,940	50,645,150	5,665,292	42,205,015	6,127,946	1,164,720	835,092	11,657,390		203,400	22,855,385	255,305,261
” 12月	87,422,398	21,351,920	16,562,000	57,038,762	4,270,657	48,085,238	7,260,622	89,910	839,317	14,861,020		126,000	22,600,974	280,508,818
平成26年1月	80,904,777	18,981,954	11,660,410	49,131,960	2,286,252	43,034,241	7,449,519	70,808	1,000,058	8,733,844			21,496,884	244,750,707
” 2月	75,520,070	25,305,798	12,674,380	61,296,554	710,577	37,687,809	6,665,662	79,970	1,524,059	14,396,648		110,100	20,267,820	256,239,447
” 3月	85,609,662	25,822,291	9,192,590	56,997,284	250	38,960,953	7,445,940	1,521,590	773,032	13,126,336		3,600	24,106,809	263,560,337
合計	948,149,895	268,924,462	177,539,773	640,387,290	29,363,519	532,392,027	78,617,228	4,763,778	12,425,746	157,171,086	0	952,480	267,565,468	3,118,252,752
占有率	30.4%	8.6%	5.7%	20.5%	0.9%	17.1%	2.5%	0.2%	0.4%	5.0%	0.0%	0.0%	8.6%	100.0%

外来の部	内科	小児科	新生児内科	外科・内視鏡外科	整形外科	産婦人科	眼科	耳鼻科	皮膚科	泌尿器科	麻酔科	放射線科	脳神経外科	合計
平成25年4月	40,836,159	40,879,268		10,687,050	2,533,183	9,203,972	4,504,220	2,432,570	1,966,009	10,231,751		3,351,400	3,430,049	130,055,631
” 5月	43,681,105	43,061,898		12,450,610	2,749,810	9,333,261	5,470,550	2,570,870	2,135,250	10,062,050		3,941,880	3,843,507	139,300,791
” 6月	40,665,092	29,066,966		11,600,300	2,690,720	9,085,168	4,303,235	1,982,190	2,181,263	9,130,883		3,865,200	3,779,700	118,350,717
” 7月	49,041,370	40,689,405		12,620,120	2,431,986	9,577,185	4,907,780	2,174,780	2,387,931	11,197,399		3,172,160	2,921,895	141,122,011
” 8月	44,074,863	34,238,244		12,725,165	2,407,365	9,021,989	5,568,380	2,755,820	2,382,540	9,594,437		3,231,270	3,088,697	129,088,770
” 9月	41,229,668	28,790,875		11,386,695	2,193,247	8,802,762	4,104,660	1,725,760	2,004,291	7,584,858		3,519,550	2,955,912	114,298,278
” 10月	47,082,077	28,953,924		14,154,547	2,318,431	10,051,200	6,810,050	2,430,580	1,998,719	10,415,384		4,774,370	4,178,458	133,167,740
” 11月	44,802,424	33,535,378		12,927,105	2,880,981	8,291,211	5,077,680	1,866,685	1,732,422	9,232,194		4,032,720	2,879,990	127,258,790
” 12月	43,252,301	54,732,505		12,487,840	2,571,200	9,117,425	4,817,361	2,406,980	1,570,939	10,357,690		2,425,200	2,707,307	146,446,748
平成26年1月	44,288,935	32,087,070		13,727,800	2,337,840	9,424,249	5,284,810	2,846,125	1,556,130	9,808,209		3,061,770	2,970,755	127,393,693
” 2月	43,030,866	38,475,830		13,884,924	2,022,890	8,039,379	6,248,710	2,767,555	1,541,758	9,388,604		4,118,450	3,111,440	132,630,406
” 3月	45,382,524	44,539,220		14,285,880	2,126,565	9,182,560	6,763,240	2,309,370	1,851,301	8,678,274		3,316,020	3,909,068	142,344,022
合計	527,367,384	449,050,583	0	152,938,036	29,264,218	109,130,361	63,860,676	28,269,285	23,308,553	115,681,733	0	42,809,990	39,776,778	1,581,457,597
占有率	33.3%	28.4%	0.0%	9.7%	1.9%	6.9%	4.0%	1.8%	1.5%	7.3%	0.0%	2.7%	2.5%	100.0%
総合計	1,475,517,279	717,975,045	177,539,773	793,325,326	58,627,737	641,522,388	142,477,904	33,033,063	35,734,299	272,852,819	0	43,762,470	307,342,246	4,699,710,349
占有率	31.4%	15.3%	3.8%	16.9%	1.2%	13.7%	3.0%	0.7%	0.8%	5.8%	0.0%	0.9%	6.5%	100.0%

※(入院)の「その他」⇒『医学管理等』『在宅医療』、「処置料」⇒『処置料』『リハビリ料』、「X線料」⇒『X線料』『放射線治療料』
 ※(外来)の「その他」⇒『院外処方箋料』、「再診料」⇒『再診料』『医学管理等』『在宅医療』、「処置料」⇒『処置料』『リハビリ料』、「X線料」⇒『X線料』『放射線治療料』

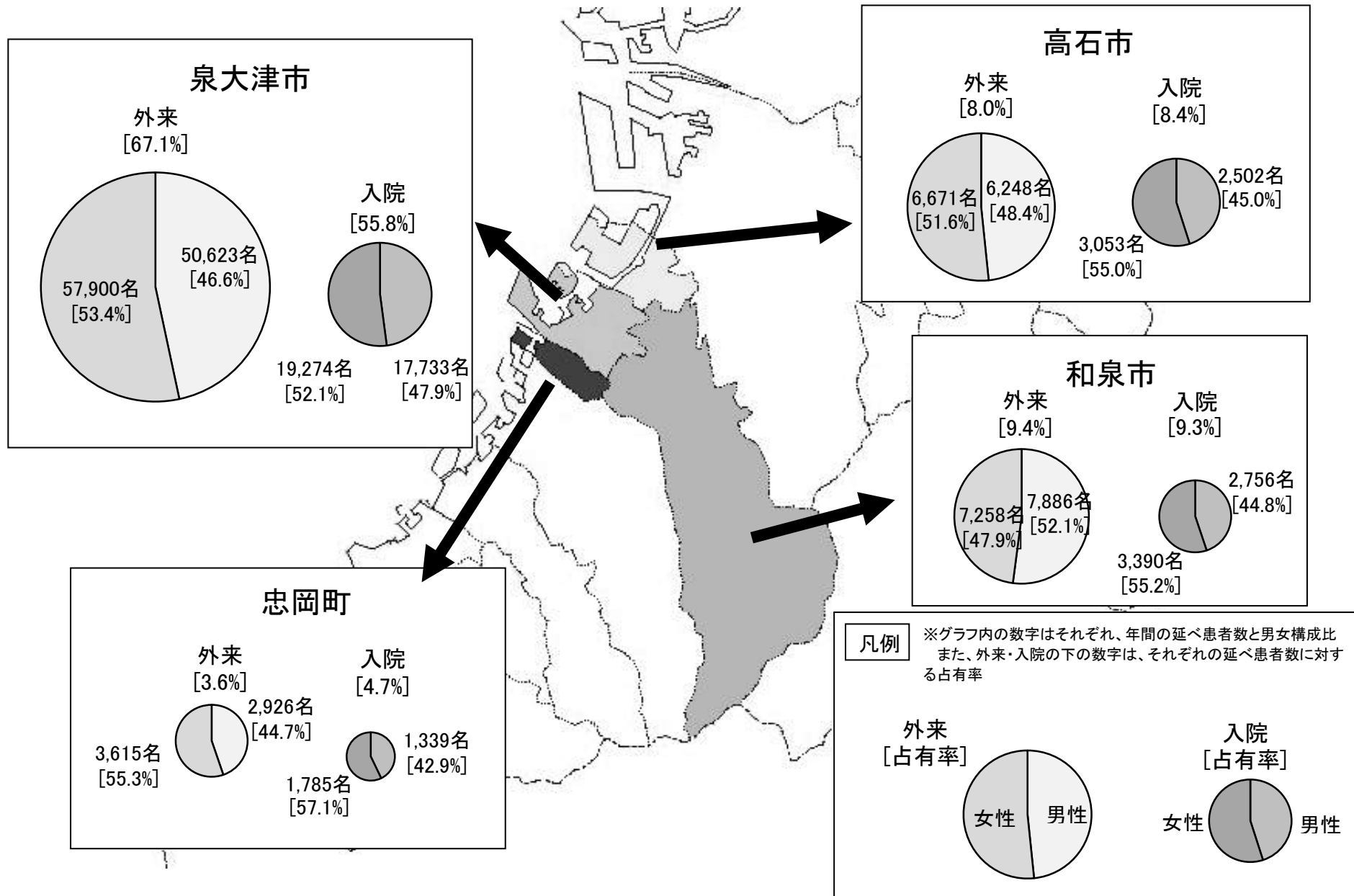
平成25年度 診療収入集計表(行為別)

入院の部	初診料		投薬料	注射料	処置料	検査料	X線料	入院料(DPC)	入院基本料	その他	手術料	分娩料	食事療養費	入院基本加算	合計
平成25年4月	422,400		1,201,241	928,801	10,426,810	4,093,187	450,150	115,169,360	45,272,162	2,905,806	47,791,064	11,121,550	7,675,322	9,565,378	257,023,231
" 5月	451,050		1,212,277	1,453,699	10,531,006	3,810,276	845,110	116,708,970	42,786,166	2,619,652	40,506,531	9,270,550	7,905,684	10,126,729	248,227,700
" 6月	382,600		1,241,490	840,175	11,580,133	3,924,567	851,370	117,319,820	46,412,206	2,594,351	40,560,182	11,182,000	8,616,962	8,544,143	254,049,999
" 7月	527,700		1,146,043	2,512,934	10,766,620	4,213,381	569,036	122,628,170	41,104,644	2,556,597	51,806,134	8,856,100	8,866,674	11,036,033	266,590,066
" 8月	622,150		1,535,407	1,074,672	11,188,003	4,130,867	560,672	125,010,150	43,092,196	3,108,638	45,932,012	11,184,600	9,031,375	12,211,986	268,682,728
" 9月	400,050		1,300,148	1,129,713	10,356,656	4,095,258	488,520	106,789,320	53,533,787	2,699,185	39,134,586	12,530,200	8,873,904	10,373,124	251,704,451
" 10月	538,630		1,351,280	1,838,516	10,860,642	3,954,518	620,192	123,888,214	48,726,678	2,747,283	48,173,301	9,655,800	9,363,758	9,891,195	271,610,007
" 11月	569,990		1,359,244	2,041,922	10,935,909	3,955,113	911,803	119,641,770	44,171,427	2,697,713	40,777,445	9,193,100	9,107,276	9,942,549	255,305,261
" 12月	454,750		1,625,628	820,226	11,475,389	4,007,998	730,395	129,016,300	48,134,793	3,384,696	49,712,815	10,818,450	9,796,962	10,530,416	280,508,818
平成26年1月	586,200		1,584,194	1,157,354	10,775,722	3,536,658	731,491	109,934,510	43,814,141	2,488,715	42,686,172	9,647,700	8,754,606	9,053,244	244,750,707
" 2月	398,550		1,552,661	1,329,120	10,587,699	3,171,388	821,934	119,104,280	43,785,870	3,231,142	48,471,082	7,084,200	9,119,668	7,581,853	256,239,447
" 3月	447,550		1,472,007	1,568,356	11,237,982	3,354,454	490,827	127,017,630	44,460,936	3,021,650	42,056,855	8,730,600	9,302,456	10,399,034	263,560,337
合計	5,801,620		16,581,620	16,695,488	130,722,571	46,247,665	8,071,500	1,432,228,494	545,295,006	34,055,428	537,608,179	119,274,850	106,414,647	119,255,684	3,118,252,752
占有率	0.2%		0.5%	0.5%	4.2%	1.5%	0.3%	45.9%	17.5%	1.1%	17.2%	3.8%	3.4%	3.8%	100.0%

外来の部	初診料	再診料	投薬料	注射料	処置料	検査料	X線料			その他	手術料				合計
平成25年4月	5,628,123	35,701,374	257,119	17,619,274	7,743,750	41,505,117	14,085,193			4,341,371	3,174,310				130,055,631
" 5月	6,807,120	38,303,999	370,842	17,533,640	7,693,556	43,920,129	16,072,945			4,549,470	4,049,090				139,300,791
" 6月	5,858,981	26,553,510	302,526	12,728,969	8,869,807	41,042,965	15,106,316			4,117,463	3,770,180				118,350,717
" 7月	6,768,178	35,861,479	298,373	18,395,555	9,366,150	45,967,924	13,566,736			4,557,606	6,340,010				141,122,011
" 8月	6,031,068	31,931,180	281,780	16,036,150	8,309,010	42,944,665	14,096,685			4,428,452	5,029,780				129,088,770
" 9月	5,000,200	26,089,999	232,865	17,164,732	8,651,414	36,661,379	13,797,118			3,967,901	2,732,670				114,298,278
" 10月	5,954,958	25,428,765	285,437	22,151,144	8,766,364	43,579,105	16,824,818			4,617,779	5,559,370				133,167,740
" 11月	5,355,369	26,616,752	297,755	20,535,305	8,644,103	41,652,540	14,808,815			4,289,591	5,058,560				127,258,790
" 12月	5,614,830	45,755,634	761,793	24,915,390	9,478,361	39,640,205	13,026,835			4,426,720	2,826,980				146,446,748
平成26年1月	6,702,055	22,456,260	529,575	23,585,510	9,267,934	41,676,186	14,647,335			4,198,918	4,329,920				127,393,693
" 2月	6,191,305	27,701,524	499,047	27,513,229	7,844,603	39,707,165	14,053,285			4,137,278	4,982,970				132,630,406
" 3月	6,849,115	30,947,300	551,447	28,124,440	8,773,042	43,752,169	13,835,525			4,536,434	4,974,550				142,344,022
合計	72,761,302	373,347,776	4,668,559	246,303,338	103,408,094	502,049,549	173,921,606			52,168,983	52,828,390				1,581,457,597
占有率	4.6%	23.6%	0.3%	15.6%	6.5%	31.7%	11.0%			3.3%	3.3%				100.0%
総合計	78,562,922	373,347,776	21,250,179	262,998,826	234,130,665	548,297,214	181,993,106	1,432,228,494	545,295,006	86,224,411	590,436,569	119,274,850	106,414,647	119,255,684	4,699,710,349
占有率	1.7%	7.9%	0.5%	5.6%	5.0%	11.7%	3.9%	30.5%	11.6%	1.8%	12.6%	2.5%	2.3%	2.5%	100.0%

※(入院)の「その他」⇒『医学管理等』『在宅医療』 「処置料」⇒『処置料』『リハビリ料』、「X線料」⇒『X線料』『放射線治療料』
 ※(外来)の「その他」⇒『院外処方箋料』、「再診料」⇒『再診料』『医学管理等』『在宅医療』 「処置料」⇒『処置料』『リハビリ料』、「X線料」⇒『X線料』『放射線治療料』

地域別・男女別患者数(平成25年度・年間)



疾病別大分類統計表(退院月別)

2013. 3. 31現在

分類		コード	4月			5月			6月			7月			8月			9月			上半期合計			
			件数	平均在院日数	死亡数	件数	平均在院日数	死亡数	件数	平均在院日数	死亡数	件数	平均在院日数	死亡数	件数	平均在院日数	死亡数	件数	平均在院日数	死亡数	件数	割合	平均在院日数	死亡数
I	感染症および寄生虫症	A00-B99	28	5.5	1	29	8.1	1	15	24.3	1	26	8.0		23	5.1		16	10.8		137	4.9%	9.1	3
II	新生物	C00-D48	51	15.8	2	67	16.5	8	69	13.2	5	71	13.8	5	76	13.8	5	56	10.4	3	390	14.0%	13.9	28
III	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	D50-D89	3	24.0	1	4	7.3		8	21.5	1	5	10.6		10	6.9		2	8.0		32	1.2%	12.8	2
IV	内分泌、栄養および代謝疾患	E00-E90	18	27.6		15	15.7		21	11.3		27	10.9		28	9.0		19	15.2		128	4.6%	14.1	
V	精神および行動の障害	F00-F99				1	2.0					1	28.0					2	5.0		4	0.1%	10.0	
VI	神経系の疾患	G00-G99	5	28.6		9	8.4		10	4.4		11	5.1		18	8.4		9	7.3		62	2.2%	8.6	
VII	眼および付属器疾患	H00-H59	18	5.2		16	5.3		20	5.3		14	5.6		14	5.8		4	3.0		86	3.1%	5.3	
VIII	耳および乳様突起の疾患	H60-H95	4	6.8		3	5.0		6	12.5		4	6.0		7	6.0		8	15.0		32	1.2%	9.5	
IX	循環器系の疾患	I00-I99	18	22.6	1	16	24.8		17	19.3	1	13	17.9	1	18	17.7		20	20.9		102	3.7%	20.6	3
X	呼吸器系の疾患	J00-J99	57	13.0	3	70	12.0	2	59	7.5	1	55	8.6	1	73	11.2	3	64	7.5		378	13.6%	10.0	10
X I	消化器系の疾患	K00-K93	75	8.7	1	49	7.4		65	8.8		68	7.7	2	86	8.4	2	69	6.7		412	14.8%	8.0	5
X II	皮膚および皮下組織の疾患	L00-L99	2	6.0		5	18.6	1	2	24.0		7	12.3		7	6.4		7	19.6		30	1.1%	14.0	1
X III	筋骨格系および結合組織の疾患	M00-M99	6	14.2		3	21.3		2	8.5		8	17.6		4	6.0		2	43.0		25	0.9%	16.7	
X IV	尿路性器系の疾患	N00-N99	24	11.3		22	9.0		32	14.8		38	11.3	1	46	11.4		28	12.4	1	190	6.8%	11.8	2
X V	妊娠、分娩および産褥	O00-O99	74	6.9		75	7.0		77	7.4		82	9.1		80	8.5		87	8.6		475	17.1%	8.0	
X VI	周産期に発生した病態	P00-P96	24	11.3		23	9.0		32	7.0		25	9.6		25	9.2		21	10.2		150	5.4%	9.2	
X VII	先天奇形、変形および染色体異常	Q00-Q99	1	4.0		3	44.0		3	11.3		7	8.0		4	6.5		2	4.5		20	0.7%	13.1	
X VIII	症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	R00-R99	18	12.3		17	9.1	2	3	3.7		7	5.0		1	5.0		1	6.0		47	1.7%	9.2	2
X IX	損傷、中毒およびその他の外因の影響	S00-T98	12	4.8		8	24.6		13	15.4		11	6.4		19	5.9		13	14.3		76	2.7%	10.8	
X X I	健康状態に影響を及ぼす要因および保健サービスの利用	Z00-Z99																						
合計			438	11.5	9	435	11.4	14	454	10.6	9	480	9.9	10	539	9.8	10	430	10.1	4	2776	100%	10.5	56

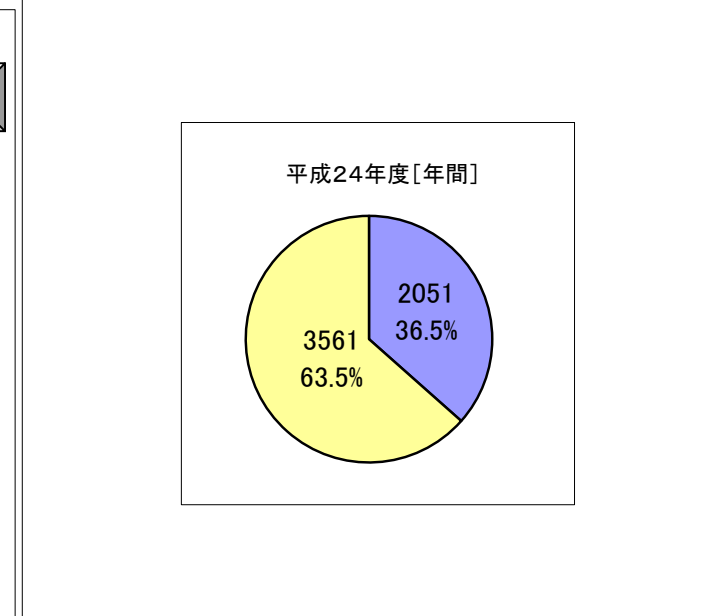
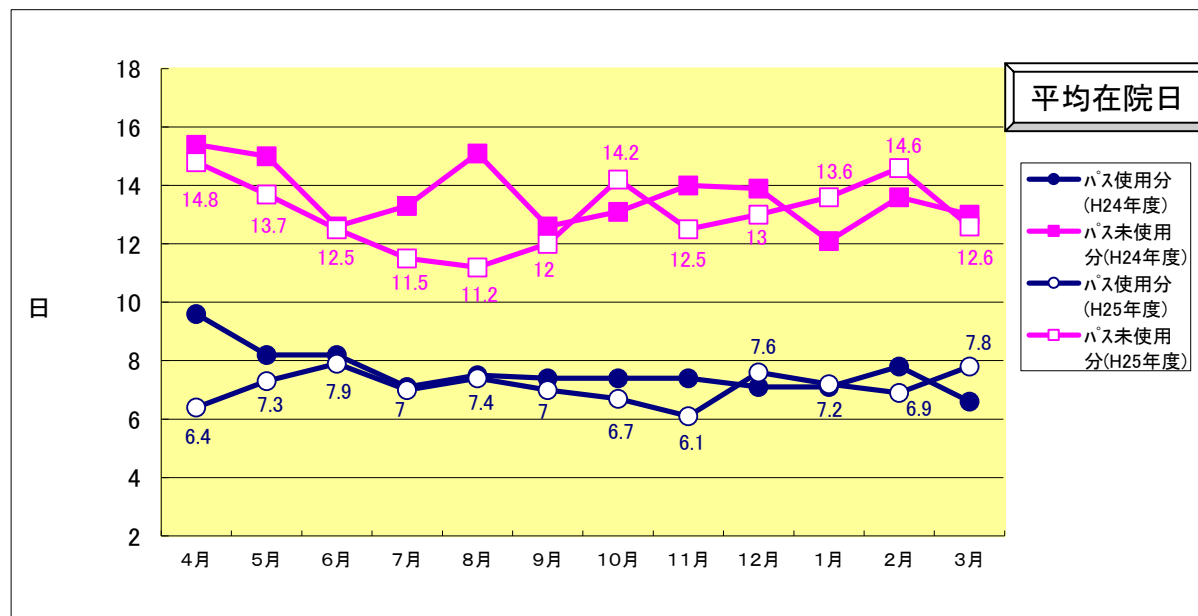
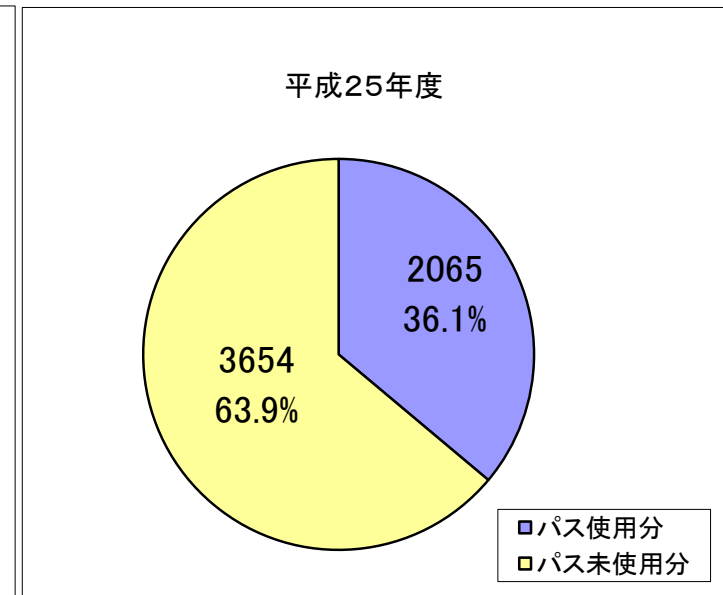
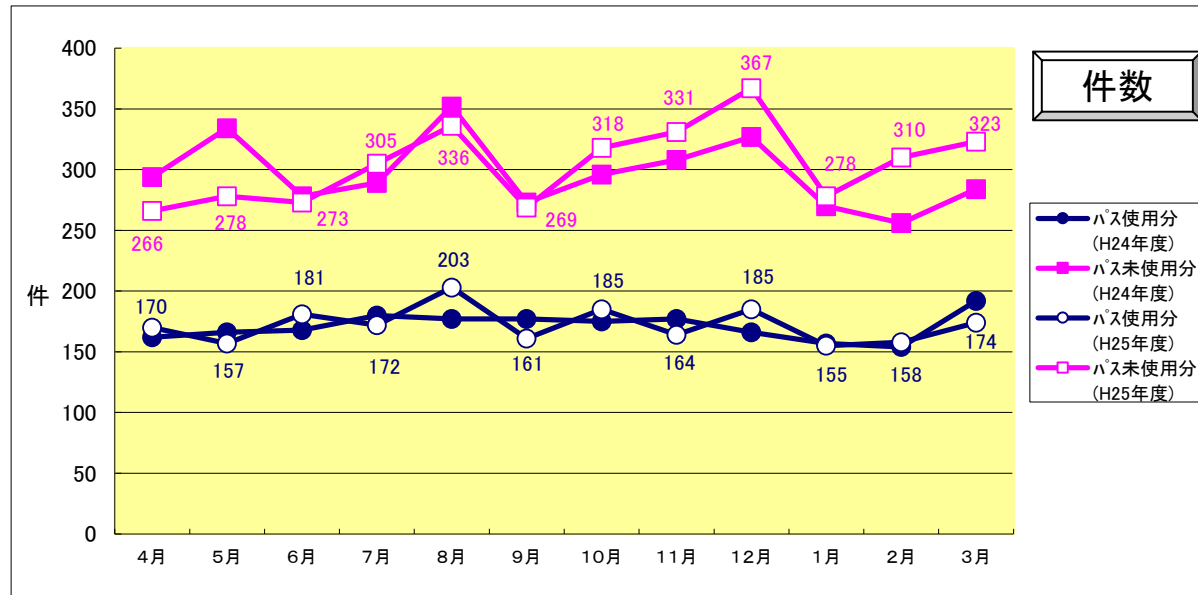
分類	コード	10月			11月			12月			1月			2月			3月			下半期合計				総合計				
		件数	平均在院日数	死亡数	件数	平均在院日数	死亡数	件数	平均在院日数	死亡数	件数	平均在院日数	死亡数	件数	平均在院日数	死亡数	件数	平均在院日数	死亡数	件数	割合	平均在院日数	死亡数	件数	割合	平均在院日数	死亡数	
I	感染症および寄生虫症	A00-B99	18	7.8		21	13.1	2	38	4.3		28	7		20	8	1	21	5		146	5.0%	7.2	3	283	4.9%	8.1	6
II	新生物	C00-D48	64	19.0	7	70	12.2	6	79	12.5		63	12	3	62	11	3	80	13	8	418	14.2%	13.4	27	808	14.1%	13.7	55
III	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	D50-D89	2	8.5		4	12.5		5	9.0		2	15		7	11		2	10		22	0.7%	10.9		54	0.9%	12.1	2
IV	内分泌、栄養および代謝疾患	E00-E90	17	15.3		13	15.2		21	10.4		17	9		18	13		26	9		112	3.8%	11.5		240	4.2%	12.9	
V	精神および行動の障害	F00-F99	2	4.0		2	4.0		4	23.8					4	15		3	15		15	0.5%	14.3		19	0.3%	13.4	
VI	神経系の疾患	G00-G99	21	4.4		12	4.2		12	10.3		12	36		11	10		9	3		77	2.6%	10.9		139	2.4%	9.9	
VII	眼および附属器疾患	H00-H59	21	4.8		23	4.7		19	4.9		18	5		17	4		18	5		116	3.9%	4.8		202	3.5%	5.0	
VIII	耳および乳様突起の疾患	H60-H95	10	10.5		3	6.7		16	5.2		2	10					3	9		34	1.2%	7.5		66	1.2%	8.5	
IX	循環器系の疾患	I00-I99	20	27.8	2	15	18.9	2	22	23.9	3	12	24		18	51	2	13	30	1	100	3.4%	29.7	10	202	3.5%	25.1	13
X	呼吸器系の疾患	J00-J99	82	10.7	4	95	10.3	1	62	14.8	4	67	8	1	76	10	1	92	12	4	474	16.1%	11.1	15	852	14.9%	10.6	25
X I	消化器系の疾患	K00-K93	80	7.2		77	8.7	1	98	9.9	1	65	8	1	71	9		88	9		479	16.2%	8.6	3	891	15.6%	8.3	8
X II	皮膚および皮下組織の疾患	L00-L99	4	27.8		3	34.7		7	24.4		4	13		8	12		5	12		31	1.1%	19.2		61	1.1%	16.6	1
X III	筋骨格系および結合組織の疾患	M00-M99	3	23.3		3	3.3		4	12.5		6	28		6	25		4	31		26	0.9%	22.0		51	0.9%	19.4	
X IV	尿路器系の疾患	N00-N99	40	14.7	2	42	14.4		38	13.4		22	20	1	34	14	3	34	17	2	210	7.1%	15.3	8	400	7.0%	13.6	10
X V	妊娠、分娩および産褥	O00-O99	73	7.7		78	7.5		83	9.8		78	7		70	9		66	7		448	15.2%	8.1		923	16.1%	8.0	
X VI	周産期に発生した病態	P00-P96	28	11.8		25	10.6		26	9.1		26	7		35	8		21	9		161	5.5%	9.3		311	5.4%	9.2	
X VII	先天奇形、変形および染色体異常	Q00-Q99	3	26.7		3	2.7		3	2.3		3	3		1	2		2	4		15	0.5%	7.5		35	0.6%	10.7	
X VIII	症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	R00-R99				1	6.0		3	13.3		3	5					1	2		8	0.3%	7.8		55	1.0%	9.0	2
X IX	損傷、中毒およびその他の外因の影響	S00-T98	15	3.3		5	9.4		12	10.4		5	86		10	21		9	9		56	1.9%	16.8		132	2.3%	13.4	
X X I	健康状態に影響を及ぼす要因および保健サービスの利用	Z00-Z99																										
合計			503	11.4	15	495	10.4	12	552	11.2	8	433	11.3	6	468	12.0	10	497	10.9	15	2948	100%	9.3	66	5724	100%	9.9	122

クリニカルパス統計資料[No. 1]

診療科	パス名	H25.4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H26.1月	2月	3月	合計	
内科	DM教育	件数	11	6	11	7	10	6	5	4	5	9	8	12	94
		平均在院日数(日)	11.6	11.5	11.1	11.1	11.3	10.0	11.6	10.5	11.2	11.1	12.5	12.7	11.5
内科	CF/ポリペク	件数	16	9	14	21	19	17	18	13	11	13	15	14	180
		平均在院日数(日)	2.0	2.3	2.0	2.5	2.2	2.0	2.1	2.2	2.2	2.0	2.0	2.0	2.1
内科	心カテ	件数													0
		平均在院日数(日)													—
内科	肝局所療法	件数													0
		平均在院日数(日)													—
内科	肺炎・気管支炎	件数													0
		平均在院日数(日)													—
内科	ESD	件数	2	3	6	3	2	4	5	4	10	2	4	4	49
		平均在院日数(日)	9.0	9.3	8.0	8.3	5.0	8.0	8.4	9.5	8.1	9.5	9.5	8.5	8.4
小児科	肥満	件数													0
		平均在院日数(日)													—
外科	乳房切除術	件数	5	5	3	3	6	9	2	5	9	2	3	4	56
		平均在院日数(日)	7.0	10.6	8.7	7.7	7.8	12.6	8.5	6.4	8.9	10.5	7.0	6.3	8.8
外科	胆のう摘出術(腹腔鏡下)	件数	4	5	4	2	4	4	8	2	4	3	5	6	51
		平均在院日数(日)	8.0	8.6	17.8	10.0	9.5	11.0	10.9	9.5	14.5	12.0	8.0	13.5	11.2
外科	胆のう摘出術(開腹)	件数							1		1				2
		平均在院日数(日)							8.0		6.0				7.0
外科	胃切除術 B-I	件数		1	1	2	2		3	2	1	2		2	16
		平均在院日数(日)		20.0	16.0	12.5	17.0		23.3	20.5	15.0	20.0			18.5
外科	胃切除術 全摘出術	件数					1		2		1			1	5
		平均在院日数(日)					20.0		22.0		24.0				25.0
外科	痔核根治術(ヘモ)	件数			1	2	3	3	3	2	1		1	2	18
		平均在院日数(日)			8.0	7.5	14.3	8.7	6.7	6.5	3.0		3.0	10.0	8.4
外科	ヘルニア(児)1泊入院	件数	5		3	2	4	3	3	7	6	3	4	2	42
		平均在院日数(日)	2.0		2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.1	3.7	2.0	2.0	2.0	2.3
外科	虫垂炎	件数	2	3	3	6	1	1	4	3	1	1			25
		平均在院日数(日)	6.0	6.7	7.7	6.5	6.0	4.0	14.0	6.7	8.0	7.0			7.8
外科	大人ヘルニア	件数	7	3	2	2	12	6	4	5	4	3	10	8	66
		平均在院日数(日)	7.1	6.7	10.5	6.5	7.2	6.2	7.0	7.8	6.0	5.7	7.1	7.8	7.1
外科	肝局所療法	件数			2	1									3
		平均在院日数(日)			2.0	2.0									2.0
外科	CF/ポリペク	件数									1				1
		平均在院日数(日)									2.0				2.0
外科	結腸切除術	件数	4	4	2	3	7		6	2	4	4	5	2	43
		平均在院日数(日)	17.8	21.0	28.5	17.3	19.9		16.5	21.5	17.8	28.0	16.8	17.0	19.7
外科	ヘルニア(腹腔鏡下)	件数			2	3	1				1	1	1	2	11
		平均在院日数(日)			6.5	6.7	2.0				5.0	11.0	14.0	10.5	7.8
外科	PEG(胃ろう)	件数		1	2	4	1	1	1	2	2			3	17
		平均在院日数(日)		8.0	52.5	24.5	85.0	12.0	6.0	5.5	29.0				24.7
外科	ESD	件数					1						1		2
		平均在院日数(日)					9.0						9.0		9.0
外科	開胸肺葉切除術(胸腔鏡下)	件数	2	2	3	1	1	3	2	1	3	1	3	1	23
		平均在院日数(日)	10.0	8.0	9.3	9.0	7.0	13.0	21.0	12.0	5.3	10.0	8.3	9.0	10.1
外科	気管支鏡検査	件数	2	3	2	2	4	3		3	2	3		1	25
		平均在院日数(日)	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	8.7		2.0	2.0	2.0		2.0	2.8
外科	直腸低位前方切除術	件数	2	3	3	1	1	3		1		1		2	17
		平均在院日数(日)	16.0	17.7	18.7	22.0	29.0	26.0		10.0		57.0		29.5	23.3

診療科	パ ス 名		H25.4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H26.1月	2月	3月	合計
産婦科	分娩前	件 数	2	2	1	3	1	1	2	2		2	1	1	18
		平均在院日数(日)	1.5	1.5	1.0	2.3	1.0	2.0	2.0	3.0		2.5	1.0	5.0	2.1
産婦科	円錐切除	件 数	1		1		2		1	1	2		1	2	11
		平均在院日数(日)	5.0		4.0		6.0		5.0	4.0	5.0		4.0	4.5	4.8
産婦科	人工中絶	件 数	3	4	2	2	4	2	2	3	2	3	2		29
		平均在院日数(日)	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
産婦科	稽留流産	件 数	3	5	3	4	7	2	4	4	4	9	7	6	58
		平均在院日数(日)	1.0	1.2	1.0	1.3	1.4	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.7	1.0
産婦科	分娩	件 数	51	45	52	51	42	60	51	40	54	53	35	48	582
		平均在院日数(日)	6.5	6.6	7.5	7.4	7.0	6.8	6.4	6.5	8.0	7.1	6.4	6.6	6.9
産婦科	帝王切開	件 数	8	12	9	6	14	10	6	11	12	5	11	5	109
		平均在院日数(日)	8.8	15.0	9.7	9.7	12.4	10.8	9.8	11.1	14.4	16.4	13.8	9.8	12.1
産婦科	子宮筋腫・卵巣腫瘍	件 数	2	1	4	5	5	1	1				2		21
		平均在院日数(日)	10.0	10.0	7.8	11.6	8.8	5.0	10.0					10.0	
産婦科	ラパロ皮様嚢腫 ・ラパロ単純嚢腫	件 数													0
		平均在院日数(日)													
眼科	腹腔鏡手術	件 数									2	1	2	1	6
		平均在院日数(日)										4.5	10.0	6.0	5.0
眼科	白内障	件 数	15	13	19	14	11	2	21	22	18	17	15	16	183
		平均在院日数(日)	5.3	5.7	5.4	5.2	6.2	3.0	4.8	4.7	4.9	5.1	4.3	5.4	5.1
泌尿科	TUR-P	件 数	2	1	1	1	1							2	10
		平均在院日数(日)	12.5	15.0	15.0	15.0	13.0							13.5	14.5
泌尿科	TUR-BT	件 数	3	5	5	5	3	3	3	4	7	4	3	6	51
		平均在院日数(日)	9.0	7.4	10.2	9.2	8.0	9.3	8.0	11.8	9.4	7.8	9.0	8.3	9.0
泌尿科	ESWL	件 数	4	3	5	4	9	4	5	6	4	1	3	5	53
		平均在院日数(日)	4.3	2.3	2.4	2.8	3.6	2.3	3.0	2.3	2.8	2.0	11.0	2.4	3.3
泌尿科	前立腺生検	件 数	5	7	2	1	5	3	3	6	3	3	3	3	44
		平均在院日数(日)	3.8	3.9	4.0	4.0	6.8	4.7	4.0	4.0	3.3	3.3	3.3	3.3	4.1
泌尿科	精巣固定術	件 数		1		1	3				1				6
		平均在院日数(日)		5.0		2.0	2.0				2.0				2.5
泌尿科	D-J挿入・交換	件 数	1		2		1	1	1	1	1	1	2	1	12
		平均在院日数(日)		3.0	5.5		3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	4.0	6.0	3.0	49.0
泌尿科	BCG膀胱注入	件 数			1	1				1	1				4
		平均在院日数(日)			11.0	7.0				11.0	10.0				9.8
耳鼻咽喉科	アデノイド・チュービング	件 数	1	1	1						1	1		1	6
		平均在院日数(日)	3.0	3.0	3.0						3.0	3.0		3.0	3.0
耳鼻咽喉科	鼻内視鏡術	件 数	3	1	5	3	3	3	5	1	1	1	4	4	34
		平均在院日数(日)	4.7	5.0	4.6	4.0	5.0	3.7	3.8	5.0	4.0	4.0	4.0	5.3	4.4
耳鼻咽喉科	扁桃腺摘出術(小児)	件 数	2	2	1	2	6	1	1	2	1	2	2	5	25
		平均在院日数(日)	5.5	6.5	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.6	5.3
整形外科	THR	件 数					1								1
		平均在院日数(日)					4.0								4.0
整形外科	大腿骨頭部骨折	件 数			1										1
		平均在院日数(日)			22.0										22.0
脳神経外科	ルンバル後1日入院	件 数	3	5	2	4	5	5	12	4	4	4	5	2	55
		平均在院日数(日)	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.6	2.3	2.0	5.5	2.0	8.0	2.0	2.9
合 計		件 数	170	157	181	172	203	161	185	164	185	155	158	174	2,065
		平均在院日数(日)	6.4	7.3	7.9	7.0	7.4	7.0	6.7	6.1	7.6	7.2	6.9	7.8	7.1

クリニカルパス統計資料[No. 2]



8

地域医療連携室

8. 地域医療連携室

【概要】

平成25年度は、前年度に続き経営統括監及び今年度から新たに就任した病院事業管理者の指導の下、明確な年度目標を設定し、紹介患者の増加に取り組むとともに、業務の効率化を目指して前方・後方連携の分業化を推進しました。

前方連携の成果として、紹介患者数については、6,858件となり、過去5年間に於いて最も多かった平成20年度の実績を大きく上回りました。

また、昨年度から継続してNASVA病床のPRを積極的に行った事により、4月から16床の全病床が稼働しましたが、翌5月に満床運用となりました。

後方連携の成果としては、分業体制を明確にしたことにより、5名で分担していた退院支援をMSW3名で担うことができました。MSWの責任者を明確にし、アウトリーチ的支援を行った結果、前年度は221名の支援患者数に対し、今年度は365名の支援を行うことができ、支援患者数が前年度対比で62%増加しました。また、退院支援に要した平均日数についても、前年度の18.3日から今年度は16.9日に短縮することができました。

今後はさらに、業務の質を向上させることにより、病診連携の強化と病院収益の改善を目指します。

【職員構成】

○室長：竹林 忠洋（診察局次長）

○事務職員：池側 浩正（室長補佐）

○看護師：城家 優子
宇多津 志保子

○MSW：平松 大和
西本 卓司
鎌田 裕加里

○事務職員：北野 真由美

○予約センター：法橋 知子
加川 ひとみ

【業務実績】 《平成25年度集計》

○予約センター（予約関連業務※）

15,738件

※診療予約・予約変更・予約確認、問い合わせ、担当科へ取次ぎを含む。

○医療機関からの診療予約

1,300件

○医療機関からの検査予約

検査内容	件数
MR I	766
C T	566
上部消化管内視鏡	624
下部消化管内視鏡	454
腹部エコー	59
胃透視	1
PEG造設 PEG交換	31
甲状腺エコー	10
脳波	5
注腸	1
頸動脈エコー	2
心エコー	9
その他	19
合計	2,547

○医療相談（地域医療連携室対応分）

相談内容	件数
入院・外来について	1,157
病診連携について	11,543
医療・福祉に関して	352
料金について	15
苦情	3
その他	114
合計	13,184

平成 2 5 年度 病院年報

発 行 泉大津市立病院
泉大津市下条町 1 6 番 1 号
